

寄

贈

中央道建設地域内埋蔵文化財  
緊急分布調査報告書

—昭和42年度—

1968.3

長野県教育委員会



## はしがき

長野県教育委員会  
教 育 長 横 内 秀 雄

久しく懸案されている中央高速自動車道建設のための着工命令が昭和35年7月、建設大臣によつて発令され、この路線設定のための諸準備が開始された。そして予定路線の概略が日本道路公団から発表された。一方本県としては、この対策本部が組織され、本委員会は文化財保護対策の部門を担当することになった。

このため路線距離 123km の路線を中心に巾500mの範囲について、埋蔵文化財所在状態を調査する必要に迫られる。

幸い文化財保護委員会の指導と国費補助を受けることになり、計画路線発表の段階に基いて、それぞれ調査を実施した。その結果 380 遺跡の概要がは握され、このうち 3 分の 1 が路線内に所在することが予察される結果を得た。

今後、道路公団との事前協議により、その保護について万全を期するので、関係各位のご協力を切にお願い申しあげたい。

この調査にあたり、ご指導いただいた文化財保護委員会、調査実施に当られた長野県考古学会等の調査員の方々、地元教育委員会の各位に厚くお礼を申し上げる。

この書が保護施策のために活用されることを切望する次第である。

## 目 次

1.	諏訪地区	1
	富士見町地区	2
	原村地区	4
	茅野市地区	6
	諏訪市湖南地区	11
	諏訪市豊田地区	14
	岡谷市葵地区	15
	岡谷市川岸地区	15
2.	上伊那地区	20
	飯島町地区	28
	駒ヶ根市地区	35
	宮田村地区	40
	南箕輪村地区	44
	箕輪町地区	48
	伊那市	49
3.	下伊那地区	58
	阿智村地区	59
	飯田市山本・伊賀良地区	66
	飯田市上飯田地区	71
	上郷村地区	74
	飯田市座光寺地区	76
	高森町地区	79
	松川町地区	80

## さし図目次

1図 西訪地区遺跡分布図	2
2図 上伊那地区遺跡分布図	27
3図 下伊那地区遺跡分布図	59

## 図版目次

番号	写真名	遺跡名
1	縄文中期土器	小野川平林遺跡
2	石製模造品	小野川端遺跡
3	タと石鐵器	〃
4	弥生後期土器	柏原A遺跡
5	弥生式石器	大門原A遺跡
6	縄文中期土器	大門原C遺跡
7	古墳全	大塚古墳
8	縄文早期土器	正木原I遺跡
9	縄文後期土器	追波瀬遺跡
10	縄文中期土器	渡戸原I遺跡
11	〃	庚申原
12	〃	〃
13	遺跡全景	赤穂新田原遺跡
14	縄文中期土器	高河原遺跡
15	タ	戸沢遺跡
16	塔	松宮広垣外遺跡
17	遺跡全景	大芝原東遺跡
18	調査入ナツ	大原利遠遺跡
19	遺跡全景	久徳神宮裏古遺跡
20	古墳全景	長原宮原遺跡
21	遺跡全景	橋志原元屋遺跡
22	〃	平元屋遺跡



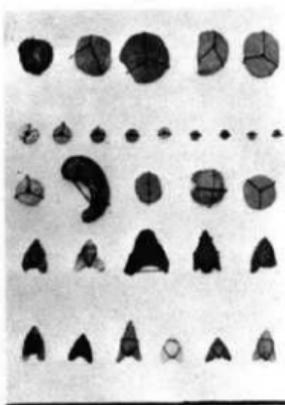
①



②



④



③



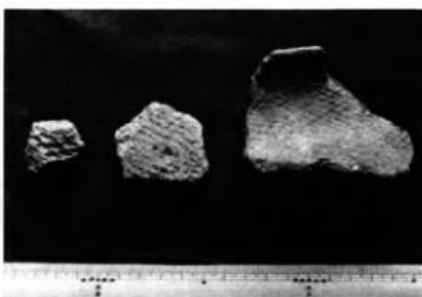
⑤



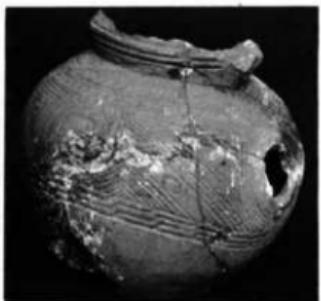
⑥



⑦



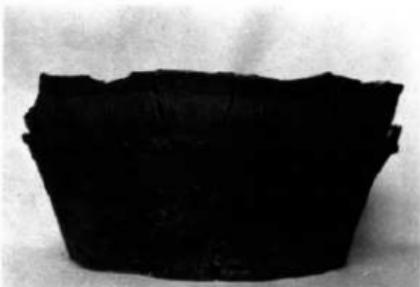
⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



⑯



⑰



⑯



⑰



⑯



⑰

# 1 諏訪地区

調査期日 昭和42年11月27日から昭和42年12月15日まで

調査団 団長 藤森栄一。

桐原健、武藤雄六、宮坂虎次、宮坂光昭、中村竜雄、林賢、武藤盈

## 1 調査経過

昭和42年7月22日付、県より中央自動車道諏訪開発地域埋蔵文化財集急分布調査調査員に委嘱され、昭和42年11月10日に諏訪地方事務所内町村会議室にて、打合せ会が開かれた。

調査団の編成は次の通りである。

団長 藤森 栄一	日本考古学協会員	諏訪市和泉町
桐原 健	"	茅野市ちの仲町
武藤 雄六	"	諏訪郡郡富士見町境
宮坂 虎次	"	茅野市豊平南大塩
宮坂 光昭	"	諏訪市湯の脇3区
中村 竜雄	"	諏訪郡下諏訪町下原
林 賢	長野県考古学会員	岡谷市銀座一丁目
武藤 盈	"	諏訪郡富士見町境

調査期日は打合せ会より17日おくれて11月27日より開始し、12月15日をもつて終了した。

即ち、諏訪地区を富士見、原、茅野、諏訪湖南、諏訪豊田、岡谷湊、岡谷川岸の七地区に細分し次の日程で調査した。

(1) 富士見地区 12月1日、〃2日、〃15日、

始めの二日間は共に人夫3人を使い、調査員3人と4人で行い、15日には2人で更に区域内を一巡し調査洩れを防いだ。

(2) 原村地区 11月27日、〃29日、〃30日

遺跡は少ないが交通不便のため3日間を費した。調査員延14名が、人夫を毎日4名案内に頼み探訪した。

(3) 茅野地区 12月1日、〃2日、〃4日、〃15日、

調査員延10名で3日間、人夫9人を勤員して南方の金沢区御狩野からちの地区まで踏査した。更に15日に桐原、宮坂(虎)は車を駆つて一巡。

(4) 諏訪市豊田、湖南、中州地区、12月9日、〃11日の両日、調査員9名で調査。交通不便なため時間遅くまで歩く。15日には中村、林が完壁を期してもう一回踏査した。

(5) 諏訪市豊田地区、12月4日、〃5日、本地域は昭和41年新産調査時に踏査したところ、したがつて、現地踏査よりも切図トレースの方に時間をかける。調査員延4名、人夫延4名。

(6) 岡谷市湊地区、1月29日、〃30日、この地域も昨年に調査を行なつた。調査員延4名と人夫延4名で現地の踏査と切図のトレースを行なう。

(7) 岡谷市川岸地区、12月5日～8日、この地域は例の塩嶺トンネル反対の地域にて調査は実に困難をきわめた。又遺跡数も多く4日間を費している。調査員延13名、人夫延12名。

調査結果、昨年調査の地区をふくめて90遺跡を調査した。

富士見地区11ヶ所、原村々9ヶ所、茅野々17ヶ所、諏訪・中州・湖南々11ヶ所、豊田々10ヶ所、岡谷湊々17ヶ所、川岸々14ヶ所である。

## 2 遺 跡 分 布

(1)鹿の沢上、(2)清水、(3)三十三番、(4)大泉、(5)当内、(6)足場、(7)二ノ沢(8)徳久利、(9)一ノ沢、(10)手洗沢、(11)御射山下、(12)南原、(13)御射山北、(14)猿沢、(15)山の神尾根、(16)大石、(17)一本松下、(18)阿久、(19)前尾根、(20)比須原、(21)頭駿沢、(22)頭駿沢上、(23)御狩野、(24)古星敷、(25)雨路塚古墳、(26)林の峠、(27)瓢久保、(28)御射宮司、(29)四ツ塚古墳、(30)下塙河原、(31)家下、(32)鶴沢古墳、(33)前宮、(34)神長宮裏古墳、(35)御朝、(36)庵宿神塚古墳、(37)庵宿神塚、(38)フネ古墳、(39)片山古墳、(40)湯の上、(41)双子塚古墳、(42)荒神山、(43)城山、(44)福松、(45)南沢、(46)御星敷、(47)山姥塚古墳、(48)本城、(49)北山ノ神古墳、(50)～(76)は昭和41年調査済、(77)橋原、(78)渡矢、(79)延原、(80)橋久保、(81)志元星敷、(82)山神平、(83)大塚古墳、(84)松ヶ保、(85)峯畑、(86)盆地、(87)昌福寺、(88)原沢、(89)地善、(90)六地在冢、

## 3 各遺跡の状況

### (1) 鹿の沢上遺跡

所 在 地 諏訪郡富士見町境先達 3640 3639 (750m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月1日

調 査 者 武藤進六 武藤盈 宮坂光昭

#### 調査状況

鹿の沢川に隣接する台地の東斜面に位置し、現状は全面畑地である。遺物は縄文中期初頭の土器片少量それに石器が発見されている。

### (2) 清水遺跡

所 在 地 諏訪郡富士見町境先達 5843～46、5848 (4000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月1日

調 査 者 武藤進六 武藤盈 宮坂光昭

#### 調査状況

鹿の沢川に面した独立丘の南斜面に位置する。現状は畑地だが荒廃している。遺物は縄文中期初頭の土器破片と石器がある。

### (3) 三十三番遺跡

所 在 地 諏訪郡富士見町境葛窪5589の1

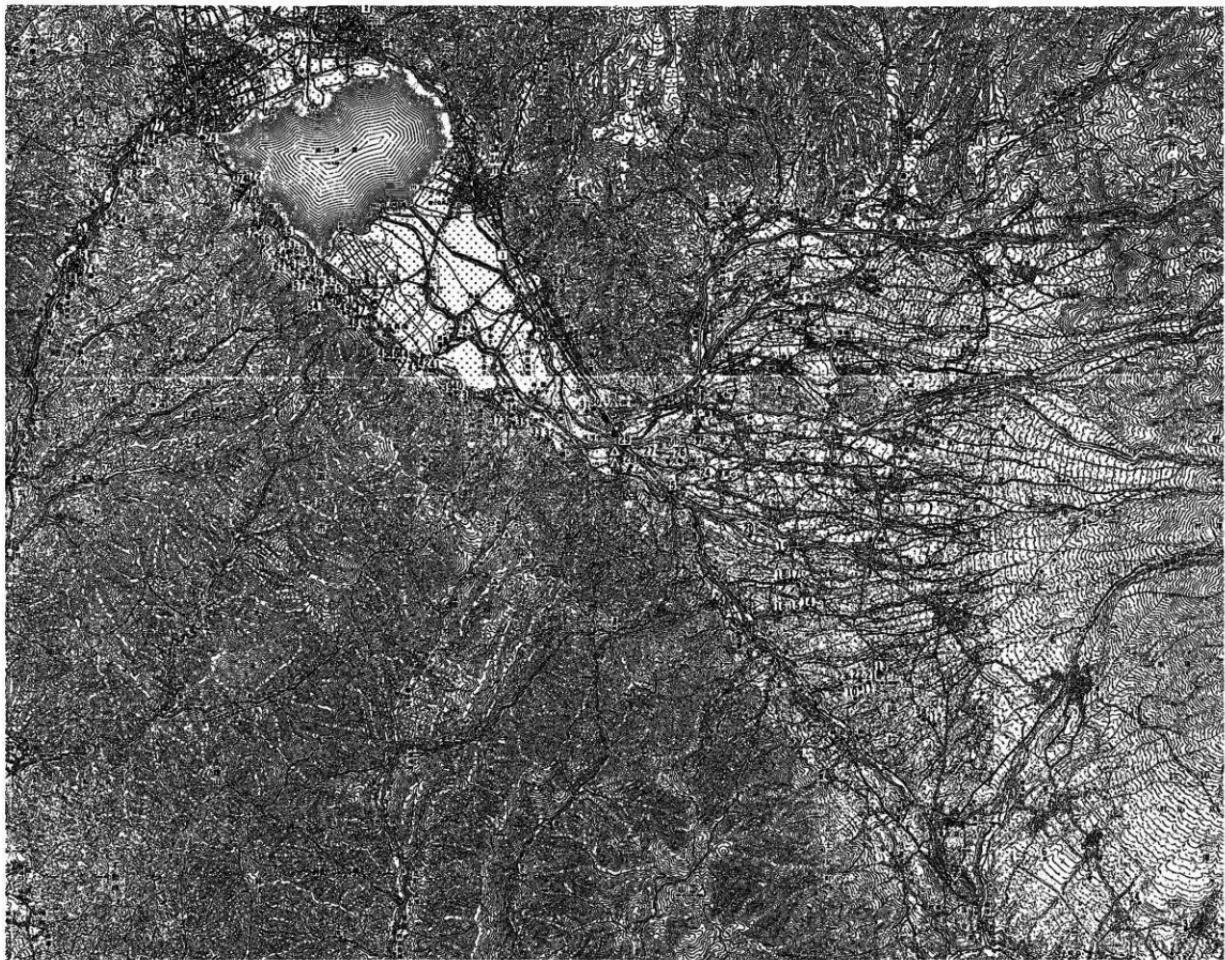
調査年月日 昭和42年12月1日

調 査 者 武藤進六 武藤盈 宮坂光昭

#### 調査状況

鹿の沢川に面した東向きの斜面で遺物の散布は稀薄である。本遺跡は從来尖石遺跡とと呼称されて来たが、有名な豊平区の尖石遺跡と混乱する嫌いがあるので、ここに三十三番遺跡と改名する。

遺物は縄文中期初頭の格沢式土器破片と打製石斧が知られている。



#### (4) 大泉遺跡

所在地 諏訪郡富士見町境高森9303～05 (1800m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月1日

調査者 武藤雄六 武藤盈 宮坂光昭

##### 調査状況

大泉湧泉の南方台地上にある。現状は牧草地とカラマツの植林地で、縄文前期諸礪C式の土器破片が発見されている。

#### (5) 当内遺跡

所在地 諏訪郡富士見町境小六10023 (2000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月1日

調査者 武藤雄六 武藤盈 宮坂光昭

##### 調査状況

落沢川に面している九兵衛尾根遺跡の東方の台地上にある。最近開拓された桑畑で遺物の散布は少ない。縄文中期後半の加曾利E式土器破片と打製石斧が出土している。

#### (6) 足場遺跡

所在地 諏訪郡富士見町2事2691外門筆 (16000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月1日

調査者 武藤雄六 武藤盈 宮坂光昭

##### 調査状況

天の沢川の東岸の台地上にあり、一大集落址の存在が予想されている。土師器の散布が多く、相当量の破片が採集されている。

#### (7) 二の沢遺跡

所在地 諏訪郡富士見町落合新田10116 (3,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月1日

調査者 武藤雄六 武藤 宮坂光昭 桐原健

##### 調査状況

一の沢川と二の沢川に挟まれた長峯状の台地の上面が遺跡で縄文晩期の土器片が相当に出土している。

#### (8) 徳久利遺跡

所在地 長野県諏訪郡富士見町富原11800～11830 (15,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和32年12月2日

調査者 武藤雄六 武藤盈 宮坂光昭 桐原健

##### 調査状況

八ヶ岳山麓の南斜面にあるコンセクエントリバーと、長峰状台地の組合せは数多くあるが、そのうちの一つの長峰状台地であつて、台地上全体が遺跡になつている。隣りあう台地上には、一の沢遺跡がある。

遺物には、縄文中期土器10個（完形）後期土器6個、土器破片300個、打製石斧、磨製石斧、石匙、石鎌、石皿などがある。

この遺跡は、かつて宮坂英式氏が調査し、竪穴住居址10数個を発掘している。

#### (9) 一の沢遺跡

所在地 長野県諏訪郡富士見町富士見神戸1628のイ 1629のイ ( $7,000m^2$ )

調査年月日 昭和42年12月2日

調査者 武藤雄六 武藤盈 宮坂光昭 桐原健

#### 調査状況

八ヶ岳山麓の広大な南斜面の一尾根上に存する。その尾根の南隣する尾根上には徳久利遺跡が発見されている。本遺跡は尾根の南斜面に発見されたもので、表探によると、かなり多量の遺物が発見されている。

主な遺物は、縄文後期土器破片70点、石鎌、巨大な石棒、石劍、磨石斧、打石斧、石鍤などがみられる。おそらく、住居址がかなりの数で存在されるものと思われる。

所見、破壊される場合は、充分な発掘調査を行い、記録保存されるべきである。

#### (10) 手洗沢遺跡

所在地 長野県諏訪郡富士見町手洗279 280 ( $10,000m^2$ )

調査年月日 昭和42年12月2日

調査者 武藤雄六、武藤盈、宮坂光昭、桐原健

#### 調査状況

八ヶ岳の広大な南向き緩斜面の一部で、山麓の終端に近い地点であつて、前方に手洗沢川をのぞむ、尾根の南斜面である。

遺跡の現状は、畑地と一部水田、それに原野になつていて。尾根の上端部は山林となつて防風林のような構構になつていて。その様子は、生活立地としてかなりの好条件になつていてものであろう。

遺物は縄文中期初頭土器片40点、打製石斧4点、石鎌2点があり、住居址が存在するものと考えられる。

所見、破壊される場合、充分なる発掘調査を必要とする。

#### (11) 御射山下遺跡

所在地 諏訪郡富士見町神戸248のロ ( $1,500m^2$ )

調査年月日 昭和42年12月2日

調査者 武藤雄六、武藤盈、宮坂光昭、桐原健

#### 調査状況

御射山沢川上流の神戸よりの沢に面した台地上で現状は畑地で、遺跡の規模は小さい。出土土器は縄文中期の型式をそなえ、石器としては打製石斧、石鎌が出土している。

#### (12) 南原遺跡

所在地 諏訪郡原村南原18631, 18632, 18634, 18636 ( $1,600m^2$ )

調査年月日 昭和42年11月30日

調査者 桐原健、武藤雄六、武藤盈、宮坂光昭、宮坂虎次

#### 調査状況

原村の最南端に位置し、東西に走る帯状台地を南北に切開いた開拓道路の北面に堅穴住居址のカッティングが露出している。こうした遺構は2ヶ所あり、うち1ヶ所は、炉址が認められ、その径は3.5mである。

縄文中期初頭と後期初頭との土器片が発見されている。

#### (13) 御射山北遺跡

所在地 諏訪郡原村倉山沢14396, 14397 (400m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月30日

調査者 桐原健、武藤雄六、武藤盈、宮坂光昭、宮坂虎次

#### 調査状況

御射山神社の北隣りにある頭駿沢尾根上に位置し、遺物包含層は浅く、縄文中期の土器片と打石斧が発見されている。

#### (14) 犬沢遺跡

所在地 諏訪郡原村犬沢

調査年月日 昭和42年11月29日

調査者 桐原健、武藤雄、武藤盈、宮坂光昭、宮坂虎次

#### 調査状況

犬沢川の北側にあるはつかの尾根の南斜面に位置する。現状はトウモロコシ畑・桑園・トマト畑になつていて。

縄文後期の土器片、須恵器(新)の甕の破片とが発見されている。

#### (15) 山の神尾根遺跡

所在地 諏訪郡原村山10813 (2,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月29日

調査者 桐原健、武藤雄、武藤盈、宮坂光昭、宮坂虎次

#### 調査状況

犬沢遺跡の南に隣接する台地上に位置し、桑園であるが、縄文中期(加曾利正)土器片を採集することができる。

#### (16) 大石遺跡

所在地 諏訪郡原村大石10704, 10703 (1,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月29日

調査者 桐原健、武藤雄六、武藤盈、宮坂光昭、宮坂虎次

#### 調査状況

はつかの尾根の最南端近く、北斜面にあり、かつては麦畠であつたが、現在牧草地となつている。

かつて、石器、土器片が採集されたことがある。

(17) 一本松下遺跡

所在 地 諏訪郡原村菖蒲沢9886 (3,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月27日

調査者 桐原健、武藤雄六、武藤盈、宮坂虎次

調査状況

阿立川の南岸に発達する帯状台地の東斜面にあり、包含層は浅い模様で、ボーリングにより、住居址数ヶ所の存在が確かめられた。

遺物は、縄文中期末葉の破片と打石斧とが採集された。

(18) 阿久遺跡

所在 地 諏訪郡原村菖蒲沢9691 (1,200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月27日

調査者 桐原健、武藤雄六、武藤盈、宮坂虎次

調査状況

阿久尾根の西に突出した、綫線上にある遺跡で、最近開墾されて桑園となつた。

縄文中期末の土器片と打石斧とが発見されている。

(19) 前尾根遺跡

所在 地 諏訪郡原村柏木7313の6～9 (900m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月27日

調査者 桐原健、武藤雄六、武藤盈、宮坂虎次

調査状況

東西にのびる前尾根丘陵の南斜面で、南には大早川が流れている。遺跡地は戦後開拓されたところで、モロコシ、大根などが栽培されている。

土師器杯破片（糸切底）6点が発見された。

(20) 比丘尼原遺跡

所在 地 諏訪郡原村柏木8939の1～4 (2,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月27日

調査者 桐原健、武藤雄六、武藤盈、宮坂虎次

調査状況

東西に走る比丘尼原尾根の南斜面にあり、陽当たりよく、附近に湧水がある。ボーリング調査の結果、60cmの深さに住居址の存在が確認された。

遺物は、縄文中期（勝坂・阿玉台・加曾利E）土器片・乳棒状石斧・石器・打石斧・須恵器などの遺物が発見されている。

(21) 頭殿沢遺跡

所在 地 茅野市金沢御狩野頭殿沢2920, 2931, 2932-1 2932-2 2933 (1,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月1日

調査者 桐原健、中村竜雄、宮坂虎次、林賢

#### 調査状況

御射山神社の北西約100mで、神社の北縁を西に流れる「みたらし川」に接するゆるい南斜面に位置する。ここは終戦後開拓され、耕作の際に土師器、須恵器、灰土器破片が出土して発見された。現在もしばしば遺物が出土する。御射山神社に近接するところから、過去に於ては神社境内の一部であつたものと推定され、御射山神事に關係する遺跡である。

所見 耕作の度毎に遺物が出土しているので保護措置を加える必要がある。

#### (22) 頭殿沢上遺跡

所在地 茅野市金沢御狩野頭殿沢2939の226 (1,299m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月1日

調査者 桐原健、中村竜雄、宮坂虎次、林賢

#### 調査状況

頭殿沢遺跡の北の、東西に長い台地上で頭殿沢遺跡とは台地の南斜面の中腹に通ずる農道によつて区切られている。終戦後の開拓で、最近の長芋栽培の際にも遺物が出土した。出土資料から縄文中期の堅穴住居址が埋没するものと推定される。御狩野開拓地の一部で開拓されてから日が浅いので遺跡は比較的良好に保存されているものと推定される。

所見 出土遺物から、堅穴住居址が埋没するものと推定される。

#### (23) 御狩野遺跡

所在地 茅野市金沢御狩野頭殿沢783の225 (3,260m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月1日

調査者 桐原健、中村竜雄、宮坂虎次、林賢

#### 調査状況

御射山神社の西約800mの距離にあり、頭殿沢上遺跡から続く東西に長い台地上の突端に位置する。頭殿沢上遺跡とは約350m離れている。一帯は終戦後開拓され、その時遺物が出土して遺跡として知られた。現在も耕作により遺物が出土している。遺跡の南側には御射山神事を記念する南宮源訪大明神の石碑がある。

所見 中央道はほぼこの附近を通過するものである。

#### (24) 古屋敷遺跡(長峯)

所在地 茅野市宮川田沢古御堂下新田3734, 8657, 8730~32, 8656, 8723~25, 3875~28—  
8730~32—イ—ロ 8730~33~34 8735, 8740~8744 (4,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月1日

調査者 桐原健、中村竜雄、宮坂虎次、林賢

#### 調査状況

田沢部落の北の東西に長い頂上線から南斜面に遺物が散布する。この台地は中央線まで続いており、向う長峰と玉川長峰との間の尾根である。田沢御射宮司下の墓地から西約100mに及び、御射宮司附近からは土師器破片が採集され、縄文中期の中心はこれより西に片寄つているものと推定さ

れる。台地裾から湧水があり、遺跡として絶好の地形である。

所見 遺跡西部分が団地造成工事にかかると推定されるのでそれ以前に調査の必要がある。

(25) 雨降塚古墳

所在地 茅野市宮川坂室8010-1 8010-2 (900m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月2日

調査者 宮坂虎次、林賢

調査状況

かつては酒室社境内にあつたが現在は消滅し、その場所に雨降塚の石碑が立てられている。酒室社は古来諏訪神社の末社で、坂室区の産土神でもあり、諏訪信仰遺跡としても重要な史跡で、御射山祭にはここに立寄り、一夜神事が行われる。東西に長い台地の末端で、国鉄中央線が遺跡のある台地末端を切断して通る。

所見 古墳は消滅したが史跡として保存の価値あり。

(26) 林の峰遺跡(林の沢)

所在地 茅野市宮川舟久保林の峰5-082-1,5083-1,5087-4,5088-2,5089-1,509  
1,5093,5082-3,5087-6,5087-2,5088-1,5094,5092 (1,800m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月2日

調査者 宮坂虎次、林賢

調査状況

舟久保部落の北側の東西に長い台地の頂上線から南斜面にかけて遺物が採集される。現在は台地の頂上から北斜面にかけて地均しをしてひばりヶ丘団地が建設され、住宅地となつたので遺跡の一部は消滅したが、南斜面は畠のまま残つてゐる。団地造成工事の際、土器や石器が出土したとのことであるが人夫が持ち去り所在は不明である。

所見 住宅地が拡張され近い将来遺跡埋没のおそれがあるので、発掘調査を必要とする。

(27) 狐久保遺跡

所在地 茅野市宮川狐久保4926-2,4926-20,4844,4846-1,4926-18,4930,4845,4846  
-2 (4,000m<sup>2</sup>)

調査年月日

調査者 宮坂虎次、林賢

調査状況

林の峰遺跡から続く東西に長い台地の末端の西南斜面で、国鉄中央線に平行する道路端である。道路拡張工事により遺跡の一部は削り取られ、かつ遺跡の範囲と推定される畠が斜面のため、耕作や雨水の際土砂が流失し、遺構等も原形を止めるものは少ないと推定される。表面採集による遺物も少ないので遺跡の規模も小さいものと思われる。

所見 中央線及び道路により遺跡の重要な部分は消滅したものと推定される。

(28) 御射宮司遺跡

所在地 茅野市宮川茅野中田5345,5348 (1,200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月2日

調査者 宮坂虎次、林賢

#### 調査状況

茅野区と西茅野区の略々中間に位置し、宮川により形成された沖積地の中で、現在は御射宮司の祠と桜の大樹3本が残っている。諏訪神社の社地であるが西茅野区が管理している。御射宮司社の代表的なもので昔は御射山祭立寄神事が行われた。中央道はこの附近を通る可能性が高い。古く採集された土師器、須恵器破片は祭事に使用されたものであろう。

所見 遺物包含地としてよりは史跡として保存する必要がある。

#### (29) 四ツ塚古墳

所在地 茅野市宮川茅野4668, 4668-2, 4668-4, 4668-7, 4668-1, 4668-3, 4668-5  
(1,600m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月2日

調査者 宮坂虎次、林賢

#### 調査状況

宮川小学校から続く東西に長い台地長峰の突端に位置し、現在は中央線により台地の先端が断ち切られたため小丘状を呈す。台地の北を宮川が流れ、周囲には人家が立並ぶ。1号古墳より4号古墳まであつたが石室はすべて破壊され、それらの石は一ヶ所に集められて茅野区青地として保存され周囲は墓地となつてている。

所見 古墳は破壊されたが、出土品が完存するので、それと関連し史跡として保存の価値あり。

#### (30) 下蟹河原遺跡

所在地 茅野市ちの横内下蟹河原3199, 3304, 3243, 3238の1, 3203のロ, 3306, 3291の1  
(7.500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月4日

調査者 宮坂虎次、林賢、武藤雄六、武藤盈

#### 調査状況

国鉄中央線の西約350mにある。国道20号線の石垣によつて画されているが、かつては傾斜面であつたものであろう。宮川流域の沖積地に望む斜面で、昭和14年頃弥生時代の竪穴住居址と弥生式土器が発見され遺跡として知られた。昭和40年頃のバイパス工事の際や、宅地工事の時にも須恵器、土師器等が出土した。

所見 次第に宅地化される傾向があり、バイパス道路は遺跡の一画を横切つている。

#### (31) 家下遺跡

所在地 茅野市ちの横内家下2156, 2194, 2599, 3155, 3158, 3160, 3161, 3166, 3167, 3168, 3169  
3170, 3171, 3172, 3174, 3175, 3182, 3183, 3184, 3, 85, 3194, 3196, 3197, 3246, 3247, 32  
51, 3252, 3253, 3254, 3255 (1,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月4日

調査者 宮坂虎次、林賢、武藤雄六、武藤盈

### 調査状況

下蟹河原遺跡に続く西の地帯で、宮川の沖積平野に接する横内の村はずれにある。遺跡の西一帯は水田であるが、遺跡附近はこれより稍々高い斜面の末端で、宅地と畑、水田となつており、今回の調査では遺物を採集することはできなかつたが、耕作の際に弥生式土器や土師器の破片が出土することがあるようである。

所見 下蟹河原遺跡に続く遺跡で規模は稍々小さいものと推定される。

### (32) 橋沢古墳

所在地 茅野市宮川安国寺橋沢2366, 2367 (50m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月4日

調査者 宮坂虎次、林賢、武藤雄六、武藤盈

### 調査状況

橋沢城址の西麓で、晴ヶ峰北東山脚の台地上にある。諏訪神社前宮からは約150m東に位置する。小円墳で径約4.7m、高さ2.6m、石室は完存し、横穴式で長さ4.7m、幅2.5m、高さ1.9mで南東にむけ開口する。前宮を中心とする古墳群の一つで、規模は小さしながら石室の完全に残つているのはこれだけである。

所見

保存状態は良好であり、前宮古墳群の代表として保存の価値あり。

### (33) 前宮遺跡

所在地 茅野市宮川安国寺前宮2337, 2338, 2343, 2342, 2344-1, 2348-1, 2348-1, 2347  
23462344-2, 2350-1, 2350-2 (3,600m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月4日

調査者 宮坂虎次、林賢、武藤雄六、武藤盈

### 調査状況

晴ヶ峰の北東側山裾の扇状地で諏訪神社前宮の社地東側の一帯を占める。ここは古くから縄文中期土器破片や石斧が多量に採集されたと云われる。祭礼関係の土師器や須恵器破片も出土し、古くは古墳があつたと思われる石が残つている。

所見 伝大祝屋敷跡は前宮の西側に位置し、この地もかつては社地の一部であつたと思われるが現在は諏訪神社信仰史跡としてより遺物包含地としての価値がある。

### (34) 神長官古墳

所在地 茅野市宮川高部御廟395-1 (150m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月4日

調査者 宮坂虎次、武藤雄六、武藤盈、林賢

### 調査状況

晴ヶ峰北南山麓の扇状台地の突端近くに位置し、神長官守矢氏邸内的一部である。円墳で径9m高さ1.9m。石室は横穴式で長さ8m、幅2.15m、高さ1.6mあり奥室の壁石は欠損していて石室露出し、ここから出入することができる。この一帯は古墳群地帯であつたと思われるが、石室の完全

に残つているのはこれだけである。東南方向に開口し、傍に杉の木が一本立つている。古墳の周囲は畑と水田で諏訪盆地や八ヶ岳が一望の位置にある。

所見 石室が完全で神長官家周辺の古墳群の代表例として保存の価値あり。

#### (35) 御廟遺跡

所在地 茅野市宮川高部御廟410, 411, 412, 413, 414, 415, 416, 417, 419, 518, 519(9,600m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月4日

調査者 宮坂虎次、林賢、武藤雄六、武藤盈

#### 調査状況

晴ヶ峯北東斜面の扇状地の略々中央に位置し、神長官邸に向つて緩傾斜する。遺跡の中央に擬祝の御射宮司が石積みの上に祀つてある。この附近一帯から縄文式中期加曾利E式土器破片や、土師器、須恵器の破片が採集される。宮川の沖積地をへだてて上原城と対面し、諏訪盆地や八ヶ岳が一望にできる見晴しのよい地点である。

所見 景勝の地で水源にもめぐまれているところから将来は圃地造成の対象になる公算が大である。

#### (36) 白鹿神塚古墳

所在地 茅野市宮川高部熊野堂495, 496(100m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月4日

調査者 宮坂虎次、武藤雄六、武藤盈、林賢

#### 調査状況

晴ヶ峯の支峰の東の山際にあつて、杖突峠の道路によつて切られた道路脇の台地上に位置する。古墳の築かれている地点は原野で、墳形は円墳、径3m、横穴式で長さ2.85m幅1.65m高さ0.45m両袖式である。一種異形な形態で狭道が著しく狭く高さは低い。石室内に土が崩れている。

所見 小古墳であるが石室異形で、出土品も豊富なところから現状保存の価値あり。

#### (37) 白鹿神塚遺跡

所在地 茅野市宮川高部熊野堂495, 496(1,200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月4日

調査者 宮坂虎次、林賢、武藤雄六、武藤盈

#### 調査状況

晴ヶ峯の支峰の東の山際にあつて、杖突峠の道路によつて切られた台地上に位置する。古墳及び白鹿神社の祀つてある地点の周囲は畑となつていて、遺物が散見される。

所見 白鹿神塚の周囲は発掘調査する価値がある。

#### (38) フネ古墳

所在地 諏訪市中州神宮寺宮林境1693他5筆(900m<sup>2</sup>)(1,600m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月9日

調査者 桐原健、中村竜雄、宮坂光昭、林賢

#### 調査状況

フネ古墳の所在地は、かつて諏訪神社の境内であつたと思われる所で、現在は上社農林に続く山腹の段丘上畠地にある。当地方最古式古墳とみられるもので、粘土床、二基、鏡、玉、剣、紫環大刀、直刀、槍、鎌、農工具類が副葬されていた。調査は昭和34年行なわれている。

今回は南方50メートル地点で、土師質土器片が表採され、また磚によると、1687番地の新村氏所有畠から管玉、勾玉を採集したという。ここには湧泉があり、多少の遺物の存在から、小遺跡であろう。この地を、上社関係として残したいと考える。

#### (39) 片山古墳

所在地 諏訪市湖南大熊片山1778~81 (300m<sup>2</sup>)

調査年月 昭和42年12月9日

調査者 桐原健、中村竜雄、宮坂光昭、林賢

##### 調査状況

諏訪神社、上社の神体山西方で、一支丘陵の中段の小さな平坦地にある。諏訪盆地を一望出来る地点で、西側には権現沢という深い谷がある。片山古墳と諏訪神社の中間の、東方100メートル辺には、同様高くらいでフネ古墳がある。長芋掘り中に、剣、直刀7本、鉄鎌2、勾玉1、土製紡錘車が発見された。調査によると、粘土床形式のもので、フネ古墳よりあまり時期の降らないものと考えられる。

なお、本地点は、縄文中期（勝坂、阿玉台期）の土器片、さらに炉址の存在も知れている。早急の発掘調査が望まれる。

#### (40) 湯ノ上遺跡

所在地 諏訪湖南大熊1752~60, 1767, 1768 (6, 400m<sup>2</sup>)

調査年月 昭和42年12月9日

調査者 桐原健、中村竜雄、宮坂光昭、林賢

##### 調査状況

諏訪市、湖南、大熊と、神宮寺の辺には、天然温泉が湧出している。そして湯の字のつく地名がある。

平坦地より比高70メートルの急な段畠を上ると、丘陵端に東向きの窪地があり、広くはないが、古くから遺物が採集されている。現在は農耕でかなり荒れているが、採集遺物によると、縄文中期土器がほとんどである。この遺跡背後の台地上に片山古墳がある。

できるなら学術的発掘により、記録保存さるべきである。

#### (41) 双子塚（二子塚）古墳

所在地 諏訪市湖南大熊大道上2235~40 (1, 400m<sup>2</sup>)

調査年月 昭和42年12月9日

調査者 桐原健、中村竜雄、宮坂光昭、林賢

##### 調査状況

かつて大熊公民館建設のとき、破壊されてしまったもので、今はまったくその跡はわからない。ただ附近に大石や、最近の家庭工事中、大きな石や、盤石らしいものが出土といわれているのであ

る。

破壊されたとき、副葬品はおよそすべて、一括保存され、公民館に存在する。

当時の報告は、諏訪史一巻に記載され、また長野県史跡天然記念物報告にもみられる。

なお、最近まで、塚守りの存在が知られ、笠縫を専業としておつたが、今は散っているという。

#### (42) 荒神山遺跡

所在地 諏訪市湖南大熊荒神山25312537—41 (10,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月9日

調査者 桐原健、中村竜雄、宮坂光昭、林賢

##### 調査状況

大熊の小田井沢川の荒れ川が深くけずり取つた沢の、西側には、洪水をうけない安全な台地がある。大熊城趾を背にして東南に向いた地形で、農耕中遺物の発見を聞いている。ピットによつて調査すると、荒れ方が甚しいが、発見土器から、複合遺跡の様子がみられる。

出土遺物は、縄文中期全般のもの多く、等では完形土器3、石棒1を発掘した地点あり、また祭祀的地点もある。また地主、田中氏によれば、2546番地畠より、馬具出土ありといふ。時期不明である。学術的調査が必要であると思われる。

#### (43) 城山遺跡

所在地 諏訪市湖南大熊城山2674—77 (1,800m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月9日

調査者 桐原健、宮坂光昭、中村竜雄、林賢

##### 調査状況

大熊城址のすぐ西方の、小窪地で、湧水があり、これを求めて集落が作られたものとみられる。ピットによる調査の所見は、縄文期から弥生中期までの土器、石斧が発見されている。

農耕による荒廃が甚だしく、調査に苦心した。

#### (44) 福松遺跡

所在地 諏訪市湖南真志福松4560—66 (2,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月11日

調査者 宮坂光昭、桐原健、中村竜雄、武藤雄六、林賢

##### 調査状況

現状は、諏訪市立西部中学校が所在するもので、学校工事中、平安期の高坏、皿形土器等が多く発掘された。

建造物のある所は今後の調査は不可能である。

#### (45) 南沢遺跡

所在地 諏訪市湖南南志野金山4874—78 (1,200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月11日

調査者 宮坂光昭、林賢、桐原健、中村竜雄、武藤雄六

##### 調査状況

北真志野の古刹、善光寺の北東の、つづき畠地が、元来善光寺の所有地が主であつたのが農地となつてゐる。

遺物は石斧、土器片が出土する。縄文前期の遺物の存在があるが、今後の調査が必要と思われる。附近には、良質の湧水がある。

#### (46) 御屋敷遺跡

所在地 諏訪市湖南南志野中村沢4826, 4831 (2,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月11日

調査者 宮坂光昭、林賢、桐原健、中村竜雄、武藤雄六

#### 調査状況

野明沢川の西岸にある扇状台地上に存在し、南真志野配水池の下方台地で、水源には恵まれている。

表面採集により、縄文前期から、中期初頭の遺物があり、発掘調査を試みるべき要がある。

#### (47) 山籠塚古墳

所在地 諏訪市豊田北真志野6085, 6086 (100m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和43年12月11日

調査者 宮坂光昭、中村竜雄、林賢、武藤雄六、桐原健

#### 調査状況

北真志野部落内の四つ辻で、旧道ぞいにあつて、石積、大盤石も現存するが石室は崩壊しているので、不明である。

#### (48) 本城遺跡

所在地 諏訪市豊田北真志野本城7568他14筆 (10,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月11日

調査者 宮坂光昭、林賢、桐原健、中村竜雄、武藤雄六

#### 調査状況

中ノ沢川の先端が南方に大きく突き出た台地で、湖南地区では代表的高台である。南方より見れば独立丘の觀がある。その南方の小沢に泉があつて、現在北真志野水道貯水池がある。本城の名にふさわしい、風光明媚な場所で、前面が畠となつてゐる。遺跡範囲も広く、表採が多くでき、遺物は縄文中期、土師須恵器が多い。農耕中の遺物発見もしばしばあり、加曾利E期の大形埋甕の発掘もある。

#### (49) 北山の神古墳

所在地 諏訪市豊田北真志野7147, 7148, 7156 (100m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月11日

調査者 宮坂光昭、林賢、桐原健、中村竜雄、武藤雄六

#### 調査状況

当地点上方の150メートル辺に、山の神社があり、現在、畠中の石積中にある。石御などの様子は不明であるが、一大ケルンになつてゐるため、あるいは、その中に石室があるのかも知れない。

調査したならば、資料が得られるかも知れない。発掘調査をする必要があるものと認められるものである。

小丸山古墳	省略
女帝桓外遺跡	〃
千鹿頭社〃	〃
十二ノ后〃	〃
久保塚古墳	〃
鐘鉄場遺跡	〃
瓢原〃	〃
鉢上げ〃	〃
神送り山〃	〃
新林〃	〃
狐穴〃	〃
安沢〃	〃
平山〃	〃
花上寺〃	〃
上垣外〃	〃
丈林古墳	〃
矢垂遺跡	〃
御頭屋敷〃	〃
満田台〃	〃
小手沢	〃
小田井南小路遺跡	〃
尊靈塔〃	〃
船靈社〃	〃
白浪神社古墳	〃
城日向遺跡	〃
花岡城跡〃	〃

#### (77) 橋原遺跡

所在地 岡谷市川岸橋原堂ノ後10259—68 (4,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月5日

調査者 宮坂光昭、林賢

#### 調査状況

橋原遺跡は、浅矢神社から続く台地上に発達している。その部落中にある遺跡で古くから表採がある。覆土が厚く、ローム層までが深いので、崩壊土がかぶつているという伝えもある。

遺物は、弥生土器が多く、また台地の南方には、表採により、縄文中期土器片と、土偶の破損品

を採集している。また台地中央の下には良い水源があるので、引水工事中に、弥生後期岡ノ屋式土器が発掘されている。

しかし家屋が多いので、かなり荒廃していると思われる。

#### (78) 洋矢遺跡

所在地 岡谷市川岸橋原10160, 10165~67 (12,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月5日

調査者 宮坂光昭、林賢

#### 調査状況

天竜川東岸の丘陵台地上で、その台地上に所々、湧水がある。「洋矢社未引外遺跡」「榛木原遺跡」などは、この近接地と思われるが、その地点は不明であつた。諏訪史一巻によると、厚手土器と記されており、勝坂から加曾利E式土器の発見がある。

なお昭和41年、耕作中地主の林茂治氏が、ほぼ完形土器を発掘し小学校へ寄贈したという。川岸小学校調査によると、加曾利E期中頃の埋甕とみられる大形土器であつた。

#### (79) 経塚原遺跡

所在地 岡谷市川岸橋原志平経塚原9998—9 (1,200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月5日

調査者 宮坂光昭、林賢

#### 調査状況

志平元屋敷の南方、柄久保沢から的小扇状地上にある。小遺跡のためか、現在は表採できない。中央に経塚と称する石塚があるが不明。かつて村人が玉を採集したといふ伝えあるが現在不明、洋矢神の聖地といわれて、石碑が立てられている。

#### (80) トチクボ(柄久保)遺跡

所在地 岡谷市川岸橋原志平柄久保10,006

調査年月日 昭和42年12月5日

調査者 宮坂光昭、林賢

#### 調査状況

天竜川の東岸の山地から流れていくつかの沢のうち、柄久保は、志平部落の北方の小さい座地である。その部落よりの台地上に平地があり、第二次大戦中の開墾により、多量の土器片が発掘されたといふ。山頂遺跡で、山神平と同様諸葛系の遺物である。

地主、橋原久一氏の教示をうけて、土器発見地点をピットによって調査してみたが、遺物の発見はなかつた。

#### (81) 志平元屋敷遺跡

所在地 岡谷市川岸橋原志平9,871他11筆 (10,400m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月6日

調査者 宮坂光昭、林賢、中市竜雄

#### 調査状況

志平沢川が、志平部落の北方を、天竜川に流入するが、それにより作られた扇状地上の南側に、いくつかの湧水があるが、その部分に遺跡の存在が知られる。扇状地上の北側は、後代の洪水などで荒れている。

昭和40年と同42年に、岡谷市教育委員会、諏訪考古学研究所などで発掘調査した。主として弥生後期の住居跡が発掘されたが、縄文前期から須恵器までの遺物がみられる。耕作による破壊もあるが、黒土層が深いので、まだ良好な遺跡があるとみられる。

#### (82) 山神平遺跡

所在地 岡谷市川岸橋原志平山神平9,714'9,715 (1,600m)

調査年月日 昭和42年12月6日

調査者 宮坂光昭、林賢、中村竜雄

#### 調査状況

志平元屋敷部落の南方にある急傾斜の山頂で、沖ノ沢という段々田圃のある沢を登りつめると、その段丘地にいくつもの小さい遺跡が発見された。そのうちの一つに山神平遺跡がある。山頂はかなり広い平坦地で、かつて第二次大戦中の開墾により、発見された遺跡で、標高830メートルを算し、諸磯期の土器片が採取された。

現在は山林化している部分が多い。

#### (83) 大塙遺跡

所在地 岡谷市川岸鮎沢大塙9,203他13筆 (4,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月6日

調査者 宮坂光昭、林賢、中村竜雄

#### 調査状況

地点は鮎沢部落内の南側で、天竜川に向つた扇状地上にある。

現在、宅地の構成が盛んで、それらの土木工事中、各所で土器発見の報に接する。

例えば鮎沢定蔵氏宅土台工事中、加曾利E期の大形埋め甕の発見があり、調査できた。近隣の数人の人達も、持つているといふ。先年、松ヶ尾の沢から出る川の護岸工事中、多数の土器片の発見があり、この小川をはさんで、かなりの堅穴住居跡があるものと考えられる。また畠地も多いので発掘調査可能であるから緊急発掘調査を希望する。

#### (84) 松ヶ保(松ヶ尾)遺跡

所在地 岡谷市川岸鮎沢松ヶ尾8,829 (150m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月6日

調査者 宮坂光昭、林賢、中村竜雄

#### 調査状況

地点は鮎沢区の、鎮守の森から200メートル上方の畠で、山ぎわの小さい遺跡である。湧水があつて小川が流れ、下方には段々水田となつてゐる。

諸磯期の土器を出すようであるが、詳細不明である。諏訪史一巻によると、土器、石器の発見が知られている。諸磯期遺跡立地としては当地方の他の例にみられるのであるが、充分な発掘例が少

いので、組織的な調査をしてみたい。

(85) 峰 烟 遺 跡

所 在 地 岡谷市川岸駒沢峯煙7,793他 8筆 (4,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月6日

調 査 者 宮坂光昭、林賢、中村竜雄

調査状況

駒沢地籍の天竜川東岸にある丘陵地で、堂山遺跡と地続きの地点である。中世、武田時代に峯煙城があつたと伝えられている。いぜんから出土品が多く、知られた場所であるが、現状はほとんど水田となつておらず、表面調査の方法はない。

近時、宅地化されて、その際、縄文中期土器片などの発見がある。煙滅寸前の遺跡であつて、記録保存るべきである。

(86) 堂 山 遺 跡

所 在 地 岡谷市川岸駒沢堂山7,509,7,510—11 (2,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月6日

調 査 者 宮坂光昭、林賢、中村竜雄

調査状況

堂山という地名は、江戸時代にここに堂があつて、それからのおこりと伝えられている。

地点は、天竜川が駒沢部落辺が大きくカーブするが、そのカーブの初まる辺の東岸にあつて、立地は独立丘陵上の50×40メートルの平地である。かつてしばしば土器の発見が伝えられており、昭和41年、岡谷市教育委員会により、発掘調査がされ、竪穴住居跡1と、加曾利E期土器が数個体分発見された。今回調査ではピットによると、ローム層が荒れていた。しかし、隣接地の発掘調査する要があろう。

(87) 昌福寺裏 遺 跡

所 在 地 岡谷市川岸駒沢内林7,301—07 (1,200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月7日

調 査 者 宮坂光昭、林賢、中村竜雄、桐原健、武藤雄六

調査状況

立地は駒沢部落中心地の上方に存し、丘陵上の平地で、附近を渓流が流れている良好の生活立地である。先年墓地構成の折、土器片の発掘があり、石垣のあいだへいれたという村人の話で、調査したが不明であつた。表採によると、その面積はかなり広く、遺物は、加曾利E期土器片が多く石器、黒耀石片の散布も多い。

発掘調査を試みる必要があると思われる。

(88) 原 沢 遺 跡

所 在 地 岡谷市川岸駒沢原沢6,734—35,6,744—471,, (600m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月7日

調 査 者 宮坂光昭、林賢、中村竜雄、桐原健、武藤雄六

## 調査状況

立地は駒沢部落の南方にある丘陵で、地目は宅地と、水田になつてゐる。宮沢伍作氏 保管の完形土器を調査したが、繩文中期初頭に属する焼成赤褐色の明るい色調の土器である。また、宮沢隆良氏保管の、所有地（6,745番地）から発掘した完形土器1個があり、6,735番地から住居跡1個が発見されたが、農耕のため荒れており、完掘できなかつた。

現在、まだ発掘調査したい所があるが、大部分、水田の下になつてゐるので、現状では不可能である。

### (89) 地替（自害）遺跡

所在地 岡谷市川岸駒沢新田地替6,535,6,555 (500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月7日

調査者 宮坂光昭、中村竜雄、林賢、桐原健、武藤雄六

## 調査状況

ここは武田家滅亡のとき、家来駒沢家の先祖が、割腹自害した所と伝えられているのが、この地名になつていたといわれている立地は駒沢新田の背後にある山地の沢に入りこんだ場所で、せまい地点である。2枚の段畑に土器片が表探できるが、かつて、上方の山林（6,535—イ）が耕地であつたとき、完形土器の発見があるという。話によると、弥生土器か、土師器であるようだ。畠地の（6,555番地）様子は、舌状台地で、繩文、弥生・土器片、石斧片などが表探出来た。

小遺跡であるが、発掘、記録保存の要あり。

### (90) 六地在家遺跡

所在地 岡谷市川岸駒沢新田境久保5,624,5,660—63 (2,100m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年12月7日

調査者 宮坂光昭、中村竜雄、林賢、桐原健、武藤雄六

## 調査状況

本遺跡は、上伊那郡辰野町と境を接する地点で、天竜川東岸の台地上に存在する。なおこの遺跡は辰野町地籍の六地垣外までおよんでいる。立地は上方に湧水があり、生活立地に適しているが、台地上の面積は1ヘクタール位であつて、大きな集落はないようだ。表探によれば、後田原式（繩文中期）土師器質破片、石斧破片、黒堀石片がある。ピットを掘つて調査すると、黒土1メートルでローム層に達するが、耕作による荒廃はないようである。発掘調査し記録保存したい遺跡である。

## 2 上伊那地区

調査期日 昭和43年11月10日から昭和43年11月26日まで

調査団 団長 林 茂樹 太田保、小川守人、北原真紀、柴登己夫、友野良一、本田秀明、御子柴怡正

### 1 調査経過

飯島町 昭和42年11月10日

飯島町教育委員会集合、午前8時30分、教育長齊藤三夫、係員米山征男

飯島町文化財委員北原健三、松村弥次兵衛、林荒平、北原甲子三、打合せ調査計画、資料準備（公園千分一、飯島町地区、五万分一地図、県埋茂文化財分布地図、自動車二台）10時30分出発、岩間遺跡調査、すでに、ここに羽生春男氏宅で物置建造中出土器（土師式瓶破片多数出土、黒土層60cm、ローム層より、保管依頼、この地点中央道幅員より300mの地点、岩間城跡内）。

11時30分宮ノ原遺跡、中央道幅員より50m、西側台地上、調査員及び案内者全員にて表面採集を行う、多數の縄文中期の土器破片を採集、採集地点の確認、ビニール袋に分封して日時採集場所の記入保管（飯島町教育委員会）中食のため教育委員会に帰る。

午後1時30分、太田の沢（中原遺跡）に向う、内山善得氏宅に全員赴き、収集保管された土器及び破片、石鏃、石臼、石棒多數発見場の記録、写真撮影記録（太田保調査員）ここを中心に中央道通過地点に進む、内山四五六氏宅保管の石棒、土器破片（縄文中期）石鏃などこの通過地点牧草地1200m<sup>2</sup>を太田ノ沢春日平遺跡とする。

久根平台地に進み、表面採集（打製石斧）を行う、畠地3200m<sup>2</sup>（所有山口繁氏）を久根平遺跡とする。住居跡群ありと確認黒土層50cm以下ローム層となる。

庚申平に進む、表面採集（打製石斧一つ）。黒土層50cm、200cm<sup>2</sup>を庚申平遺跡とする。

全員で高尾遺跡一帯の表面採集後、石上神社南の南向傾斜面のゆるやかな台地八幡林平に出た。中央道センター予定地とみられるところに畠地に統いて山林がせまつた地点1200m<sup>2</sup>は地形的に高尾遺跡の一環ともみられ、かつて土器破片や石鏃がみられたと云つていた。隣接地の北沢卓志氏の話である。

日没となり全員で表面採集の遺物の整理や記録整理後、6時30分教育委員会に引きあげた。ここで今日一日の計画と反省を行いことに太田沢鞍部湿地帯に出土物があり、これを内山善得氏が保管してあり、今後の調査の参考となつたことか強調された。

昭和42年11月11日

調査開始して本日が2日目である。一昨日迄の暖さはがらりと変つて大陸よりの高気圧の張り出しが、昨日より急に寒くなつて来た。

今日は昨日に比べれば風が無いだけ暖く、調査日和である。昨日は中田切川南より高尾遺跡岩間の遺跡迄調査されているので、本日はそれに引き続き、うどん坂地区と、七久保地区的北村北原遺跡を調査することに予定した。本日は飯島町役場に集合、調査員として友野良一、北原昌紀、長野県

社会教育課文化財担当の林茂樹指導主事が指導的立場で参加される。地元教育委員会よりは、教育長斎藤三夫、事務局米山征男、文化財調査委員長松村弥次兵衛、文化財調査委員山口準一、下平文良、北原健三の諸氏が現地の案内をしてくれることになり、午前10時予定路線記入の村図と公団の地図を用意して、役場のジープにて、岩間南迄、ここで昨日の調査の経過を北原調査員に説明を受け、うどん坂1号遺跡より調査を始める。古老桃沢一男氏の話に依れば、春日街道が丘陵の東側を通っているので、この附近にうどんを売る店があつたから、うどん坂と云う地名が生まれたと云い伝えられている。うどん坂は此の南に当る個所にある私の所で井戸光男さんを頼んで開田した時、今から30年前頃と思うが縄文式土器が春日街道添に出土したと語ってくれた。この附近は昔湿地帯であったと云う。桃沢一男氏が大正8年に開田した家の南の田より、柱穴4箇を発見したと聞いたので調査員一行は早速現場を案内してもらうことにした。丁度9時の休み時間であったので、その時発見した遺物を古ぼけた箱の中から取り出して見せてくれた。ほこりまみれになつた土器を吹いてほこりを落して見ると、縄文式でも晩期あたりと思はれる、薄手の縄文の文様のついた土器片、櫛目文のある、後期初めと思われる土器と、中島式に見受けられる口縁部が「く」の字形に曲つた縁に縦にヘラで平行に引いて頭部に大きい波状の櫛目状文様を施した。一見美しい線を描いた口縁部が1箇と、弥生式の底部と思われるもの1箇を拝見した。この遺物で大方弥生式の遺物であることは略確実と考えられた。現場は、道路のセンター附近で、現在は水田になつているが、開田前は北東に走つて「舌状」の台地があつたと話してくれた。要するに春日街道とこの「舌状」台地との間に湿地帯があり、弥生式文化が開花するに適していた所であつたから住居址が発見されたと思われる。こうした条件を具備した場所に住居址が1箇しかないと考えられないので、この附近に多くの住居地が存在すると思われる。道路の建設の折は是非調査したいとの要望があつた。この西の丘陵上には多くの遺物が散布している。この箇所は昨日の調査の時調べられているので、本日は先を急がねばならない都合もあるから次の調査箇所、山上遺跡に登ることにする。山上遺跡は、桃沢一男さんの話に依れば大島歌氏が開田の時何かいろいろ出て来て気持が悪くなつたので埋めたという話をしてくれた。それで何かと云うのは甕やや土器、石器であるらしい。そこで全員坂道を登つてその場所を尋ねる。大島歌さんはもう故人になつていて、今は大島繁三さんの代である。秋の多忙の折であつたが、教育長の御頼みにこたえてくれ、甕か或は壺かはわからないが埋めた場所を案内してくれた。その場所は現在水田になつていたが、場所だけは知ることが出来た。その場所の南、この台地では一番高い所が畠になつていて、いかにも遺物が出土しそうな所であるので、その畠を歩いてみると、吾々が考えた通り条痕文の土器一片ではあつたが発見することが出来調査員一同大喜び、その他に黒鉛石片も発見した。大島繁三氏の話に依れば、甕を埋めた東側の田をブルトーザーで押した時、縄文式土器が多く出土したと語ってくれた。この「舌状台地」の西北は凹地で、山の田式の湿田地帯である。その西側は駒ヶ岳の山麓で岩間部落の南端にあたる部落が見える。見晴の良い台地、この台地にも縄文式時代の人々が住んでいたと思うと、私は調査の足を暫く止めて眺めた。秋の日が高原の台地を輝いていた。山上台地を降りると、うどん坂の最南端与田切川の北岸である。中央道はここより七久保の北村小段に渡る。この渡河地点にも一見したところ遺跡がありそうだとうと考え、その台地に向う。この場所は、一段高い丘で北は凹地で古くは与

田切川が流れたのではないかと考えられる所大正8年頃の開田地帯である。私達は果樹園を中心として畠を通つて調査を試みた。その結果繩文式土器が地表下60cmに発見される。他には草地と果樹園のため調査は不可能、だが遺物の散布地に相違ないと考えたので、うどん坂南地点で飯島町の調査を終る。時間は1時40分、今度は七久保地籍に移らねばならないが、与田切川に水量が多くて渡れないので、一応国道迄て北村の北原に廻ることとした。丁度午後の休み時間にもなつたし、喉も乾いたので役場にてお茶を飲くことにした。2時出発、与田切川を渡り日影坂を登つて、北村、北原遺跡及び小段遺跡を調査、北原遺跡は西春日街道より小高いが東方に伸びている段丘で、昭和30年頃の調査の折、押形文土器が出土した重要な遺跡である。この細長い遺跡では記録をするに余りにも拡範囲があるので、北原線の交叉する個所で東西に区切り、東を、ひどろ遺跡とし、西を北原東遺跡（墓地）それより西を北原西遺跡として調査、4時とは云え秋の日は西の山に没して北風は急に冷たく肌をさす。夕暮のせまる丘を調査員の人々は黙々として土を見詰めて歩く。教育委員の方々も終始熱意を込めて案内してくれたことに感謝する。

昭和42年11月12日

昨夜来の雨は朝になつて更に強く降り出した。

調査日程がぎつしり詰つてゐるため延期することが出来ない状態であるので、戸外に出ては空を眺める。7時頃より雲の切れ間から日がさし始めたので、午後は或は天気になるかも知れないと考え、調査を実行することにした。昨夜岡谷中学校の本田秀明先生が来たこともあり、雨の場合には延期をするということも決めてないので、とにかく飯島町役場まで行き、事務局と打合せをすることに決め、8時の電車に乘る。駅で本田先生と出逢い、米山主事、齊藤教育長さんが見え、本日は雨天であるが調査を実施するかどうか、実施するなら人夫及び案内の人達に通知するがとの申入がある。雨は時々強く降るが日延が、出来ないので実行するから準備をしてもらう様お願いをする。北原調査員も顔を見せたので、昨日の続きから調査をするため、役場で用意をしてくれたジープに乗り七久保北原遺跡の南、桃沢幸三さん宅迄、この家屋は道路のセンターに当るので、埋蔵文化財の調査とは別であるが、一応見ることとして立寄る。この建物は建築年代は新しいが、本格的本棟造りの建築であるため何とか保存が出来ないかと、調査員一同暫く建物に心を奪われる。このことは県文化財専門委員に調査を依頼してのことと、雨の降りしきる桃沢幸三氏宅を出て、道溝遺跡に向う。道溝遺跡は、住宅、水田、道路、果樹園等に大方の面積を占められ、現在では表面採集は困難である。ここで道溝遺跡出土の遺物は七久保小学校に保存されているので、先ず七久保小学校に立寄る、先生に案内してもらう。昭和28年頃一応遺物の整理を行つたのであるが、拾散年たつた今日では遺物が散乱していた保存状態は極めて悪い。それでもこの中から関係ある遺跡の遺物を僅かではあるが見受けたことは、本日の調査に大きくプラスになつた。星一寸前林茂樹指導主事が到着する。校長室で本日の調査の打合せを行う。

昼食をすました頃より、南の空が一部晴れて来雨も小降りになつたので、尾越遺跡から調査を開始する。本遺跡は主に本田秀明氏が当る。我々は鳴尾遺跡より調査を行う。鳴尾遺跡は扇状地で、時折砂礫が乗り込むので地下1mに遺物は埋没している状態、繩文中期の遺跡である。天白遺跡は、鳴尾遺跡の続きにある遺跡で、東南に傾斜している。果樹園を中心とした遺跡である。ここには遺

物も豊富に発見されるし、水田を作る時にも炉址及び甕等が出土しているところより、集落址を考えられる遺跡である。雨は時折り降つて来る天気である。天白遺跡の次は、上伊那下伊那の境にある。鈎物部原遺跡を調査、前沢川の上流左岸段丘上有る遺跡である。遺物は少量であつたが、地形的よりして縄文時代の遺跡と考えられる。一応七久保の南端に到着した。すでに日は西の山に没していた、帰路高遠原氏神の西遺跡を調査して3日間にわたる飯島町の分布調査を終了した。

駒ヶ根市 昭和42年11月13日

本日より駒ヶ根市を調査、駒ヶ根市は、中央道の話が具体的になつた41年度に、県の調査とは関係なしに市の博物館単独に調査をすることを決定していたので、昭和42年8月より調査を開始、10月末一応の調査を完了した。今度の調査は、この調査を一応参考にしながら、路線を中心として調査を行なうこととした。調査に参加された人々は、駒ヶ根市教育長北沢照司、博物館長小池企義、駒ヶ根博物館学芸員下村忠比古、木下義男、宮下一郎、山本喜久男、案内の人伊藤恭人、横山卯八、佐野治雄、福沢政広、水上保政の諸氏が参加して調査が行はれた。午前8時30分駒ヶ根博物館に集合した。教委から林茂樹指導主事が指導的立場で来られ、一同集合した場所で今回の調査の主旨及び調査方法に就いて話があり調査員友野良一、北原昌紀、太田保の三名と前記博物館学芸員の一一行は、駒ヶ根市南端の大徳原に向う。本日は大徳原南遺跡より調査を始める。大徳原南遺跡は、中田切川の左岸段丘より北100m現在水田になつているが開田の時縄文式中期の遺物が出土した箇所である。この附近にも細かく調査すれば多くの遺物が発見されると思う箇所である。赤須井を渡ると北は南に傾斜している。東西に細長い畑地になつてゐる。この細長い畑地が、大徳原遺跡である。南に傾斜している地形は、縄文時代の住居地には最適と考えられる場所で、所有者酒井氏の住宅のある場所まで遺物は散布している。出土遺物は縄文式中期の遺物である。畑を歩くと「畔」などに焼石が埋められて横んであつた。それより春日街道に戻つて北に進むと、竹上久之助さんの住宅がある。このお宅で附近の様子を聞いてみると、石斧、石鎌等が出土すると教えてくれた。この当たり畑を歩いて見ると、竹上久之助さんの云う様に石斧の破片や石皿を発見することが出来た。又竹上久之助さんの話だと、この南の川は夏でも切れたことがない川であり、ここが留になつていたので、古代の人々が集つて来た場所ではなかつたかなと話してくれた。大徳原の次は南割の横前南遺跡である。ここは上穂沢川の支流で100年に1度は洪水に見舞れるという箇所で、地下3m程に泥炭層があり、古い埋れ木が出土する場所で古くは「葦」の原ではなかつたか。松原源太郎さんの住宅の西より開田の時縄文式中期の土器が出土したと話してくれたので、その場所に行つて見た。中央道は此の西を通る。横前遺跡は、横山卯八氏附近で開田の時7741番地、7742番地より、縄文式中期の土器が出土した。ここは小高い尾根の様な地形である関係上、縄文時代の人が住居するには肝都合の場所であつたろう。横山家の方々が大変この方面に关心を持たれていたので、私達は良い資料を得ることが出来た。時間を見ると、11時30分を過ぎていたので、横山さんのお宅を借りて昼食をとる。昼食をとり乍ら今迄歩いて来た場所で相互に気のついた事柄を話し合う。午後は横山遺跡の北に当る新田原遺跡から調査を始める。ここは昭和41年に開田した折縄文式土器が出土した箇所である。この附近は、扇状地と云つても、地形が小高い丘になつてゐるので、土砂の堆積はローム層の上部に薄くかかっている程度である。遺物はこのローム層の上部から出土する。倉田実さんの話に依る

と、ここには地形的からも見ても近くに湿地帯もあり丘の上でもあるので、調査をすれば住居址も発見出来るのではないかと話された。新田原遺跡の西北、上の原附近からは縄文式土器が発見されている。これより北は福岡落し、大明神の北を流れる川であるが、ねずみ川の大扇状地で遺跡を発見することは困難である。私達は疲れた足を引ぎながら、ねずみ川を渡り塩木部落上、三峠神社に出る。この神社は上種中でも、数少い社で大変信仰の深い神である社殿の写真を写し中央道のセンターラインに添つて女体部落に向う。女体部落の火の見を目當に、畑地を歩いて土器の散布状態を調べたが、やはりねずみ川の扇状地に当る関係で、土砂の堆積が深く遺物を発見することが出来得なかつた。下の方を廻つた組も到着して、女体部落の調査を詳細に行なうこととした。この附近では、前駒ヶ根市助役をした倉田一義先生に、この附近の様子を聞くことにしてお宅を尋ねる。丁度穀すりの最中で大多忙のところであつたが、先生も興味深い事もあるので、遺物の出土箇所を教えて下さつたり、又現場も案内してくれる。昔の事を思い出しながら、ぼつぼつと語つてくれる話には、本当にしたしみを覚えた。女体という地名の起きたいわれなども話してくれて嬉しかつた。先生の案内してくれた遺跡が中畠遺跡である。中畠遺跡は縄文時代中期らしい遺物を出土する。現在酒井楨三さんが耕作しているが、遺物はどこかに持つていつたらしい。女体で直接中央道にかかる箇所には遺跡は発見出来得なかつた。女体遺跡、本遺跡は女体のポンプ置場の東より100m公民館の北に当る箇所である。遺物の発見された箇所は、吉沢氏墓地より西80m地点で縄文及び須恵、灰釉が発見される。地形は一ノ沢川が南に流れ北は落井が通つているが、倉田一義氏の話に依れば大昔、ねずみ川が、ここを通り土砂を堆積した所で従つて湿地帯である。この湿地帯と一ノ沢川との間に細長く狭まれた段丘が女体部落であると、説明してくれた。私達が考えた地形と倉田一義氏の説はまつたく一致した。従つて住宅地としては安全な場所であるから古代の人々の村が出来てもふしげはない。調査員一行は、日も西山に没し急に冷込んで来た丘を一生懸命に土器をさがし求めた。

女体南遺跡、この遺跡は北遺跡に比して、一段低い場所で、公民館の南の畑地であるこの附近は古町という地名がついている所で昔から古い場所だという。又倉田一義氏の話では、小高い丘、現在住宅になつてゐる所には石臼炉が発見されていると話してくれた。

切石墓地遺跡。この遺跡は中央道のセンターにかかる箇所である。光前寺に登る道路の北100mの所で、切石部落の墓地である。ここは主に灰釉が出土した箇所である。これより北は北原部落で古くは太田切川の洪水地帯であり時々流されているので、中央道にかかる部分には遺跡はかからぬ様である。

昭和42年11月14日

駒ヶ根市の分布調査の第2日目、集合地、駒ヶ根博物館、県教委から立会に下村さん、調査員、友野良一、北原昌紀、太田保、駒ヶ根博物館学芸員木下義男、宮下一郎、下村忠比古、山本喜久男案内、伊藤恭人、横山卯八、佐野治雄、福沢政広、水上保政の諸氏が参加して、8時30分博物館に集合、昨日の調査結果の整理と本日の調査予定について打合せ、本日は昨日の続き北原上遺跡及び「いぼ地蔵」を調査、市役所のジープ、太田保氏の自動車に分乗して女体入口で下車、ここはインターチェンジが設けられる予定箇所で、現在水田と山林になつてゐるが、倉田一義氏の云われる如

く、切石墓地と女体部落との凹地になつてゐる箇所で、古くは「ねずみ」川の洪水の時、土砂を堆積した所と云われる湿地帯で、然も両方に遺跡が存在すると云う条件から考えて、一考を要する地区であるため、今日は、もう一度そおした観点で見直すことにした。然しながら現在までに何等の遺構も見つかつていないし、遺物も発見出来ないので、本日のところこの程度に止め、昨日調査をした切石遺跡を通り越し、山の神のあつた場所を見て「いぼ神様」を調べるべく横山紀元治氏の西に出たところ、水田に暗渠を作るため深く堀り割つた所が見えたので、太田保調査員が調べたところ、掘出された土中から縄文式中期初頭型式と、諸葛式と思われる土器を発見した。この土器は既に掘出された土の中からであつて、どの層位から発見されたかは明かでないので、更に掘られた断面を調べたところ耕土の最下層から出土した事実が確実となつた。このあたりの地層は表土45cm、その下は疊層で30cm、その下層に粘土質がかかつた旧耕土層で30cmあり、更に下層がローム層である。このことから北原の起源は古いと云はれていたが、年代的にどの程度であるか不明であった点が、この箇所の調査で縄文時代は表土の時代であつた。この箇所にては、洪水があつた後のものであることは略確定となつた。然し北原を東西に走つてゐる凹地は、その後何度か洪水に見舞はれたものと思はれるが、歴史時代も相当降つた頃でないと明かにされない状態である。とにかく、この暗渠工事でこれだけの事実が明かにされたことは、本日の大きな成果であつた。更にこの遺跡の範囲を決定すべく、センター寄りを調べたるも遺物は発見出来得なかつた。ここより北は太田切川に近く、しかも、太田切川の洪水地であるため、調査は不可能である。本日で予定の駒ヶ根市の調査を終へ、北原を通つて帰路につく。

宮田村 昭和42年11月15日

宮田村役場ジープと太田の車で行動

新田丸山遺跡、駒つぶれ遺跡は地形を写真に写し、採集したもの、出土状態の話を聞く。高河原遺跡は遺物の出土地域が広いので、3地点でピット調査を行い、遺物を採集したことのある人に話を聞いた。昼食新田公民館でとる。稚児塚は、10年くらいの松林の中で、境を見つけるのに時間がかかる。熊野寺本堂跡は、宮田村教育委員会が中心で調査をするので、見て通り、松戸遺跡で土器だけを拝見し、表面採集をするが落葉で遺物はない、米山A地点では断面を一部掘つて、遺物はない。駿遊堂遺跡の表面採集をする。城山遺跡は、開耕のとき採集した釘と陶器破片をまず見て、城山に登る。落葉樹にかこまれた細い道を登るのでつかれる。空堀、土壁の保存状態の良いのを見て歩く、現在いそいで調べる計画を立てなくても良い所であることを話合いながらくだる。西明寺跡遺跡は20年以上の松林の中、寺跡を見つけるに時間がかかる、傾斜地で、ピット調査を行なうが、木の根があつて、掘れない。道はこの近くを通る予定と地図に記入。

昭和42年11月17日

宮の沢遺跡は出土地点の木小屋の囲りの地形を調べるが、松林、落葉樹林で、特別な地形の変化はない、出土している馬貝と土師器を写真に写す。元宮神社が東にあり、古墳を感じさせられる遺物である。ピットは掘れない元宮神社東遺跡から宮の沢、元宮東、広坦外に続くこの南向の傾斜地は、各地域から出土品があり、深耕された所など各家庭を遍つて聞き調査をした。元宮東では、地

層の変化を調べるために4地点、広域外遺跡では10地点のピットを掘る。聞取調査を合せて、耕土は40cmくらいまで、遺物が出土する層位は70~100cmであることがわかり、土師以降のカマドに使われたと思われる石組出土地点が5ヶ所、焼土や遺物が出たところ10個所以上あつた。地層の変化が少ないことから、発掘調査は非常にむずかしいこともわかつて来た。

天白古墳は墳の廻りに杉が植えてあって、保存は良い方。ただ天白社を祭つたときに取られた大板石と、戦争中握られたいも穴がどのてい度きずがついたか、中央道予定線の東側にあり調査を必要、真米遺跡は特に調べたい地区である。地表下2mであり、その上層には、おそらく、古墳から以降灰釉陶器を使つた遺跡が重なつてゐることが今回の調査でわかつた。調査がむずかしい場所。

伏戸遺跡は松が入りまじつた林で傾斜地、古墳状の墳丘もあり、もう1回宮田村で調べることにして調査を終了する。

#### 南箕輪村 昭和42年11月24日

25・26日の調査予定日を1日繰上で、調査することにした。朝8時30分南箕輪公民館に集合、県より林指導主事も参加、8時30分本日の調査の主旨と調査方法について打合せ、9時現地に向う、9時40分信州大学前の地点から調査開始、この附近は伊那のインターチェンジの予定地であるから、調査もそのつもりで巾広く行う。このあたり大董の平坦地で、東に僅かな傾斜をしている程度で、東と北に続いている地形である。私達はセンターラインを中心として、東西の班に別れて北に向う。本日の参加者、長野県より林茂樹指導主事、南箕輪村教育長馬場利光、教育次長松沢源太郎、教育委員長有賀謙男、委員山崎光貞、原政秋、沢田清、加藤貞夫、高木徳雄、清水博之助の諸氏、寒い北風を受けながら大董地籍を通る。この辺黒色土層は深く、部分的には小砾混りの耕土もある。平坦地である、60m毎に東西に区画された道路が整然と走つてゐる。私達が予想した通り、遺物の散布を見ない。このことは、伊那谷特有な、田切地形の特徴と考えられる大董の北大清水川に出る。北大清水川西岸は地形的から見ても遺跡は存在すると考え、水田以外の畑、果樹園を調査したが遺跡を発見することは出来得なかつた。この川の下流には、御子柴遺跡がある。その他北大清水川西岸河成段丘上には多くの遺跡が発見されている。北大清水川の北940m二里沢までの間にも遺物をつい発見出来得なかつた。二里沢の北80mは南箕輪村界である。この富士塚は上伊那でも原形をよくとどめている。大芝富士塚と云つてゐる。経東西21m、南北22m、高さ3.5m、周邊をめぐらした立派な塚で、中心は摺鉢の如く凹み火口を思わしむ、富士塚附近には弥生式土器の出土する遺跡が認められている。塚の北は苗圃である。この北は大泉の大芝原である。私達は、この大芝原開拓地を通つたが遺物は発見することが出来なかつた。大芝公民館に到着したのは11時30分を僅か過ぎた時間である。相当長い距離を歩いたので疲れもし腹もすいたのだが大泉公民館迄足をのばして昼食をした。午後1時より大芝遺跡を調査することにして大芝公民館北より調査を開始する。この当りの地形は東に帯状に凹凸のある地形で、これ等小起伏の周辺に遺物が発見されるのではないかと、予想して調査したがついに遺物を発見出来なかつた。大泉川南岸には、昭和42年4月30日分布調査の時、発見された大芝遺跡があるので、本日はこの地点を中心として調査することにした、この遺跡は東西300m、南北約130m、縄文中期初頭型式、勝坂、加曾利E、土師、須恵、灰釉、鎌倉頃と思われるもの等を出土する大遺跡である。大泉川北は北高根遺跡である。現在は水田になつてい

るため調査は困難であるが、開田当時は遺物が出土したと伝えている。この西は萩川原遺跡で共に縄文中期中葉の遺跡である。大泉新田に通ずる道路の北は「トビ石」遺跡である。この附近は開田中に遺物が出土したと伝えられているが明かでない。地形的からして遺跡地であると考えられる。然し範囲及び出土地点を明確にすることは出来得ない。「トビ石」地区は223mで字北原地区である。この北原地区は大泉耕整と云われている地区で、昭和8年～9年墳耕地整理が行なわれている箇所である。「トビ石」字界より北の方向690mで、この区間は遺物は発見出来得なかつた。この地区も東に3.7°傾斜した略平坦な地形である。3時30分寒冷前線が通過したのか急に寒くなり、小雨も混つて寒い天気になつた。調査員と案内、人夫、教育委員の方々はオーバーの衿を耳に立てて広い原野を北に歩いた。これで伊那市との境から全線に亘つて調査することが出来た。村公民館で調査のまとめと打合せを開催、7時のバスで私と林茂樹指導主事は帰宅する。

昭和42年11月25日

昨日で南箕輪地区の現地調査は終わつたが、急いで調査したので記録及び、遺物の整理、写真が出来得なかつたため、本日は公民館にて、これらの作業を行う。清水博之助委員長及び馬場利光教育長、松沢源太郎、林指導主事、友野良一の5名、1,000分の1の地図に調査区域の記入、地名の確認、遺物の整理、写真撮影等を行う。午後は調査カードの記入を行つて終了とした。

箕輪町 昭和42年11月26日

箕輪町中央道予定線は全長5.6km北は辰野町、南は南箕輪村に境界が連つていて。東は国道153号線に添つて人家が密集し西方300m乃至400mより段丘となり、ゆるい傾斜で帶無山、桑沢山、山麓の上古田、下古田、富田区に続いている。中央道予定線は段丘のやや中央を通り、大出沢の両区は多く水田にかかり松島、木ノ下の両区は畑地にかかっている。東天竜が拓かれてから水田が出来て水利も良くなつたが50年以前は水一滴もない畑地又は松林であった。彼様な地形から縄文期等の遺跡遺物に乏しい南大原遺跡に加曾利Eを僅か発見したに過ぎない。此の遺跡も永住したものでは無く暫定生活であり他に環境の良い地を求めて移動したらしく思はれる。深沢川を中心に左岸の中道遺跡右岸の墓地、大原の両遺跡はいづれも土師時代後期の遺跡であり深沢川の水を頼つて居住したに違いない、帶無山山麓富田には横の木沢遺跡（早期押型文）堀場遺跡（縄文、弥生、土師）上古田（縄文）下古田（土師、灰釉）長田（縄文）等何ヶ所も遺跡がある、何れも山沢の水に恵まれていてある。赤東方の沢、大出、松島、木ノ下の各区は段丘の尖端に不減の湧水がある関係から中山（縄文、土師）丸山（縄文中期）等の大遺跡が形成されたのであろう。沢区沢上の龍沢翁石碑の背後にある大峰神社の塚は江戸時代のものであろうか、大和の大峰山（全國13山の1つ）を信仰し富士塚と同じ様に築いて修験者が例祭を行つたものであり古墳とは思われない。大出区の太夫塚も中國の昔の始皇帝が泰山遺跡の古事にまつわる官位のものではなく、天保以前松島宿の有つた噴遊女芸能関係者が信仰の為に作られたものではなかろうか。中央道予定線は前記の様に沢の外に水の無い段丘の為縄文時代は定住出来ない地形にある。降つて土師時代、沢の両岸に居住し聚落等の陸作と狩猟によつて生活したのではなかろうか。

## 2 遺跡分布

(1) 遺物簡便、(2) 三林、(3) 天白、(4) 鳴尾、(5) 尾越、(6) 道溝、(7) 北原東、(8) 北原西、(9) 小沢、(10) うどん

坂南、(11)岩間上山、(12)うどん坂2号、(13)うどん坂1号、(14)宮の平、(15)八幡林、(16)庚申平、(17)太田の沢春日平、(18)久根平、(19)大徳原南、(20)大徳原、(21)大徳原北、(22)横前南、(23)横前、(24)新田原、(25)女体南、(26)女体伴烟、(27)女体北、(28)切石墓地、(29)北原上、(30)新田丸山、(31)駒瀬、(32)高河原、(33)稚兒塚古墳、(34)能野寺跡、(35)松戸、(36)米山A、(37)京迎堂、(38)城山、(39)西明寺跡、(40)宮の沢、(41)元宮神社東、(42)庄垣外、(43)天白古墳、(44)真米、(45)伏戸、(46)南原、(47)三木木、(48)曾利目、(49)沢尻北、(50)大芝西、(51)大芝東、(52)南高根、(53)北高根、(54)西大原、(56)堂地、(57)大原、(58)中道、(59)太夫塚古墳

### 3 各遺跡の状況

#### (1) 鑄物師原遺跡

所在地 上伊那郡飯島町七久保高遠原5183 (7500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月12日

調査者 友野良一、北原昌紀、本田秀明、林茂樹

##### 調査状況

本地区は飯島町の南端、下伊那との郡境にある遺跡、日々西の山に没つして一段と寒さが加わつて来る。この遺跡は北東に傾斜している関係で遺跡の大部分と思われる場所は果樹園となつてゐる関係上、表面採取を主眼とする調査は11月という時期的に云つても困難な状態であつたが、調査員の熱意で僅かではあるが遺物と採取することを得、本地域が縄文中期の遺跡であることを立証出来得た。

前沢川の左岸段丘上に分布している遺跡で、現在果樹園が大多数を占めている、表面には大きな転石が露出していた。鑄物師原という名の如く、古墳時代よりの名の如く解釈されそうな、古い地名であるらしい。調査の結果は縄文式中期の遺物のみで、当代を代表する遺物は今回の調査では明らかにすることが出来得なかつた。遺物は縄文式中期加曾利E式土器片、打斧。中央自動車道は、本遺跡の中心部と思われる箇所を通過する様であるので、是非調査をしてもらいたい遺跡である。果樹園である関係上、深耕の恐れが十分にある。

#### (2) 三林遺跡

所在地 上伊那郡飯島町大久保高遠原3017 (4950m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月12日

調査者 友野良一、北原昌紀、本田秀明、林茂樹

##### 調査状況

本遺跡は、山祇神社の西麓にある遺跡で、今回中央自動車道が通過する地点は、丁度本遺跡の東傾斜面に当る箇所で、私達調査団は、この傾斜面を歩いたが直接遺物を採取することは出来得なかつたが、附近の人が語つてくれたことに依ると、縄文式中期と思われる遺物が開墾時に出土したと話してくれた。

山祇神社の西段丘上と、その東斜面に分布する遺跡で、現在は畠地、山林になつてゐる。遺物は現存しないが、開墾した人々が持ち去つたと聞く。中央道開墾時には注意してもらいたい遺跡である。畠地が一部と後の大部分は山林になつてゐるので保存状態は良い方。



### (3) 鳴尾天白遺跡

所在地 上伊那郡飯島町七久保高地原4754 (13500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月12日

調査者 友野良一、北原昌紀、本田秀明、林茂樹

#### 調査状況

本遺跡は古くから知られている遺跡であつて過去幾度か専門家の調査が行なわれている箇所で、今更新しい事實を知ることは出来得ないが、今回の調査の主旨が、中央道開鑿という目的がある為、自ずから調査者の遺跡に対する觀点も違う立場から、今後に問題を残さぬ様十分な調査を行う必要がある。

日向沢の扇状地と矢の沢の北岸に位置する場所にある。或る時代には日向沢の氾濫原ともなつた様である。南に傾斜した地形で、現在水田、桑畠、果樹園になつてゐる。日向が良く、水便も良いので古代住居地として最適な条件を具備している所と云わなければならぬ。大正時代より知られている遺跡である。近くは、上伊那教育会古代の七久保の刊行時に調査が行なわれてゐるし、郡誌刊行、信濃資料の刊行と、各主要な調査時には何時も問題にされている遺跡である。住居址は明確に知られていないが、米山享扶氏の南の田より、縄文式中期と思はれる炉址が発見されている。又焼石、及び附近には相当多くの住居址があると考えられる。天白遺跡はこの附近としては重要な遺跡である。遺物は縄文式中期加曾利E式土器、石斧、石ヒ、石鎌がある。以上述べたとおり本遺跡の西端を中央自動車道は通ると思われる所以、十分調査して欲しい遺跡である。現在は果樹園になつてゐる箇所が大部分である關係上、果樹の深耕などが行なわれる際は注意してもらいたい。

### (4) 鳴尾遺跡

所在地 上伊那郡飯島町七久保47252 (4200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月12日

調査者 友野良一、北原昌紀、本田秀明、林茂樹

#### 調査状況

日向沢の南岸に分布する遺跡で、時折洪水に見舞われてゐるので、黒色土の上に砂礫の堆積層が厚く覆つてゐるので表面採取による調査は容易ではない。調査員は広い地域を幾つかに区分して調査に當る。その結果、日向沢河岸には遺物は発見出来得なかつたが、片桐一男氏宅附近からは、多くの遺物が発見された。古代の集落は、日向沢を挟んで両河岸段丘上には、幾つかの遺跡が分布していると思われる。

日向沢川の左岸段丘上に分布する遺跡である。この遺跡は東南の方向に傾斜している地形であるため、幾度か過去に於て洪水に見舞はれていて、縄文時代の生活面は土砂の下に埋没している。縄文時代中期中葉の遺跡である。遺物は縄文中期加曾利E式を主体とするもの石ヒ、石鎌、打製石斧等。中央自動車道は、本遺跡の中央を通過する予定につき、開発時には是非調査して欲しいものである。現在は、果樹園と桑畠、水田、住宅で、水田は別として他は土中に埋もれている關係上保存状態は良好である。

### (5) 尾越遺跡

所在地 上伊那郡飯島町七久保上通4511 (5940m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月12日

調査者 友野良一、北原昌紀、本田秀明、林茂樹

#### 調査状況

本遺跡は、日向沢北岸段丘に分布する遺跡である。このあたりの調査箇所には、雨も止み表面採取も可能になつた。本田秀明調査員が主になつて調査を進めた。

先に述べた如く日向沢の扇状地に分布している遺跡で、古く氾濫しているので、遺跡は堆積層の下に埋もれ現在は大方畠と水田になつてゐる。この遺跡は古くより知られている遺跡で、遺物も出土している様であるが、遺構は明かでない。縄文式中期の加曾利E式土器を出土する。開発の行われる折には調査したい遺跡である。水田造成時に遺跡の方は破壊されたと思われるも、現在は畠地と宅地であるので、開発時には特に注意して保存しなければならない。

### (6) 道溝遺跡

所在地 上伊那郡飯島町七久保上通4353 (8250m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月12日

調査者 友野良一、北原昌紀、林茂樹、本田秀明

#### 調査状況

本遺跡も北原遺跡と同様古くから知られている重要な遺跡である。現在出土している遺物で道溝と記入してあるも、大事な出土地点が明かでないので、これら以前から出土している箇所の確認と、所有者大島幸男氏の開田当時の出土状況などを聞きながら、現地を教えてもらう、これ等明かに出来る箇所は極く僅かであつて、多くの遺物は漠然と道溝一帯からと云うことになつてしまつた。

日向沢が古い時代に押出した扇状地で砂礫土層中から遺物は発見される。全般的に扇状と云つても、焼土、炉址が発見された箇所などは低地で現在でも湿つた所であるあたり、古くは凹凸地形であり、住居など高い所にあつたのではないかと思はれる。遺跡と一概に云つても、前述の如く相当埋没している関係上、その範囲を限定することは困難であるので、大島幸男氏附近の出土遺物の明かな箇所と、開田工事中出土した遺構を中心としてその範囲を決定した。遺構は炉址、焼土、現在出土した遺物が散乱していて、実見出来得なかつたが、大島幸男氏の話に依ると縄文式中期中葉に位するものと解してもよいかと考えられる。今回中央道開鑿に及んで、これ迄の調査で知り得た疑問を解決する一つのチャンスでもあるので、是非調査したいものである。

### (7) 北原東遺跡

所在地 上伊那郡飯島町七久保北村2963 (6300m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月11日

調査者 友野良一、北原昌紀、林茂樹

#### 調査状況

本遺跡は、大正年間鳥居博士により注目され、その後信濃資料の調査及び、上伊那郡誌等で幾度

が調査が行われた著名な遺跡である。今回の調査は、公団で示されたラインを中心として西南250mの範囲を調査することにした。調査範囲が広範囲のため、西と東に区別し、東を北原遺跡、西を北原西遺跡として調査することにした。

千人塚段丘の東にのびた帯状の台地、この地帯は水田が大部分で道路の南は僅かに南に傾斜しているので畑地と墓地である。開墾当時に水田の方から多くの遺物が出土したと云う。又現在墓地からは縄文中期の遺物が出土するところを見ると、このあたりは住居址群と考えられる。縄文式中期加曾利E II、III式等の土器を出土する。外に縄文式打石斧15個が墓の脇の石の上から発見された。この墓地を中心として、住居址群が相当あると考えられる。地形的から見て南に川が流れ、北は凹地で湿地帯をなしている台地で、集落址とし申分ない場所である。水田化されている個所はどおかと思うが、一部畑地牧草地などは安全であるが3個所の墓地は穴を掘る度に破壊される恐れあり、中央道開鑿に及んで十分調査してもらいたい重要な遺跡である。

#### (8) 北原西遺跡

所在地 上伊那郡飯島町七久保2970 (31250m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月11日

調査者 友野良一、北原昌紀、林茂樹

##### 調査状況

本遺跡は古くから知られていた遺跡である。近くは上伊那教育会が七久保地区を歴史的立場で、総合調査を実施した時、信濃資料の調査、上伊那郡誌の調査時にも掲げられ、何時も問題にされてきた遺跡である。こうした立場から遺跡の状況は大方把握されていたのであるから、調査のポイントも自から観点的に行うことが出来た。

千人塚の東にのびている帯状の段丘上に分布している遺跡である。遺跡は南と北に湿地帯があり、古代人の住居址として最適の場所と考えられる。現在遺物が出土している箇所は、畑地、墓地、特に水路等より石器が数多く発見されたことは特筆すべきことである。又古い開墾にも多くの遺物が出土したと、案内の人が語ってくれた。兎角貝遺跡は明確な住居址は発見されていないが、土器、石器、焼石、石棒、石皿等集落址としての十分なる条件を備えている遺跡である。本遺跡出土遺物は、今回発見された、縄文式中期、加曾利E式土器、打製石斧の外に昭和28年の調査の時押型土器と須恵器が発見されている。七久保地区としては、押型土器を出土する、数少ない遺跡であるので、今後開発が行われる時には特に注意する必要のある遺跡と考えられる。現在は水田が大部分で一部道路の南側に畑地と墓地がある現状、保存状態は普通というところであるが、墓地及び畑地の箇所にいたつては注意を要する。

#### (9) 小段遺跡

所在地 上伊那郡飯島町七久保2666 (23200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月11日

調査者 友野良一、北原昌紀、林茂樹

##### 調査状況

本遺跡は、北岸うどん坂南地点と同様、古くは与田切川の流れた痕跡のある場所、現在は転石混

りの砂質土壌で地表下1mに二次的ローム層がある。現在は、宮下力藏さんの住宅がある別天地、遺物はこの砂質土中より発見される。

与田切川右岸の段丘上にある遺跡で、東西500m、南北150m、北村、北原とは10m内外の一段低い地形、水田が一部と、他は畑と果樹園及び山林である。まつたくの人里離れた別天地、古代狩猟民族の生活の場として適当な所。現在住居址及び遺構等は発見されていないが、土器及び石器等が出土する。遺物包含地である。縄文式中期の土器、打斧、磨製石斧が出土している。

中央道はこの小段地区の略中央を通過する。こおしたことから。開墾に当つては事前調査の必要がある遺跡である。

#### (10) うどん坂南地点遺跡

所在地 上伊那郡飯島町七久保108 (4730m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和43年11月11日

調査者 友野良一、北原昌紀、林茂樹

#### 調査状況

本地区は、与田切川左岸段丘上に分布している遺跡で、旧飯島町の南端に当り現在果樹園と、畠地の丘上になっている丁度私達が調査を行つた頃は、枯葉が落ちたばかりで、遺物の表面採取には不適当の時であった為、十分な調査が出来得なかつたのは残念である。所々ピットを掘つて調べた。遺跡の北は一段と低い凹地で、古くは与田切川が流れた形跡があり、湿田地帯となしているうどん坂附近は、こうした舌状の小段丘が細長く、北東方向に筋が走つて地形に遺跡は分布しているのが特徴と云えよう。今回の調査に於ては、住居址とか或は遺構等を発見することは出来なかつたが、遺物の採取状況及び、地形などから考えて一つの遺跡地とし得ると判断した。縄文晩期と思われる時期の土器を発見、縄文晩期の遺跡となると、上伊那に於いても極めて數少ない遺跡でもある。中央道開墾に及んでは、遺跡の中心を通過する関係上、晩期の遺物を出土する遺跡でもあるので、是非調査したい箇所である。

#### (11) 岩間上山遺跡

所在地 上伊那郡飯島町七久保303 (85130m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月11日

調査者 友野良一、北原昌紀、林茂樹

#### 調査状況

上山遺跡の調査は、桃沢一男氏の話によつて、大島歌氏生存当時、魔らしきを堀り出したるところ気分が悪くなつたので、上山の或る場所に埋めたと伝えられると云うので一行は、うどん坂を登つて上山遺跡の調査をすることにした。堀を埋めた場所を大島繁三さんに案内してもらい、その外、上山一帯を調査したところ、条痕文の土器を林茂樹氏が採取した。又石斧、石皿等も附近から発見されていると云う。調査団一行は山上の丘に立つて、古い昔を偲んでみながら坂道を下る。

駒ヶ岳山麓の段丘上の小舌状台地である。古代は東山道などかこの一段低い所を通つたのかも知れない。丘の上からは、上伊那南部の町村が一眺の中に見渡される。大島繁三氏の開田当時の話に依れば、分布図に示されている場所に、土器が多量に出土したし、よくわからないが、住居の跡で

はないかと思はれる箇所もあつたと云う。この地形、遺物及び散布状況は、正しく集落址と見てよいもの。主に縄文式中期及び前期の遺跡である。縄文式中期、勝坂、加曾利E式、前期の土器、石皿、黒耀石等が出土している。中央自動車道の開墾には直接関係をもたないが、附近の遺跡として重要な位置を占めているので、開発が行なわれる時は、十分注意すべき遺跡である。

#### (12) うどん坂2号遺跡

所在地 上伊那郡飯島町七久保岩間289 (45780m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月11日

調査者 友野良一、北原昌紀、林茂樹

#### 調査状況

本遺跡は、桃沢一男氏所有の箇所に当り、うどん坂1号遺跡の東南に位し、古くは舌状の小台地であつた、桃沢一男氏の大正8年開田時の様子を聞いて記録するより現在調査する方法がない状態である。

段丘下北東に傾斜している小舌状の丘西は湿地帯、古くは春日街道に添つた場所、集落遺跡で開田の大正8年に4柱穴の竪穴が発見された。詳細は明らかでない。他にも住居址は存在するものと考えられる。弥生式後期、口縁部が「く」の字形のものを波状文、等を施したものがある。中央道のセンターラインにある遺跡地であるため、工事に当つては、十二分調査を要求したい遺跡である。水田地帯があるので、保存状態の可否はわからない。

#### (13) うどん坂1号遺跡

所在地 上伊那郡飯島町七久保岩間293 (63850m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月11日

調査者 友野良一、北原昌紀、林茂樹

#### 調査状況

中央自動車道の西に当る遺跡であるため、今回の工事には直接関係を持たないかも知れないが、附近には、天伯遺跡、山上遺跡、うどん坂2号遺跡等著名な遺跡地が存在するので、附帯工事及び土地改良工事に及んでは、是非共調査を要する遺跡である。

今回の分布調査で、明かにされた遺跡で縄文時代の住居址があつたらしい、飯島町180ヘクタール開田事業の一つとして行われた時発見されたもの。現在出土遺物を拝見することが出来得ないのが誠に残念なことであるが、不幸中の幸で、当時開墾に当つた人、井戸戸光義氏が語つてくれ当時の様子を記録すると、縄文式中期の土器らしく、隆起文、竹管文、等の文様が付されていたらしい。その数は200片を越るとの事、現在水田に造成されている関係上、調査は簡単には実施出来得ないが、改良工事が行はれる時とか、暗渠工事第がある折は調査したい遺跡である。開田当時如何程遺跡を破壊されているかは不明であるが、水田である為或る程度は保存されていると思う。

#### (14) 宮ノ平遺跡

所在地 上伊那郡飯島町飯島2,921番地の1~15 (800m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月10日

調査者 太田保、北原昌紀、飯島町教育委員会文化財委員、北原健三、松林弥次兵衛、北

### 原原甲子三

#### 調査状況

この遺跡は現状保存の必要、通称天伯平といわれ、開墾、畑作に土器破片多数出土したといわれ現在羽生喜美氏宅に臺の把手保管、表面採集も調査員により多數、町教育委員会の保管、中央道通過地点より100m西側台地のため現状保存が出来るよう保護措置を加える必要がある。ここは苗圃と野菜、桑園と果樹園がある。山ろくからの扇状台地、黒土層50cm以下はローム層からなつている。

#### (15) 八幡林遺跡

所在地 上伊那郡飯島町飯島3,559番地 (12,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月10日

調査者 太田保、北原昌紀、飯島町教育委員会文化財委員、北原健三、松林弥次兵衛、  
北原甲子三

#### 調査状況

八幡林遺跡地点から100m後方に石上神社がありこの一帯は西北側に山林がせまり扇状台地であり東方500m地点は高尾遺跡となつてゐる。縄文から土師にかけての住居群の一環とみられるが、すでに古くから開田、開畠となり、この地点が畑地と山林とが隣接した地形であり、中央道通過地点となる。一畑作業中土器破片が出土したところから記録保存の必要がある。当然住居跡とみられる台地であるか附近一帯は開田、民家、神社等のため保存されている地形はこの遺跡とみられている。

#### (16) 庚申平遺跡

所在地 上伊那郡飯島町田切112の45番地 (2,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月10日

調査者 太田保、北原昌紀、その他飯島町教育委員会文化財委員、齊藤三夫、北原健三、  
松林弥次兵衛

#### 調査状況

庚申平一帯はすでに古い開田地帯でただこの北側に舌状台地として畠地が残されている。黒土層50cmの下はローム、現在桑畠と野菜畠、たまたま土器破片が出土すると聞く、ことに調査の日打製石斧1ヶ表面採集、教育委員会に保管。中央道通過地点となるため、記録保存の必要がある。南面平坦な台地で水便もよく古くからの農耕地であるが、ただこの舌状台地の先端がそのままに保存されている状態である。

#### (17) 太田ノ沢春日平遺跡

所在地 上伊那郡飯島町田切112番地 (1200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月10日

調査者 太田保、北原昌紀(齊藤三夫、北原健三、松村弥次兵衛) ( )内は教育委員会  
文化財委員

#### 調査状況

太田ノ沢鞍部一帯は縄文、土師の土器、石器、石斧多数発見された。ことに終戦後春日平の開墾

入植が行はれ、石斧土器の破片が発見され、この土地所有者、内山四五六氏の家に保管されている。現在の場所は牧草地として現状は保管されているが、中央道通過地点となるため、記録保存の必要があり、ことに他の遺跡にみられないかつて湿地帯鞍部という特殊な地形にあること、更に下流400m一帯は中原遺跡として土師式壺が畦畔から出土していることなど記録保存は是非必要である。

#### (18) 久根平遺跡

所在地 上伊那郡飯島町田切160の118~122番地 (3200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月10日

調査者 太田保、北原昌紀（飯島町教育委員会文化財委員、北原健三、松村弥次兵衛、北原甲子三）

#### 調査状況

久根平は昭和二十一年開田、開墾入植が行なわれたところで現在は耕地整理も出来、農道用水路等が完成しているが、入植当時多数の石斧、石鎚類、土器破片があつたと云われる。現在久根平遺跡としたところは開墾畑地として地形はそのまま保存され黒土層50cm以下はローム、後方北部は山林でその北は中田切川となる。深い断崖地構となつていて、中央道がこの地点を通過予定地となるため記録保存の必要がある。一帯西側山麓から押出された平坦な扇状台地である。

#### (19) 大徳原南遺跡

所在地 駒ヶ根市赤穂大徳原167 (49900m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月13日

調査者 友野良一、太田保、北原昌紀

#### 調査状況

駒ヶ根市教育委員会、教育長北沢博物館長、小池金義、学芸員各位、地元案内者によつて実施された。教育委員会が市ジープを借り受け、九時半現地大徳原に到着し、10月予備調査に於いて明らかになつてゐる地点を中心として、全員表面採取を行う。遺跡は田切川の左岸河成段丘上に分布する遺跡である。10月29日の調査に於いて発見された遺跡福岡落しに傾斜し、水田耕作中に出土したものである。遺物は繩文式中期、加曾利E式土器らしい打石斧、現在遺物は存在しない。現在水田であるが、この附近にも畑地があるし、環境的に同一なる地形が多いので中央道開墾時は是非調査して欲しい遺跡である。現在遺物が出土した場所は水田になつてゐるので、保存といつても、遺跡が開田当時如何に処理されたかが不明であるため、保存状況の良否は明確でないが、幸い附近が未開発地であるため、そこに希望をつないでいる。

#### (20) 大徳原遺跡

所在地 駒ヶ根市赤穂大徳原165~37 (2000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月13日

調査者 友野良一、北原昌紀、大田保

#### 調査状況

大徳原南遺跡の北、福岡落の北側に分布している遺跡であるので、調査の人々は福岡落しを渡つ

て統いて調査、この頃はまだ野には農作物作物があるので、地面が出てる所が少く調査には困難した。

福岡落しは、大徳遺跡に向つて南に傾斜している。普通畠と牧草地である。ここは田切川の上流に通ずる道路に先はさえ切られて東西に細長い地形である。ここは福岡落しの低地に面しているので、落しが出来る以上にも、湧水等があつたのではないか。とにかく、生活が出来る環境にある場所である。遺跡は福岡落しの北側東西に細長い遺跡である。余り古くはない開墾地であるので、住居址は発見されていないが、所々焼石等が露出しているあたり住居址も発見されるのではないかと考えられる地形。

遺物は、縄文式中期、加曾利E式土器、打石斧がある。本遺跡の西端と思はれる箇所が今回の中央道路の用地になると思はれるので、調査をしてもらいたい遺跡である。普通畠であるので現在のところ、そなは破壊されそうにもない遺跡である。然し急傾斜の所は土砂が流出される恐れあり。

#### (21) 大徳原北遺跡

所在地 駒ヶ根市赤穂大徳原16517 (900m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月13日

調査者 友野良一、太田保、北原昌紀

#### 調査状況

大徳原は駒ヶ根市の西南端の云わば駒ヶ根市の別天地とも云うべき部落であるので、調査担当員は珍らしい地形に見とれ調査はおくれ勝であるが、たのしい調査である。

大徳原の略中央や、北寄の東に僅かに傾斜した畠地帯である。この箇所は低地で一年中湧水が切れたことのない場所であるため、生活には適した所。

遺跡は42年10月29日の、調査で発見された遺跡である。この遺跡は住居址など発見されそうにならない遺跡で、云わば附近の人々が集つて来る協同炊事場と云うべき遺跡ではないか。遺物は、打石斧、石皿等が発見された。中央道が本遺跡の西側を通過する予定であるので工事の際は注意してもらいたい遺跡である。現在、屋敷と畠地であるので保存は良い。

#### (22) 横前南遺跡

所在地 駒ヶ根市赤穂南割横前772、27747、48 (2700m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月13日

調査者 友野良一、太田保、北原昌紀

#### 調査状況

大徳原遺跡の調査を終り春日街道に添つて歩き、松林を越えると南割部落の西南横前新田に出る。この出た箇所が本遺跡である。ここは42年10月22日に予備調査が行なわれ、遺跡の略全貌が知られていたので、本日のところその確認にとどめる。

上穂沢川の上流に当り、時々洪水に見舞われる個所である。近くは39年の水害も土砂が押出された扇状地で現在低い箇所、地下3米には埋木及び泥炭層が発見された遺跡である。現在は地下深く埋れている遺跡である。遺物は縄文式中期、加曾利E式土器片がある。現在水田、及び宅地、畠となつている。

### (23) 横前遺跡

所在地 駒ヶ根市大字赤穂南割横前新田7741-42,44 (5000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月13日

調査者 友野良一、太田保、北原昌紀

#### 調査状況

大庭原南遺跡より調査を開始して順次北の方向に調べて来たが、丁度この地点で昼となつたので、横山卯八氏宅を借りて昼食を済ませる。一応現在迄の調査の結果を再検討、又今後の調査される箇所に就て打合せをする。午後一時より調査を始める。横山卯八氏附近は、以前から遺物が出土していた場所である。昨年より卯八宅の東北水田より縄文式中期の遺物が多量に出土したものを、氏が保存しておいてくれたので、これを調べ出土地点の水田を見、更に附近一帯を調べる。

上流は上穂沢川の最上流地点にかかつている関係で、実は谷浸蝕が浅い為、幾年毎かの洪水には、氾濫すると云う。今回は昭和42年洪水時にも氾濫し、横山卯八氏の宅地に相当の土砂が堆積したという。云わば上穂沢川の扇状地で、今尚活動をしている箇所とも云い得る。

遺跡は、縄文式中期初頭型式、中期最盛期、及び中期末の遺跡である。

遺物は、中期初頭型式、加曾利E式土器、石器である。中央自動車道開通に及んで、この附近が土地改良を要するなれば、調査をしてもらいたいものである。現在発見地点は極めて遺跡の一部と考えられるので、或は用地に相当するあたりにも出土する可能性は十分ある。現在山林、一部養飼池、水田等である。

### (24) 新田原遺跡

所在地 駒ヶ根市南割新田原 (2500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月13日

調査者 友野良一、太田保、北原昌紀

#### 調査状況

横前遺跡の北方に当る地点であるので、私達は中央道の予定線を歩きながら遺跡地迄、このあたり、明治、大正、昭和と開拓されて来た水田地帯で、この水田地帯を東西二分する形となる所である。見事に階段状に造られた田は人目を引いた。

横井の東に当る場所で、水田と山林との境に位置している。ここも横前遺跡と同様上穂沢川の支流の扇状地で、集中豪雨の時には氾濫する箇所である。遺跡地表面は土砂の堆積が目立つ。遺跡は750米附近に分布する。縄文中期中葉の遺跡、昭和41年に開田した時発見された。遺物は、現存しないのであるが、当時の状況からして、降起文及び渦巻文、縄文の磨消等の遺物であつたらしい。惜まれるのは、その人達の興味、関心がなかつた為私達の目にふれることは出来ない。この箇所は横井を挟んで分布するのではないかと考えられるも、西方は山林の為表面採取は不可能である。こうした遺跡があるので工事に当つては注意してむらいたい遺跡である。現在一部水田、後は畠と山林である。水田になつている箇所は完全に破壊されてしまつたと思われるも、他の畠、山林は埋没していると考えられる。

### (25) 女体南遺跡

所在地 駒ヶ根市北割女体3712、3653、3709 (750m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月13日

調査者 友野良一、太田保、北原昌紀

#### 調査状況

この箇所は8月11日予備調査の時発見された遺跡である。本日はその時遺物が出土した跡を中心として調査範囲を拡大して調査して見たが、新しい遺物は発見出来得なかつた。

女体部落と塩木部落の間を流れる一ノ沢川の南にあたる遺跡である。遺物の出土した箇所は、川に添つた低い場所で、余り低すぎると思われる所にある遺跡地で、縄文式中期と古墳時代の遺跡で遺物は縄文式中期保曾利E式(新)、須恵器、土師器が出土している。中央自動車道路には直接関係がない遺跡であるが、水田、宅地造成等が行われる折など特に注意してもらいたい遺跡である。跡及び水田、一部宅地、水田にされる恐れもある。

### (26) 中畑遺跡

所在地 駒ヶ根市北割366、3625 (3200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月13日

調査者 友野良一、太田保、北原昌紀

#### 調査状況

ここは今回の調査で明かになつた遺跡、本遺跡は最初に注意された。倉田一義先生に御案内を請う。倉田一義先生の話に依れば、水田造成中遺物が多量に出土した、焼土、焼石等も発見されたので、古代住民の住居址ではないかと思つて、その様子を記録はしていないが、後日参考にと思い出来るだけ注意していたと話してくれた。遺物は縄文中期頃の文様があつたと云う。又旧春日街道が通つていたと言い伝えがあり「市」などの地名も残っている。現在は水田と桑園になつてゐる。

一ノ沢が北に流れて、古くはこの辺あたりにも水がついた事もあるろうと思われる。一部に土砂の堆積を見る。併し割合安全地帯と云う箇所に当る遺跡で、集落址及び遺物包含地。遺物は縄文中期の甕が出土し酒井慎三氏が最近まで保存していたが、私達の調査では実見することが出来得なかつた。中央自動車道はこの遺跡の東を通過する予定であるので、現在調査されている範囲ではかからぬと思うが、関連工事が行なわれる事があるなれば注意せねばならない遺跡である。遺物が出土した箇所は話の様子では破壊された恐れがある。その附近の跡地は、住居址があると思われるのと、桑園の深耕時には特に注意したい。

### (27) 女体北遺跡

所在地 駒ヶ根市北割女体3615 (30000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月13日

調査者 友野良一、太田保、北原昌紀

#### 調査状況

本遺跡も予備調査の折発見された遺跡である。今回は前に確認されている箇所を中心として周辺を調査したところ、吉沢氏墓地の東南の畑と、最近開田されたと思われる墓地の西方畑を表面採取

する。ここよりは、土師器が発見された、現在は畑地が僅かである為、遺物の発見は困難。

一ノ沢北岸一段と高い場所、つまり現在女体部落は、この一段高い東西に長い帯状台地に住居が分布している、遺跡もこれと同じ状態に分布していると考えられる。遺跡は住居址は発見されていないが、場所としては集落址と考えられる箇所、現在は墓地及び墓地の東畠と北の畑地を中心とする。縄文中期中葉、古墳時代、遺物は縄文式中期加曾利E式（新、古）、土師、須恵が出土している。現在は墓地と畑地で、宅地造成及び土地改良工事が行われる事は先ずあるまいと考えられるので、残っている部分は安全と考えられる。畑地、墓地であるため、時に保存には心配はないと考えられる。

#### (28) 切石墓地遺跡

所在地 駒ヶ根市北割切石497 (1800m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月14日

調査者 友野良一、太田保、北原昌紀

##### 調査状況

この遺跡は、昭和28年に発見された遺跡である。前回の調査で既に知られている箇所の再確認ということで調査にのぞむ墓地と畑地で落葉や草で地表が出ていないので、調査は困難であるため、予備調査の成果を参考にして調査カードに記入した。遺物は駒ヶ根博物館に保管されている。

この箇所は東西に長く丘が続いている一部で、古くから洪水を免れた場所である。又この地帯はローム質土の上に花崗岩の転石が見られるのが特徴である。北と南は一段と低い凹地で併も湿地帯であることは現在も水田に利用されているように、古くも利用されたと考えられるところから注目する必要がある地形。遺跡は縄文式中期、古墳時代の遺跡である。遺物は、加曾利E式、土師、須恵が出土している。ここ遺跡は直接中央自動車道にかかるので発掘を要する遺跡である。一部水田になつたが、大方は畑地と墓地で保存は良い方である。

#### (29) 北原上遺跡

所在地 駒ヶ根市北原642、643 (3,150m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月13日

調査者 友の良一、太田保、北原昌紀

##### 調査状況

切石墓地遺跡の調査を終えた。私は、中央道が通過する箇所を見ながら、北原部落に向う。太田保君が自動車で先に廻っていたところ、横山紀元治氏の水田暗渠工事掘削場より、遺物が発見されたところに出逢う。調査員全員で調査。

この地帯は古田切川の上流部分に当る箇所で、古くは太田切川が流れたところである。地形は凹凸のある東西の鍋状帶で、鍋状の小高い場所に遺物が散布している。住居址は発見されていない。北原遺跡はこのあたりを頂点として古田切川の左右岸に天竜川西岸の河成段丘上まで3.5kmにわたりて分布している。遺跡は縄文期の遺跡で駒ヶ根市としても重要なことで、今後の調査にまつまつし、水田中にある遺跡。遺物は縄文式前期、諸磯式土器が黒色土層の下部より発見された。中央道には直接関係はしないかもしれないが、縄文前期の遺跡は僅かしか発見されていないので、附近開

発の時は特に注意を要する。現在、水田であるため保存状態は明かでない。

(30) 新田丸山遺跡

所 在 地 上伊那郡宮田村1973. 1974. 2009. 2010. 2011. 2000. 1978. 1979. 2008. 2013. 2017.

1973. 1972 (1,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月15日

調 査 者 友野良一、太田保

調査状況

大田切川と小田切川にはさまれた。巾約150m太田切の扇状地であるが、遺跡は約1mくらいの高く舌状に東に突き出している。昭和24年頃、開田の地均工事に、繩文甕形土器、完形で2個を発見した。焼成が悪いのと、保存しておく気持が無かつたので、現在は破片もない。地表土は砂の多く混入する黒土である。この土は約1m掘つても、この地域は続いている。遺跡東側は苗畑、西側は蚕玉神社が祭つてある孤立台地があり山林であるが、水の便が良いのでしだいに水田になつて来ている。

(31) 駒 渡 遺 跡

所 在 地 宮田村2314 (600m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月15日

調 査 者 友野良一、太田保

調査状況

小田切川氾濫のとき残つた土石岩礁が東西40m南北25m高さ約10m、古墳状で円錐形の地形の東側に続く傾斜の畑、附近は岩も露出し、石混じりの耕地中に黒曜石が採集出来た。附近一帯はすでに水田になつて、約3アールくらいが桑畑であるが、近年のうちに水田になる場所であろう。

日本武が白馬で河渡りのとき瓜跡を石に残したとか、駒が漬れたとか、伝説地でもある。

(32) 高 河 原 遺 跡

所 在 地 上伊那郡宮田村2418. 2369. 2360. 2351. 2376. 2365. 2361. 2353. 2379. 2334. 2331

(1,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月15日

調 査 者 友野良一、太田保

調査状況

山麓より扇状地、礫岩が混じつて黒土と堆積する畑地帯。表土から約3m、礫岩砂の混入する黒土層の下から黒土だけの地層約30~50cm下層の黒土中から、石組炉と繩文中期土器破片多數出土した。今回の調査でも、同地点に続く地域から、繩文土器破片と打製石斧を探集した。東側では約1.5m土層中に繩文中期土器破片多量に出土するところあり。耕作者が深耕して打製石斧を探集しているので、遺跡はなお西側に続くものと考えられるが、地表下3m以上では調べることが出来ないところである。ポンプで水を引いてでも水田を作つたらと一部の人達に話が出てる由。

(33) 雜 児 墳 古 墳

所 在 地 上伊那郡宮田村266 (1,600m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月15日

調査者 友野良一、太田保

#### 調査状況

山麓、傾斜地、松林内にある。頭大以上の河原石を東西40南北40m、高さ約4m不規則であるが、円墳状に積上げた塚。保存状態は良い。伝説によると、熊野寺の祭礼のとき、稚児舞踊行列が行なわれた。その内一人でも間違えると、舞踊に参加した物全員殺されることになつていて、ある年の舞踊に間違があつて殺されて、全員をこの塚に埋葬したとの話がある。熊野神社、古い寺が附近にあるので、それらの関係あるものとも考へられる。

#### (34) 熊野寺本堂跡

所在地 上伊那郡宮田村2609.2600~2604まで、2621.2622.2623~2629まで、2605~2608.2630.2631.2565.2566.2461~2468まで2579.2581 (48,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月15日

調査担当者 友野良一、太田保

#### 調査状況

山麓で傾斜地、戦国時代火災もあり、その後に建てられた本堂が現存する。駒ヶ根市赤穂の光前寺の朱寺であるが、古くは現在の熊野寺は格が同じか、祖寺ではないかとの伝えもあり、山岳仏教の形態をととのえる。仏教関係の遺跡が、西側山中にあつて、それとの関係などから考えられ、まず、地割から考えると、大規模に考えられ山門跡ではないかと考える地点から柱材を発見したり、附近から灰釉陶器が出土したことがあつた。

#### (35) 松戸遺跡

所在地 上伊那郡宮田村2641.2631.2630.2645.2629.2622.2624 (27,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月15日

調査担当者 友野良一、太田保

#### 調査状況

山麓から傾斜地で続き突端は台地状に段丘になる。黒土層の堆積が深く、1.5m深く掘つても黒土層の変化はない。宮田村上水道の工事中黒土層30~50cmの深さから、加曾利E式土器一個体が出土したこともあるが、附近一帯は土師土器や灰釉陶器細片が散布しており、また深耕した地域にはカマドに使用したと思われる長方形の石や焼土が散布していた。現在は畠地が多く一部宅地と水田であるが、水利の都合がつけば、水田に出来る地域であるので開田されるものと思われる。熊野等と一部複合する地域もあるが、宮田村の古代史について伝説の多い場所であるから時間をかけて調べたい地域である。

#### (36) 米山遺跡A地点

所在地 上伊那郡宮田村1163~1174番地 (1,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月15日

調査者 友野良一、太田保

#### 調査状況

頃状地、山くずれによつて流出した角礫や黄色土の混じる表土が厚く堆積している傾斜 10° 度前後の地形。傾斜地を地均して畑を作つていたとき、掘取つていた傾斜地の断面、地表下約 1.5m 黄色土層から縄文中期の土器破片を採集した。遺物は表面では採集出来ないが、また地表下何 cm くらいで、どんな層位から遺物が出土するか、不明である。傾斜地であるため、今日のところ、地目を変えるような計画は無い。

### (37) 駅道堂遺跡

所在地 上伊那郡宮田村1087. 1068. 10581088~1098番地 (1,580m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月13日

調査者 友野良一、太田保

#### 調査状況

頃状地、平均12度くらいの傾斜地、細かい角小礫の混じつた、黄色をおびた土が厚く堆積する。古老によると、子供の頃この畑に草取に来るのが楽しみであった。草取をしながら大小の黒耀石を拾つて集めることが出来たからである。今回の調査では、灰釉陶器破片 2 個を採集することができた。傾斜地であるため、開発されない所であろう。

### (38) 城山遺跡

所在地 上伊那郡宮田村1,336 (2,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月15日

調査担当者 友野良一、太田保

#### 調査状況

山頂、大正末年桑畠を開くため開耕をした。浅い所では20cm、深いところで40cmの層位から炭化物が出土し、その量もかなりの厚さで堆積していた。その一角より、角釘、黒釉陶器破片、薄い茶色の甕陶器？破片が出土した。現在南と東側に約 1 m くらいの土壁と西と北側に浅くなつてしまつたが、空堀も残つている。畑も山林となつて、以前桑を植えたものも手を入れないので野桑になつてしまつている。城山全地域は畑を開耕されなかつた話で、計画的調査をしたらと村文化財保護調査委員で話が出ている。

### (39) 西明寺跡及堂寺

所在地 上伊那郡宮田村1313 (1,200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月15日

調査者 友野良一、太田保

#### 調査状況

山腹、林内にある。現真慶寺の祖寺と伝はつている。西明寺は山津波により本堂が破壊されわざかに山腹に平な場所が残つているが、遺物や、遺構は発見されておらず、真慶寺にも記録は無い様子である。堂寺は、西明寺が山津波を受けた後に建立されたが火災によつて無くなつた寺で、その後、真慶寺の現在の場所に建立されたと伝つている。現在畠で、深耕によつて、灰、炭化物が多量に出土した、遺物は出土していない。

#### (40) 宮の沢遺跡

所在地 上伊那郡宮田村684.685.686 (50m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月17日

調査担当者 友野良一、太田保

##### 調査状況

宮の沢川扇状地で、山麓から続いて傾斜地、明治初年、木小屋を建てるとき、地均をしたところ、馬貝と土師器器1個完形品が出土した。この地は木小屋のはかい、山林であつて遺跡の調査は不明であるが、約50m東に元宮神社があり、近くに古墳もあることから、出土遺物から見て古墳ではないかと思われる。

細かい角礫が混る黒土層が平均して50cmあり、その下層は、同じような角礫が混り、ロームが混じた褐色土層が堆積している。

#### (41) 元宮神社東地区

所在地 上伊那郡宮田村1274—1275—1278.1279 (6000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月17日

調査者 友野良一、太田保

##### 調査状況

山麓より続く傾斜地、傾斜5度、黒土層50cm~100cmで一定でないが、深い場所に遺溝があるのかもしれない。黒土層に続いて、細かい角礫が混じた褐色土層になる。遺物は黒土層中60~100cmに多く出土し、深耕中に石組炉址遺溝もあり、そのまわりから、縄文中期土器破片が多量出土した、耕作者に聞くところによると住居址と考えられる、床面などの遺溝は黒土層中にあつて見にわけがむずかしい様子である。深い井戸を掘つて水を上げて水田を作つたらと一部の人達に話があるが、計画を立案するまでにはなつていないことである。

#### (42) 広垣外遺跡

所在地 上伊那郡宮田村677—720まで (5000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月17日

調査者 友野良一、太田保

##### 調査状況

南に傾斜した扇状地、平均傾斜5度、黒土層40~70cm、小粒の角礫が混じた褐色土層に続く果樹園や深耕により3地点から住居址が発見し、またカマドに使われたと考えられる。長方形の石が焼けて掘り出された地点も何箇所もある。遺物は、縄文時代中期のものと、土師器、須恵器、灰釉陶器、など、古墳時代から奈良平安時代の遺物があり傾斜地に続いて湿地地域から、古式水田に使われた木クイなどを発見し、宮田駅址がこの地域の一部にあつたと考える人もいて、だいに計画的な調査を行う計画をたてている。深い井戸を掘つて水をくみ、水田を作る計画を立案している人がいる。

#### (43) 天白古墳

所在地 上伊那郡宮田村413 (950m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月17日

調査者 友野良一、太田保

#### 調査状況

山麓から傾斜する傾斜地に占地した、東西35m南北27m高さ4m、小円墳である。

現在円溝は不明であるがおそらく空掘があつたものであろうか、傾斜地のために埋まつてしまつた。古墳の頂上に天白社が祭つてあつた。それを建てたとき、128×105厚さ40cmの平磐石現存。北割公民館東康子塔が掘り出され、又戦争中に甘藷を保存するためのいも穴が古墳北側に掘られて少し形がくずれている。

宮田駅址とともに、宮田村古代史の解明に重要な遺跡であるので、宮田村の史跡として教育委員会で指定してある。

#### (44) 真米遺跡

所在地 上伊那郡宮田村400から412まで、420, 1231, 1232 (20,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月17日

調査者 友野良一、太田保

#### 調査状況

山麓で傾斜地、平均6度の傾斜地域である。細かい角礫が混じつた黒色土が1.5m～2m堆積して以下褐色土層になる。遺物は黒色土層中にあつて、ある地域では焼土とともに炉址状の石組や炭化物が堆積していた。これらの遺溝は、貯水池を作る工事によつて発見されたので、住居址であるのか祭祀的な遺跡であるのか、その性格がわかつていないけれども、出土した土器は、縄文時代後期末から晩期初期の、長野県下にまだ発見されていない文様があるため、宮田村教育委員会を中心に発掘調査を計画したい話も出ており、保存の対策も考えている。現在遺跡の大きさその分布の状態など、地表下2mであつてつかみにくいが、灰釉陶器などが散布する地域は山麓まで広く分布するので真米遺跡をその分布地域内に決めている。

#### (45) 伏戸遺跡

所在地 上伊那郡宮田村286, 313, 211, 313, 316, 287, 288, 330, 335, 307 (5,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月17日

調査者 友野良一、太田保

#### 調査状況

山腹、山麓で傾斜地で山林、林が主体部で畑、宅地が一部である。明治～大正時代一時畑にしたところに、土器破片が出土した。また、弓道まと場にしたところは、古墳状の小さい墳丘があつた。

統一している畑地には黒釉、灰釉ある小破片陶器が出土している。このあたりの調査は桑、落葉樹の落葉が厚くあつて十分出来なかつた。

#### (46) 南原遺跡

所在地 上伊那郡南箕輪村南原866, 98672, 8673 (14,250m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月24日

調査者 友野良一、林茂樹

#### 調査状況

西天竜水路の西に当る箇所で、南原に通ずる道路の北側、調査を開始しはじめる頃になつて雨は本格的に降り出したので傘を片手に泥濘の烟をあちこちと遺物を控し求める。調査員が巨難的に離れるので時折集結してもらいノートに記録する。

一応平坦地帯であるが、その中には小起伏のある地形で、古くは湧水があつた様に見受られる場所。遺跡は今日まではあまり知られていないかつた遺跡で、我々が調査して始めて確認されたものである。遺物は相当見受られ、地形的よりして集落ではないかと考えられるも、現在のところ、この程度の調査では遺物を包含地とする外はない。遺物は繩文式中期、加曾利E式土器、石斧がある。中央自動車道が本遺跡に直接かかる関係上、調査を必要とする。現在は普通畠であるので保存は普通と思われる。

#### (47) 三本木遺跡

所在地 上伊那郡南箕輪村三本木8672, 8674 (7,650m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月24日

調査者 友野良一、林茂樹

#### 調査状況

小雨模様の寒い日、調査用図面が雨に濡れるので、ビニールに包み傘の下で、出土遺物の記入を行う。西天竜のサイホンの終近い地点の西は、南原遺跡に続く箇所に連つて、南に傾斜している畠に多く遺物は発見された。

本遺跡は南原の北僅かな凹地を挟んで対比している遺跡である。一般的には平坦地と云われる地形であるが、この東あたりより沢尻の洞が形成されている。その西端とも云うべき所。遺跡は現在畠地、表面に遺物が散布している遺物包含遺跡である。遺物は繩文式中期、加曾利E式土器がある。中央自動車道が通過する予定地であるため、開墾に及んでは調査を必要とする。畠地及一部山林保存状態は良い方。

#### (48) 曾利目遺跡

所在地 上伊那郡南箕輪村曾利目8460, 8462, 8586 (9,100m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月24日

調査者 友野良一、林茂樹

#### 調査状況

本遺跡は、南原、三本木両遺跡の北統きに当る遺跡で、現在は山林であるが、以上二遺跡より、自然的立地条件は良い箇所であり、特に地名が曾利目と云うからには、今迄こうした地名の所には必ずと云う程大遺跡の発見を見る例が多いところより、予想される遺跡と考えて見た。

沢尻北遺跡と三本木遺跡との中间にあたる場所で、両遺跡に比して一段と低い位置にあり、風当たりも両遺跡に比べて住居に適している環境を有している遺跡である。現在山林であるため、遺物の採取は出来得ない。遺跡は以上の環境にある遺跡であるため、遺構等は発見されていない。遺物は今回の調査に於ては、採取は出来得なかつた。予想される遺跡として本遺跡を選定したのである

が、これはあくまで予想される遺跡という域を脱しないものである。今回道路の中心部に当る関係上工事に当つては特に注意して欲しい遺跡である。山林で保存は良好。

#### (49) 沢尻北遺跡

所 在 地 上伊那郡南箕輪村沢尻 (5,580m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月24日

調 査 者 友野良一、林茂樹

#### 調査状況

曾利自遺跡の北の沢をかけ上つた段丘上が、沢尻遺跡である。この頃より雨はようやく小降りになつて調査もやり易くなる。中央自動車道の通過する予定箇所には、本日の調査では余り多くの遺物を採取し得なかつたが、南箕輪村文化財委員会が4月調査を実施した時多くの遺物を採取している。

福沢洞の北段丘上に分布している遺跡で、僅か東南の方向に傾斜し一部段丘端は山林になつている。遺跡は現在のところ、遺物包含遺跡として処理する外はない遺跡であるが、出土遺物からして縄文中期主体とする遺跡である。

遺物、、縄文式中期末は比定する遺物、石器は打石斧がある。本遺跡も、中央自動車道が直接かかる地点に当るため、開発時には十分な調査が必要である。山林、畑であるため、現在としては保存状態は良好である。

#### (50) 大芝西遺跡

所 在 地 上伊那郡南箕輪村大芝原2380 (16,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月24日

調 査 者 友野良一、林茂樹

#### 調査状況

本遺跡は本年4月南箕輪教育委員会が、県教育委員会の分布調査に先がけ、調査した時、発見された遺跡である。従つて出土範囲、出土遺物等は大方解つていたので本日のところは、主に遺跡の境界を追求することに主眼を置いて調査を実施した。

大芝西遺跡は、大泉川の右岸の河成段丘上に分布する遺跡である。本遺跡は、僅かな傾斜をもつて南面し、ローム質層の上の黒色土と、小礫を混じえた地質中より遺物は出土する。現在は普通畑と桑園になつていて、又、道路の北側大泉川迄は、松林であるが、一部この松林中より縄文中期の土器が発見されたので、この松林の一帯にも遺物が出土することは確かである。遺跡は、2箇所にPitを設けたところ、2箇所共多くの遺物が出土した事実は、相当に住居址が存在することを物語つていると思う。その時代は、出土遺物示す如く、縄文式中期初頭、中期中葉、古墳、平安時代の遺跡であることはたしかである。遺物は中期初頭形式、勝板式、加曾利E式、須恵器、土師器、灰釉等である。本遺跡は、大芝東遺跡で述べたとおり塙ノ井天伯遺跡で発見された、縄文中期初頭より弥生式、古墳時代の集落が認められたと略同様な遺跡であるとするなれば、天伯遺跡で十分調査研究出来得なかつた。幾つかの問題も、この大芝遺跡で研究出来得るとしたら、この時代の集落址研究に多大な貢献をすると考えられる。重要な遺跡である。現在は普通畑と桑園であるため保存は良い。

方と考えられる。今回中央道路開さくに当つては是非調査を希望する。

(51) 大芝東遺跡

所在地 上伊那郡南箕輪村大芝原2390 (26,250m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月24日

調査者 友野良一、林茂樹

調査状況

本遺跡は本年4月南箕輪教育委員会が、県教育委員会の分布調査に先がけ調査した時発見された遺跡である。従つて出土範囲、出土遺物等は大方解つてゐたので、本日のところは主に遺跡の限界を追求することに主眼を置いて調査を実施した。

大芝東遺跡は、大泉川の右岸河成段丘上に分布する遺跡である。本遺跡は僅かな傾斜をもつて南面し、ローム質層の上に黒色土と小礫を混じえた地質より遺物は出土する。現在は普通烟と桑園になつてゐる。又道路の北側は大泉川迄は松林であるが、一部この松林中より縄文中期の土器が発見されたので、この松林一帯にも遺物が出土することは確かである。

遺跡は二箇所にPitを設けたところ、2箇所共黒色土中から縄文式中期の遺物と須恵器等が発見されたが住居址かどうか、明かにすることは出来得なかつたが、遺物出土状況からして、古墳時代を主体とする大集落址と考えられる。

遺物は勝坂式、加曾利E式、土師器、須恵器、灰釉。本遺跡は、塩ノ井天伯遺跡の如き、縄文中期初頭、中期中葉、須恵、土師、灰釉等の遺物が出土するところから、縄文式時代の遺跡を、土師、灰釉時代が切込んだと考えられる遺跡である。現在普通烟、桑烟、と一部大泉川に添つた道路北側の松林であるため、保存は良い状態である。今回上伊那の中央道路にかかる遺跡としては、特に重要な遺跡である。

(52) 南高根遺跡

所在地 上伊那郡南箕輪2249, 2252, 2257 (6,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月24日

調査者 友野良一、林茂樹

調査状況

大泉川を渡る頃より寒さは加わり調査員一同顔を赤らめながら、一片も見逃すことのない様に土器を求めて探る。土の表面に時折見つけ出すことが出来た。

この地帯は大泉川の河床とも云うべき所であることが本遺跡の特徴である。遺物は砂質土中から発見されている状況。

遺跡、大泉川の河川区域の中にある特殊な遺跡で、出土する遺物からして縄文式中期の遺跡である。遺物は破片が小さく文様は明かでないが、縄文式中期加曾利E式後期のもの、中央自動車道が通過する位置からして、工事に際して十分調査してほしい遺跡。水田、畠地、山林にて保存は良い。

(53) 北高根遺跡

所在地 上伊那郡南箕輪村2250, 2255 (23,800m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月24日

## 調査状況

調査者 友野良一、林茂樹

大泉川を渡る頃依り寒さは更に加わり、調査員はほほを赤らめながら、桑株の根を分けながら、土の表面の現れている箇所を土器を求めてくまなく探る。砂礫の相間より時折見つけ出すことができた。

この地帯は大泉川の河床とも云うべき所であることは本遺跡の特徴である。従つて一般遺跡の様にローム質層が黒色土の下にあるのではなく、砂質土中から遺物が発見されている状況である。遺跡は大泉川の河川区域の中にある特殊な遺跡で、出土する遺物よりして縄文式中期の遺跡である。遺物は縄文式中期加曾利E式後期のもの、破片が小さく文様は明かでない。中央自動車道が通過する位置でもあることから、工事に際しては十分調査して欲しい遺跡である現在は水田、及び畑地、山林。

### (54) 南大原遺跡

所在地 長野県上伊那郡箕輪町中箕輪大原11260～663 (2,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月26日

調査者 柴登己夫、御子柴泰正、小川守人

## 調査状況

帶無川左岸の北方にあり、遺跡は果樹園、桑園・野菜畠等入り組んでいる。縄文中期加曾利E式土器、黒耀石塊を探集。

湧水なく水を求めるには南方帶無川まで約750mを往復しなければならない。畠は砂礫が多い。採集遺物が少ないと地形から見て、住居跡等は望めない永住の地を定めるには、条件が悪く暫定的生活が営まれたものと思う。保存状況はよいが、農業改善事業により近い将来破壊される。

### (55) 堂地遺跡

所在地 長野県上伊那郡箕輪町中箕輪堂地83502 (1,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月26日

調査者 柴登己夫、御子柴泰正、小川守人

## 調査状況

松島区北端、深沢川の右岸水面より50～60mの台地上に中道遺跡と相対している。大槻照雄氏が深耕中、土師時代後期住居跡カマドの一部を発見された土師器片10数点出土。附近の畠には須恵器、灰釉陶器、土師器の破片が多く散在する。カマドの遺構は南箕輪村天日遺跡22号と類似し、長さ40cm、巾20cmの石を縦に2箇並べて粘土をはりつけてある。附近に住居跡が數多くあると思われ、調査が必要である。

### (57) 大原遺跡

所在地 長野県上伊那郡箕輪町中箕輪大原11208 (20,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月26日

調査者 柴登己夫、御子柴泰正、小川守人

## 調査状況

深沢川の右岸にあり、堂地遺跡と地づきである。西天竜幹線の上や高台にある。土師器、須

恵器等土師時代後期の遺物を採集。近い将来に農業構造改善事業により開田化される。

(58) 中道遺跡

所在地 長野県上伊那郡箕輪町中箕輪中道3284の1 (16,2000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月26日

調査者 柴登己夫、御子柴泰正、小川守人

調査状況

深沢川左岸、水面より50~60mの台地上にあり當地遺跡と相対す。西天竜開田工事により遺跡の大半が水田になつてゐる。残された畠地には土師器、須恵器、灰陶陶器が散在する。遺存状況はよい。

(59) 太夫塚古墳

所在地 長野県上伊那郡箕輪町中箕輪大出3216 (375m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年11月26日

調査者 柴登己夫、御子柴泰正、小川守人

調査状況

大出区高橋神社の西地にある円墳で、形態もはつきりしている。大小の雜木が茂り、口碑伝説等はない。遺存状況は良い。

(60) 在家遺跡

調査箇所 長野県伊那市西箕輪大萱

調査年月日 昭和42年11月24日

調査者 友野良一、林茂樹

調査状況

在家という地名は古くは平安時代に使われた地名といわれている。伊那に於ても古い地名の一つである。在家の位置も熊野社の南東200m、川の南にあり、現在附近は水田であるが開拓前は熊野社附近と同じく畠地と原野であつて、遺物も見受けられたという話を部落の人から聞いた。現在は調査する由もないが、地名と云い地形といい遺跡としてよいと認められるものである。

(61) 北丘A遺跡

所在地 伊那市東春近木裏原10746の143-149 (800.00m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年11月18日

調査者 北原、長瀬、三村、友野、矢島、太田、小川、御子柴

調査状況

晴天の中での調査、それに本日最終の遺跡である。日没近くに白井明美氏がこの地区的出土遺物を保管している事を知り見せて載き写真をとる。繩文土器、ほぼ完形品である。北丘Aは便宜上木裏原を四分割した北より第2地区である。北側をこの原の用水路が流れ、この用水路も小さな沢を利用しておる。遺跡は西の山麓から東の段丘先まで広範囲に分布しておる。遺跡の山麓に近い方は繩文が多く、天竜川に近い東方は弥生から平安に近い土師器片も出土しており、時代的な地形条件を考慮した。今後の調査に是非必要な遺跡である。

#### (62) 白沢原遺跡

所在地 伊那市西春近白沢4000の1~2 (221100m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年11月19日

調査者 北原、長瀬、三村、矢島、太田、小川、友野、御子柴

##### 調査状況

太田切川の東岸、山麓近くに大量の縄文から平安にかけての土器片、石器等を発見し分布調査の必要性を充分に感じこれを名跡遺跡とし、それに小さな小川を境に北を白沢原遺跡とした。白沢原遺跡はその北200mぐらいの処は数十年前に土砂の押出しがありやや高目になっている為、僅かではあるが小川に臨む低湿地である現在は畑地と宅地となつておる。ここでの出土遺物は縄文土器片が主で打石斧等僅かではあるが採集された。地層的には安定しており黒土一ロームとはつきり層位を確認出来た。黒土の深さはやや深く60cmぐらいと思われる。

#### (63) 富士塚

所在地 伊那市西春近諏訪形7813の2~3 (630m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年11月18日

調査者 北原、長瀬、友野、三村、矢島、太田、小川、御子柴

##### 調査状況

調査第1日目として伊那市文化財審議委員の皆さん、それに調査員全員出席して調査を開始した。晴天の調査は順調である。富士塚は諏訪形地区諏訪神社より北西へ400m程の処にある西山脈の山麓である。現在は桑園畠地となつており、一見自然の段丘状である。地元の方の話ではこれが富士塚であると古くから云われているとの事である。おそらく江戸からの富士山信仰につながるものと思われ、伊那市における中央道通過線上唯一の富士塚として充分なる調査が必要である。

#### (64) 山寺垣外遺跡

所在地 伊那市西春近白沢3410 (7500m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年11月19日

調査者 北原、長瀬、三村、友野、矢島、太田、小川、御子柴

##### 調査状況

本遺跡は小戸沢川による扇状地で、この地区特有の砂礫を多量に含む地質である。本遺跡の大半は明治年間に開田されており、その際にはほぼ完形と思われるカメが4個並んで出土したと云われている。やはり押し出しの扇状地形成後に縄文人が居を構えたものと考えられる。今后の開発に際して充分な調査が必要である。

#### (65) 細ヶ谷遺跡

所在地 伊那市西春近小出3359 (3600m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年11月19日

調査者 北原、長瀬、三村、友野、矢島、太田、小川、御子柴

##### 調査状況

北ノ沢により押し出された扇状地の為、土中に多量の砂礫を含む本遺跡は、此度の調査により発見

されたものであり、遺物も縄文中期を主に割合少ないものである。しかし本遺跡も含めて大境、山寺垣外、山根、中原、等西山脈より流出する沢による押し出しの多量に砂礫を含む土中よりの遺物出土は、おそらくこの層位中に当時の生活面があるものと思われ、この点今後特に注意する必要がある。

#### (66) 中原遺跡

所在地 伊那市西春近小出506の1~4と29 (14000m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年11月19日

調査者 北原、長瀬、三村、友野、矢島、太田、小川、御子柴

##### 調査状況

山麓の言葉通りの遺跡である西側はすぐに中央アルプスに連なる山になりその山より流れ出る北の沢と淀ヶ沢により形成された幅70mぐらい長さ200mぐらいの舌状の台地である。その基部の方に本遺跡はある。桑園の耕作中にかなりの住居址と思われるものもあるらしい。本遺跡は上伊那郡下にも数少ない縄文後期のものと思われる土器片がかなり出土している。後期の単独遺跡として見るなれば、この遺跡もまた重要な一つである。今後是非充分な調査を行うべきである。この様な山麓に後期のある事にも注意を必要とする。

#### (67) 赤坂遺跡

所在地 伊那市小黒原7227の161615851734 (9000m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年11月20日

調査者 北原、長瀬、三村、友野、矢島、御子柴

##### 調査状況

中央アルプスの連脈、将棋頭より流れ天竜川に入る小黒川の左岸に本遺跡は位する。この遺跡に此度の調査により発見されたもので、今後の調査にその精査が必要である。この小黒川の左岸段丘上には天竜川に近い方から伊勢並下段、上段伊勢並、八人境、本遺跡、城畠、鼠平等と大遺跡だけでも数ヶ所を数える事が出来る。小黒川水系の遺跡分布上重要な位置を占る赤坂遺跡は中央道がその中心と思われる所を通る為、その建設に当つては充分な調査を行う必要があるものと思われる。なお出土遺物は縄文土器片數片である。

#### (68) ますみが丘遺跡

所在地 伊那市小黒原218の17 (4230m<sup>2</sup>)

調査日 柴和42年11月20日

調査者 北原、長瀬、三村、友野、矢島、御子柴

##### 調査状況

天竜川による河成段丘第四段丘の拡大な小黒原のはば中程に本遺跡はある。此度の調査により土器片が表面採集された為遺物包含地としたわけである。その為よりくわしい事は今後の調査にまたなければならないが、遺物から見て縄文の土器片である事は確実である。現在も凹地らしい所もない為集落としての可能性は薄いものと思われる。

#### (69) 月見松遺跡

所在地 伊那市下小沢北原8069の5 (54600m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年11月20日

調査者 北原、長瀬、三村、友野、矢島、御子柴

#### 調査状況

月見松遺跡は、天竜川の支流小沢川の左岸に位置し、南は天竜川が南下する為国原は開け、東は南アルプスの仙丈東駒の連山を望み西には中央アルプス将棋頭を仰ぎ見る風光明媚な安定した段丘上の遺跡である。本遺跡は古くより遺物が出土しており、桑園耕作中に大量の土器片、石器が表面に散乱しておる。おそらく縄文中期を中心とした大集落が埋没しているものと思われる。中央道はこの遺跡の東端を走るわけであるので、その際には本郷においても有数の大遺跡たる事を充分熟知の上その保存については最大の考慮を払う事が必要である。

#### (70) 木裏原南丘B遺跡

所在地 伊那市西春近木裏原10746の138 (9000m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年11月18日

調査者 北原、友野、小川、三村、矢島、御子柴、長瀬

#### 調査状況

本遺跡は南に猪ノ沢川北に太田切川の中間にある広大な山麓丘地木裏原南丘のほぼ中央部全域に広がる遺跡地である。当南丘B遺跡は南丘A遺跡北側に接続する標高730m中央道予定路線上から西方へ60m、南北150mの地域に黒色土層約1m中绳文中期型式、打製敲製石斧、石皿等の出土頻度が多い。A遺跡よりB遺跡にかけてくるほど土師の出土数が多くなつてくる。A地区同様東方前方はるか赤石の連山を眺め三峯、天竜の合流低地を下方に望む縄文期の居住性に富んだ地形である。木裏原全遺跡とも同一共通性があるがと考えるが、土師の頻度数の多い点縄文から土師への移行期究明を目的として調査研究し記録保存する必要のある一地区として設定した。

#### (71) 木裏原南丘A遺跡

所在地 伊那市西春近南丘4105

調査日 昭和42年11月18日

調査者 北原、友野、小川、三村、柴、矢島、御子柴、長瀬

#### 調査状況

本遺跡は南に猪ノ沢川北に太田切川の中間にある広大な遺跡地で、南丘A地区は猪ノ沢川の北岸段丘上に山際より東西600m以上、南北120mに帶状に沢に沿つて全面にある密集落地帯と思う。東前方はるか、赤石の山々を望み三峯川と天竜川の合流地域をはるか下に望む標高730mの縄文集落として絶好地である。中央道が本遺跡を横断するのであるが、当地域からは黒土層50m下に縄文土器住居、土師、弥生の埋め戸址、須恵など多数発見されており、縄文期から弥生、土師、須恵の各時代が重層された複合遺跡としての重要性をもつと思う。よつて完全調査をし、記録保存を絶対に必要とする地籍である。

#### (72) 南村遺跡

所在地 伊那市西春近区柿沢4401 (37500m<sup>2</sup>)

調査期日 昭和42年11月18日

調査者 北原、友野、小川、柴、三村、矢島、御子柴、長瀬

##### 調査状況

本遺跡は西春近区柿沢部落中央部の西部山麓に近い一帯で標高690mあたりに、東西250m、南北150mに広がり、山麓丘地上を北側と南側に有る二つの沢によって東西に東流する沢で区切られた斜面地にある。現在大部分が水田となつてゐるが、かつて水田工事にあたり、焼石炉址、縄文中期土器、石器類など數個所発見され住居群跡と推定されている遺跡地である。しかし工事によつてある程度破壊され、確実な調査記録ないのが現状である。よつて中央予定路線より東方30~40mに出土頻度多いが、沿線上にも住居址の可能性を内包しているので要調査地点であり、この際住居群の全貌を明らかにし縄文中期の集落形態を調査記録保存する必要があると思う。

#### (73) 和手遺跡

所在地 伊那市西春近区諏訪形和手7981~85

調査日 昭和42年11月18日

調査者 北原、友野、柴、三村、小川、矢島、御子、柴、長瀬

##### 調査状況

本遺跡包含地は諏訪神社正派寺南西部辺に位置し、10~5度の急斜面扇状台地で山麓近くに広がる。この辺一帯は約百年前山崩があり、礫土砂が押し出し住居が避難したほどで現在も1米以上の層あり、おそらく竪穴住居はその層下更に深く埋つてゐると思う。従つて現在斜角からは住居不適と思うが南に小沢流れ西に山を背に以前は斜角4度程で東南に広く開けた適地地形であつたろう。出土品頻度数は少ないが北端部に縄文中期土器片を採集した。他に土師、須恵器など出土し現在西春近南小学校に保管されている。神社前入口などに特に出土多いようである。縄文中期を主体とした土師、須恵の重層する遺跡であろう。なお隣接の金燒場周辺も地形から遺跡可能地であるが押し出し土塊のため調査不能。

#### (74) 落葉沢遺跡

所在地 伊那市西春近区原7723, 7806, 7791~98 (73500m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年11月18日

調査者 北原、友野、柴、三村、小川、矢島、御子柴、長瀬

##### 調査状況

本遺跡は西春近原乃井の久保部落西方標高700mの山麓一帯約3度傾斜を有する比較的平坦な台地面上に展開する広大な遺跡地で、北側には東西に東流する藤沢川が流れ、東前方にははるか仙丈駒など赤石山脈が連なり、眼前に流れる天竜と一大バノラマの眺めはすばらしい位置にある。本遺跡南方一帯には富士山下遺跡が隣接し、山麓との界には今だ鹿垣が現存しているし、黒土層約80cm下には縄文中期を主体にした土器、石斧、土師、須恵、灰釉など夥しい出土品を見る。恐らく縄文から平安にかけて当地方区の大中心地であつたろうと思う。本遺跡の中央部に中央道が設定

されたが心藏部を破壊することとなるので、この際調査の重要対照地域と考える。

(75) 富士山下遺跡

所 在 地 伊那市西春近区諏訪形荒井7816の2~3 (11000m<sup>2</sup>)

調 査 日 昭和42年11月18日

調 査 者 北原、友野、柴、三村、小川、矢島、御子柴、長瀬

調査状況

本遺跡包含地は、諏訪形荒井地区西部山麓一体に広がる。特に出土品頻度数の多いのは、中央部予定路線地上東西100m南北110m程の地域である。この辺一帯は山裾の平坦部で東方に向つて天竜川流域へ3°~4°のゆるやかな傾斜面上にある一地域である。黒色土の深さも比較的浅く60cm平均位であつて耕作中もよく土器片、小型石斧、判磨製石斧砥石状の石器などの石器類も多く拾つたとの事である。事実調査に際しても縄文土器片、灰釉土器片など採集しているところからしても、縄文中期初頭期から平安期末期にかけての遺跡が化合されていることは間違いないことと推定される。尚本地籍は今だつて未調査地域である故この際本発掘調査をも要する地域であろう。

(76) 木裏原北丘B遺跡

所 在 地 伊那市西春近木裏原10746の143~49 (180000m<sup>2</sup>)

調 査 日 昭和42年11月18日

調 査 者 北原、友野、小川、矢島、三村、柴、御子柴、長瀬

調査状況

本遺跡は木裏原北丘一体で北側に太田切川が段丘下に流れ東方3°~4°の傾斜を有する山麓丘地でB遺跡との間に小沢によつて一応区切つた遺跡地であるがA B遺跡同様同一共通性ある地形で標高750m、東西600m、南北300mの広大な遺跡面で中央道路線がほぼ中央を横断することとなる地形からして恐らく太田切川対岸二重段への渡河点と推定される性格を有した特質遺跡であろう。黒土層約80cm位下石製模造品、石斧、黒曜石禪文中期後期土器などの出土夥しく、住居址焼土炉址など數個所発見構築量平宅にも住居址存する。禪文中期後期を中軸として縄文期における本裏原遺跡の性格究明に必要不可欠の地域であり記録保存、又渡河点としての性格上あるいは原形保存したき地なり。

(77) 名廻り遺跡

所 在 地 伊那市西春近区白沢3970、3971、3968

調 査 日 昭和42年11月19日

調 査 者 北原、友野、小川、三村、矢島、柴、御子柴、長瀬

調査状況

本遺跡は西春近名廻りや地籍にあつて太田切川の北岸段丘上標高730mの山麓丘地で、東方に約4度の緩傾斜を有する丘上で丘の南と北に小沢が共に東流し合流するまでの三角地形で東前方に仙丈の連山を眺め三峠川天竜川の合流地を下方に望む高台である。附近には鎮護塚など古墳群があり、二重段遺跡と共に木裏原遺跡の対岸にあつて渡河点との関係を内包する遺跡であるかも知れぬ。東西280m、南北300mの広さに中央部に中央道が横断する。この辺一帯は戰時農耕隊によつて

開拓された黒土層60cm<sup>2</sup>今なお繩文、土師、灰釉穴入耳飾石斧など多数の遺物採集され繩文から土師平安期遺跡の比較的荒されていない宝庫である。未調査地帯なのでこの際調査記録保存する必要ある地域である。

#### (78) 宮林遺跡

所在地 伊那市西春近区域728 (4900m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年11月19日

調査者 北原、友野、小川、柴、矢島、三村、御子柴、長瀬

#### 調査状況

本遺跡は西春近区、部落の山麓に近いなぎの沢の石岸扇状地でなぎの沢の南側小段丘上標高715m、上東西70m、南北70mの一区域にあって近くに湧水もあり東方はるか赤石山脈を望み三峠川と天竜川の合流低地を眺める住居に適した地である。黒色土層約30cm<sup>1</sup>表土上に加曾利隆起文波状文施文土器片出土、他に三沢宅南前水田より石器、他に焼石など見られ、住居址に発見されていないが、繩文中期を中心とした遺構が発見可能である。未調査であるし、中央道が本遺跡西方30mを横断する所以工事には充分注意を要するし、調査記録保存をしたい地である。

#### (79) 大境遺跡

所在地 伊那市西春近区宮の原478の2

調査日 昭和42年11月19日

調査者 北原、友野、小川、柴、三村、矢島、御子柴、長瀬

#### 調査状況

本遺跡は西春近小出宮、原大境部落の西部山麓に近い標高720m、よだの沢の北岸扇状地で東北にある沢との中間地で東方へ約4度の傾斜をもつ水便風景とも住居に好適地に東西180m、南北230mに広がる。砂礫質の土層で現在表土より、繩文中期加曾利E型土器片、打製、半磨、石斧、灰釉などが採集される。今までに遺溝は発見されていないが繩文中期を中心とする調査対照地であり、中央道が本遺跡の中央部西よりを横断することになり、破壊されること、未調査地域であることなど調査し記録保存を要する地である。

#### (80) 城平上遺跡

所在地 伊那市西春近区山本838

調査日 昭和42年11月19日

調査者 北原、友野、小川、柴、矢島、三村、御子柴、長瀬

#### 調査状況

本遺跡は西春近山本部落西方部山麓丘地帯標高730m、約5度傾斜を有し、東北方向小里川に向つて斜向する丘地で南になぎ沢西北に小沢の中間の北西部にあつて、東に面し日照状態もほどよく住居に適した地形である。黒色土層約1mであるが、現在表土上にも土師を中心として繩文、陶器様の新しい灰釉などを採集される点、土師を中心とした遺跡であろうと考えられる。中央道は本遺跡より約20m東寄りを横断することになる。本遺跡は過去においても未調査地であること、また土師期を中心として新しい灰釉期にいたる逆つては繩文への推移重層遺跡として調査を必要とする地点

である。この際調査し記録保存を必要とする。遺跡の東西 16m、南北 100m に比較的密集する。

(81) 山の根遺跡

所在地 伊那市西春近区城441

調査日 昭和42年11月19日

調査者 北原、友野、小川、柴、矢島、三村、御子柴、長瀬

調査状況

本遺跡は山ノ根、小出部落の西方山麓に近い約5度の傾斜を有する。なぎの沢の扇状地南岸、白山神社の南一帯に東西200m、南北200mほどに広がる。礫混入土層黒色土層約1.5mほどで現在表土にも縄文中期型土器片、石斧など散在している。溝上一氏談によれば開田時にも土師灰釉なども多数出土し住居址も発見されたとのことである。当地は西春近一帯同様風景もよく住居址に好適地形である。土師を中心とした縄文、土師、須恵に至る古墳期の集落調査の対照地で現在まで未調査地であり、中央道が中央部を横断するので調査し記録保存を要する地域である。

(82) 城平遺跡

所在地 伊那市西春近区山本802~813 (12600m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年11月19日

調査者 北原、友野、小川、柴、三村、矢島、御子柴、長瀬

調査状況

本遺跡は西春近山本部落中央部に位置しなぎの沢の北の扇状地北限の比較的平坦地にあって西部に山を背に東方に広げた日照もほぼよい住居に適した地形上で、標高720mに東西約70m、南北に180mに遺物密集しており、ロームまで約1.5m現在表土上に縄文中期型、土師、須恵灰釉など散在し、遺溝は発見されていないが、縄文期から灰釉期に至る複合の住居址発見される可能性を充分内蔵している。本遺跡は過去未調査地区であるし、中央道が遺跡全面上を横断し破壊される可能性があるので、この際充分調査し記録保存を要する地域である。

(83) 熊野社遺跡

調査地 長野県伊那市西箕輪大萱

調査日 昭和42年11月24日

調査者 友野良一、林茂樹

調査状況

熊野社遺跡は古くから知られている遺跡である。熊野社は熊野権現信仰が信州に入つて来た平安頃の神社ではないかと考えられる。西方経ヶ岳には権現を祭る社殿もあり、この地が権現信仰が盛んな地であると聞くところから、その頃造られた神社ではないか、遺物は縄文中期の土器が出土している。又東南200mに「在家」等の地名があることは、平安時代の古社と考えられるもの。

福島原遺跡分布調査

伊那市東方福島原遺跡の所在地状況が明らかになつたのは、本年12月1日、中央道関係の分布調査を実施した時、伊那市文化財専門委員らの実地見聞した報告があり、更に伊那土地改良区の土地改良事業が進行中である由であつた。

中央道予定路線の近くにあり、今後の公団との交渉資料にもなるので急速分布調査を実施することにした。

明けて1月30日、ようやく調査態勢も整つたので分布調査を開始した。調査員には、指導主任林茂樹、嘱託下平秀夫が当り補助員（特別人夫）として北原真人、遮部藤麻呂、戸前博之、三村兼清、友野良一、柴登巳夫、根津清志、御子柴泰正が当り、作業員地元人夫30名を使用して2月8日までの日数を費した。

中途で風雪に見舞われ、零下12度の凍土の地表および地下の調査は極めて苦難な調査であつたが、土地改良事業も進行中で至るところに遺物、遺構が露出散乱しており、その範囲は、約20ヘクタールに及んでいた。すべて平安時代に所属する灰陶陶器・土師器・須恵器・金属器等の破片であり、これは、地区毎にカードに記載されているので省略する。

土地改良事業の及んでいない約8ヘクタールの土地について、若干の発掘を試みた。この結果8箇所のトレンチにおいて14戸の竪穴住居址と3箇所に柱穴址（高床式建造物）を検出し、この地域全体に平安時代の落集が存在したことが明らかに確認できた。これらの詳細は、別途に報告書を刊行する予定であるが、平安中期にこの地域的30ヘクタールに2,000戸の集落があり、信州においても、極めて有力な勢力を保持していたことが推定される。

更に詳細な調査を行なえば、平安期の郷および里の構成を明らかに、は擡できる学術的に貴重な遺跡というべきであろう。

### 3 下伊那地区

#### 調査期日

昭和42年8月1日から昭和42年8月12日まで

#### 調査団

団長 大沢和夫

佐藤勉信、今村善興、宮沢恒之、塩沢仁治、神村透、宮川美佐雄、遮那真周、伴信夫、木下平八郎

#### 1 調査経過

##### ① 調査団編成

団長 大沢和夫（飯田女子短期大学助教授）飯田市松尾2110

団員 佐藤勉信（壳木小学校教諭） 下伊那郡壳木村

〃 今村善興（龜丘中学校教諭） 飯田市座光寺

〃 宮沢恒之（松川中学校教諭） 下伊那郡松川町名子原

〃 塩沢仁治（松川中央小学校教諭） 飯田町座光寺

〃 神村 透（阿南一中教諭） 下伊那郡阿南町富草栗野

〃 宮川美佐雄（喬木等二小学校校長） 飯田市南原

〃 遮那真周（下伊那農業高校教諭） 飯田市伊豆木

〃 伴 信夫（龜中学校教諭） 下伊那郡龜町中平

〃 木下平八郎（商業） 飯田市箕瀬一丁目

調査補助員 宮下勝美（商業） 飯田市大門町

##### □ 調査概要 主要調査日、調査地区、出動した調査員一覧表

期 日	調査地区	大沢	佐藤	今村	宮沢	塩沢	神村	宮川	○那	伴	木下	宮下	その他
8月1日	上郷村	○	○	○					○	○	○	○	7人
2	飯田市上飯田	○	○	○					○	○	○	○	9人
3	飯田市座光寺		○	○		○							7人
4	高森町市田		○	○									10人
5	飯田市伊那良器町	○										○	6人
6													
7	松川町大島		○	○	○			○					11人
8	高森町山吹		○	○	○						○	○	21人
9													
10	松川町上片桐	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	6人
11	阿智村	○	○	○	○	○	○	○	○		○		5人
12	阿智村	○	○	○	○	○	○	○	○		○		8人

その他とあるのは町村の教育委員会の人々、考古学に興味をもつ人、中高校生徒達であり、それらの人々の応援があつたので広い地域の調査ができた。



## ハ 調査結果のまとめ

今回の調査した埋蔵文化財の遺跡数は総計118箇所であり、その内訳は次の通りである。

A 園原より飯田松川まで 500m 幅 30

阿知川橋より西、岐阜県境までは中央道の路線未発表である。更に阿知川橋より飯田松川までは本年3月中心より両側へ100mづつ計200mの幅の分布調査を終了してあるのでそれを除いた。

B 飯田松川より前沢川まで 200m 幅 54

C 飯田松川より前沢川まで 500m 幅 (ただし B を除く) 34

市町村指定文化財は

Bと同じ範囲 15 Cと同じ範囲 12

あつたが、Aの範囲については報告がされなかつた。

要するに今回の、調査よつて中央道によつて破壊されるおそれのある埋蔵文化財遺跡が極めて多數あることを知つた。是等については早急に発掘調査の必要があると思われた。

## 2 遺跡分布

(1)矢平、(2)大垣外、(3)熊四ヶ沢、(4)森の脇、(6)宮の前、(6)小野川平林、(7)イモウ、(8)杉が洞、(9)小野川川端、(10)原の平、(11)姥ヶ塚、(12)坊探古墳、(13)曾山、(14)三木本、(15)駒場中平、(16)えのぎ平、(17)源正平、(18)おち、(19)源ヶ洞、(20)千人塚古墳、(21)宮の脇、(22)かぶき畠、(23)五反田、(24)京田原、(25)御田、(26)山田、(27)石子原、(28)石子原古墳、(29)大塚古墳、(30)白山、(31)桜垣外、(32)孤塚古墳、(33)ようじ原 A、(34)ようじ原 B、(35)櫛明、(36)櫛明古墳、(37)上の平東部、(38)寺山、(39)はりつけ原、(40)源氏垣外、(41)血原、(42)六反田、(43)辻垣外、(44)飛沢井尻、(45)小垣外、(46)三臺湖、(47)砂崖外、(48)上金谷、(49)下金谷、(50)西の原、(51)山岸、(52)天伯 A、(53)天伯 B、(54)桜瀬、(55)森上原、(56)櫻現堂 A、(57)櫻現堂 B、(58)湯波、(59)さつみ、(60)古家屋外、(61)堤、(62)三つ見堂、(63)高田古墳、(64)柏原 A、(65)柏原 B、(66)八幡原、(67)赤坂、(68)上黒田畠中、(69)かじ垣外、(70)五本木、(71)鶴畠、(72)上黒田社宮司、(73)米の原頂上、(74)宮崎 A、(75)宮崎 B、(76)宮崎 C、(77)大門原 A、(78)大門原 B、(79)大門原 C、(80)大門原 D、(81)井下横古墳、(82)北並木、(83)大久保、(84)弓矢、(85)牛牧新田原、(86)イナバ、(87)牛牧上平、(88)無縫宮、(89)鐘鉄原 A、(90)鐘鉄原 B、(91)神堂垣外、(92)大塚古墳、(93)伊勢神社附近、(94)高見古墳、(95)護摩堂、(96)天伯堂、(97)瑞瑪寺前、(98)大島山東部、(99)赤羽根、(100)出原南原、(101)出原東部、(102)出原西部、(103)出早神社附近、(104)正木原 I、(105)正木原 II、(106)追分、(107)豊久保、(108)神田裏、(109)新田南、(110)新田西裏、(111)新田東裏、(112)新切 I、(113)新切 II、(114)二軒屋、(115)川子石、(116)渡瀬、(117)里見 I、(118)里見 II、(119)里見 III、(120)里見 IV、(121)里見 V、(122)里見 VI、(123)境の沢、(124)中原 I、(125)中原 II、(126)中原 III、(127)庚申原 I、(128)庚申原 II、(129)庚申原 III、(130)南桑、(131)平林、(132)やし原、(133)有平、(134)秀子山、(135)片桐神社東、(136)西原、(137)水上、(138)丈源田 I、(139)丈源田 II、(140)丈源田 III、(141)丈源田 IV、(142)吉原 I、(143)吉原 II、(144)並木、(145)関屋原 I、(146)関屋原 II、(147)関屋原 III

(25)、(26)、(28)、(57)、(58)、(59)、(62)は昭和41年に調査済

## 3 各跡の状況

### (1) 矢平遺跡

所在地 下伊那郡阿智村智里矢平3383 (300m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月11日

調査者 宮川美佐雄、佐藤謙信

### 調査状況

8月11日、教育会古学委員7名と阿智村教育委員会及び公民館員4名計11名で小野川より網掛峠を越えて古代の古道を実地踏査した。網掛峠の頂上で石製構造品を多量に採集できるものとの期待

も空しく、既に廃道となつた草にうずもれた道をかきわけ、やつと矢平地域にたどりついた。古代人も地形を選ぶ目は現代人と変らず、矢平を一つの祭祀址と選んだことは注目に値する。既に夕方になつたので時間をかけて採集できなかつたが時間をかけければ相当量の採集品があつたのではないかと思われる。

#### (2) 大垣外遺跡

所在地 下伊那郡阿智村智里2415 (1500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月12日

調査者 大沢和夫、佐藤麿信

##### 調査状況

網掛山の小尾根が急に下つたところに本遺跡がある。土地の熊谷銳三郎氏が50年位前家を建てたとき庭先より多くの石製模造品が出土し今日同氏が保管している。網掛峠は古代東山道が越えた峠であるが頂上より今日の道とは異つて尾根づたいに来るのが古道であり、その古道が下つてふもとおりた地点がこの大垣外であるという熊谷氏の説はうなづくことができる。そうした地形である。この遺跡は網掛峠へかかる麓で此地で峠を祭った祭祀場のあとと考えられる。大切な遺跡で十分に保存したいものである。

#### (3) 猿四ヶ沢遺跡

所在地 下伊那郡阿智村星神494 (3000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月12日

調査者 佐藤麿信、宮沢恒之

##### 調査状況

表面採集を主に調査したが、昭和36年集中豪雨の災害復旧地の土採り場となつた断面に本調査によつて住居址が発見された。阿智川に南面する山麓の小台地で、住居址（堅穴）が土採場の断面に中心部より切りとられている。その土のくずれの中より、縄文加曾利Eの土器片多数と打石斧を採集した。住居址の中心径は5mで、表土の深さ50cm、堅穴の深さは40cmである。住居址の半分は荒地となつて残されており、地形的にみて、なお、いくつかの住居址の存在が予想される。中津川線の路線が上の山腹をとおることになつており、工事の際、破壊されるおそれもあり、工事の際調査が心要である。

#### (4) 森の脇遺跡

所在地 下伊那郡阿智村星神477～4852 (000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月12日

調査者 佐藤麿信、宮沢恒之

##### 調査状況

表面採集を主にして調査し、遺物上一帯に分布することをたしかめた。阿智川に南面する山麓の台地で、桑園と普通畑である。遺物は縄文中期の土器小破片が多く、打石斧4個、黒曜石片数個を採集した。表土は深く、地形的にも、西に谷を距て猿四ヶ沢遺跡があり、住居址の存在も予想される。遺跡の上の山腹で中津川線の路線となつており工事の際に破壊されるおそれもあり注意が必要

と思われる。

(5) 宮の前(星神上平)遺跡

所 在 地 下伊那郡阿智村智重137 (1800m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月12日

調 査 者 大沢和夫、塩沢仁治

調査状況

阿智川の支流梨子野沢が北方より流れ来て阿智川に合する所を星神という、この沢の左岸に残っている古い扇状地がこの宮の前の台地である。山を背影とした森があつてこれがこのあたりに居住する牛山家4軒の氏神であるが、この宮の前の畠が遺跡である。長野県の遺跡台帳にある前田といふのはこの遺跡の連続とも考えらるべきものである。国鉄中津川線がこのあたりを通過する予定であると聞くので、破壊される以前に発掘調査をしてみたい。

(6) 小野川平林遺跡

所 在 地 下伊那郡阿智村智里1006 (15a)

調査年月日 昭和42年8月12日

調 査 者 佐藤勉信、木下平八郎

調査状況

表面採集により遺跡の範囲を確かめ、さらに土地所有者の桑園を作る際の出土品を調査し、縄文中期の住居址のあつたことを確認した。阿智川に北面した低い台地で、遺物は台地の西側に多くみられる。東側は表土が深く、まだ荒らされておらず、住居址の存在が地形的には予想される。遺物は縄文(勝坂式)土器1個体、加曾利E式土器破片多數、打石斧、磨石斧の多くと黒耀石片多數の出土を見ており、表面採集においても多くの土器片と打石斧を採集した。現在、遺跡は桑園で開発計画はなく、遺跡の東側の保存はよい。

(7) イモウ遺跡

所 在 地 下伊那郡阿智村智里1852の3 (15a)

調査年月日 昭和42年8月11日、12日

調 査 者 佐藤勉信、宮沢恒之

調査状況

土地所有者の採集した石器を見、新遺跡として表面採集を主に、ピット1個を掘り調査したが、住居址は確認されなかつた。台地の突端にあつて遺物は密集していた。地主の話では田を桑園になおす際、住居址とみられるものがあつたということであり、おそらく、その時破壊されたものとみられる。また遺物の密集して表面採集されたことより見ても住居址のあつたことは確かといえよう。遺物には縄文中期土器片多數、石ヒ1個、石錐1個、剝片石器1個と黒耀石片は多くみられている。

(8) 杉が洞遺跡

所 在 地 下伊那郡阿智村智里568 (1000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月12日

調査者 大沢和夫、佐藤魅信

#### 調査状況

阿智村智里小野川地区は網掛山塊より東方に向つて下る緩傾斜の台地であるが、この台地を北へ流れる小さい川によつて4つの尾根に分かれている。伏谷神社よりいもう遺跡へづく尾根を小さい沢（杉が洞沢）をへだてた北の小尾根上に本遺跡がある。昭和36年地主の石原喜治氏がこの尾根を削つて畑を拡張しようとした際、地下80mの所に堅穴址と炉址を発見した。炉は80cm四方の石囲いのものであつたという。その際多くの縄文土器や石器が掘り出され今日同氏が保存している。尾根にあつて高燥の地であり、すぐ下の谷間より水が得られる。このあたり中央道が通過するのではないかと言われている。

#### (9) 小野川川端遺跡

所在地 下伊那郡阿智村智里1770～1784 (5000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月11日

調査者 佐藤魅信、大沢和夫、宮沢恒之

#### 調査状況

土地所有者の採集した出土品を調査し、遺跡の時代を決定した。さらに現地を表面採集し遺跡の範囲をたしかめた。山麓にある小台地で、縄文遺跡は開田時住居址が破壊されている。遺物には加曾利Eの深鉢1個体、打石斧、石鎌が多く出土している。石製模造品は非常に数が多く、土地所有者によつてたん念に採集され保管されている。この遺跡は普通畑になつておらず、耕作中の出土品であるとのことであり、遺跡は荒らされていない。今後の開発計画は現在のところない。

#### (10) 原の平遺跡

所在地 下伊那郡阿智村大沢1309—13, 1315, 1336 (6000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月11日

調査者 遠那真周、大沢和夫

#### 調査状況

阿知川と大沢川の合流点より西へ約1軒、北は大沢川の谷に接し、153号線に対する。南方は旧道に沿つて山地が迫り東北に傾斜を示す山麓の小地、標高約620米に位置する。遺跡の現状は、水田と畑の混合地で、出土遺物の量も現在は少ない。出土品には石器、石鎌が多く、土器類は少ない、遺物中に石製模造品があり、神坂峠を通ずる東山道の一つの道筋と推定し得る。立地条件から、水、薪炭豊富で山川の獲物も多く、山地であるが、縄文人の生活に好条件を具備したと察せられる。

#### (11) 鮎ヶ塚遺跡

所在地 下伊那郡阿智村駒場180 (8225m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月11日

調査者 大沢和夫、塩沢仁治

#### 調査状況

江戸時代の中馬街道は阿智村曾山より、高距30m位の坂を上つて同村大沢へと通じている。坂を

上りきつたところの右側に坊塚があり、それより30m進むとこの地に至る。もとここに経5m高1mの墳丘があつたというが今日では全く削平されてしまつて桑畠となつていて昔の面影は全くない。今回の調査でこの畠より縄文土器片を数個地表採集したので、墳丘の作られる以前よりの縄文遺跡であることがわかつた。

#### (12) 坊 塚

所 在 地 下伊那郡阿智村駒場179 (2190m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月11日

調査者 大沢和夫、塩沢仁治

#### 調査状況

阿智川に入る支流大沢川の右岸にそびえる610mの小丘の頂上にある。径15mで高さ2mの円墳の形をしている。全墳丘を石で積んだ形で頂上に石の小祠がある。これは古墳であるとして下伊那史にのせられているが、今度の調査では古墳時代より後の信迎上の造構ではないかと考えられる。旧中馬街道がこの塚の東の低地を通つている。中央道はこの塚のすぐ西を通るから、あるいは工事中これが破壊されはしないかとも考えられる。その際には珍らしい造構なのでその以前に是非発掘調査をしたい。

#### (13) 曽 山 遺 跡

所 在 地 下伊那郡阿智村駒場1899 (3000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月11日

調査者 大沢和夫、宮川美佐雄

#### 調査状況

阿智川の南にある小集落が曾山である。背後に山をもつ平地で、江戸時代は中馬街道に沿つた交通集落であった。今日平地は大部分水田となり僅かに山寄りの所に畑、果樹園が存在している。山に接して曾山神社があり、その東につづく小台地より縄文土器片や黒曜石を発見した。信濃史料1にのつている曾山遺跡とは少し位置がことなるらしいが、土地の人に聞いても不明であるから、これを曾山遺跡とよんでおく。

#### (14) 三 本 木 遺 跡

所 在 地 下伊那郡阿智村大字駒場1679～1714 (25000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月11日

調査者 佐藤慈信、宮沢恒之

#### 調査状況

表面採集によつて調査し、遺跡の台地上一帯より遺物を採集し、遺跡の範囲を確認した。阿智川に北面する台地で、中平、えきの平と遺跡が小さな谷川をへだてて東に続いている。遺物は台地上の一帯に分布し、縄文中期土器小破片多數、打石斧3個、黒曜石片の多くを採集した。土器では新しい時期の小破片を数個採集している。遺跡は桑畠と普通畠が大部分で一部が果樹園で荒らされ跡たは認められず、また、現在開発計画もない。

#### (15) 駒場中平遺跡

所 在 地 下伊那郡阿智村大字駒場1670～1672 (8000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月11日

調 査 者 佐藤恵信、宮沢恒之

#### 調査状況

表面採集によつて調査する。遺物は台地一帯に分布して採集され、ボーリングによつて表土50cmの深さがあり、住居址の存在も予想された。阿智川に北面する山麓の台地で、桑園と果樹園である。遺物は縄文期では前期土器小破片2個、中期土器片多数、打石斧3個、剣片石器(チャート)1個、黒耀石片多数を採集している。また土師器片数個と砥石1個を発見した。現代のところ開発計画はなく、遺跡の保存状態もよい。

#### (16) えきの平遺跡

所 在 地 下伊那郡阿智村大字駒場1640～1660 (15000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月11日

調 査 者 佐藤恵信、宮沢恒之

#### 調査状況

表面採集を主にして調査を行い、地形的に住居址の存在も考えられ、ピット1個を掘り調査したがその確認にいたらなかつた。山麓の阿智川に北面する小台地で桑園と一部水田である。表土は50cmと深く水田を除いては遺跡は荒れていないとみられる。遺跡は縄文中期土器片、打石斧1個、黒耀石片と土師器小破片数個を採集した。現在のところ開発計画はない。

#### (17) 源正平遺跡

所 在 地 下伊那郡阿智村駒場1463-67 (700m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月8日

調 査 者 大沢和夫、石川正臣、小林昭治

#### 調査状況

阿智川にのぞんだ南向きの面で、広くこの地一帯を一ノ沢と呼んでいる。今度の調査によつて発見された遺跡で、縄文時代前期、中期、晚期、土師器、中世陶器片を採集した。

この地を中央道路が通るので発堀調査したい。

#### (18) おち遺跡

所 在 地 下伊那郡阿智村駒場一の沢 (630m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年2月27日

調 査 者 大沢和夫、小林昭治、木下平八郎

#### 調査状況

国道153号線に接して、道より3m高い段上の端にある。縄文土器、土師器、中世陶器を採集している

#### (19) 奥ヶ洞(かなめがほら)遺跡

所 在 地 下伊那郡阿智村駒場1354 (900m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年2月27日

調査者 大沢和夫、小林昭治、木下平八郎

調査状況

要ヶ洞沢の東につづく台地である。大部分が柔畑である。今日の調査によつて発見された遺跡である。縄文土器、須恵器、土師器片を採集している。

(20) 千人塚古墳

所在地 下伊那郡阿智村駒場503(木戸脇)(144m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月11日

調査者 大沢和夫、木下平八郎

調査状況

下伊那野阿智村役場の西方100mの地にある古墳で、12m四方の墳丘を残し、頂上に南無阿弥陀仏の石碑が立つている。付近の畠中より須恵器片・土師器片を地表採集しているので既に盗掘されたのかも知れない。ただこの近くをバイパスが通るというからその際破壊される危険が大きい。保存したいけれども工事上破壊が行われるとしたならその前に発掘調査をして記録保存すべきである。

(21) 宮の脇遺跡

所在地 下伊那郡阿智村駒場1890(600m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年2月27日

調査者 大沢和夫、木下平八郎、石川正臣

調査状況

安布知神社地側、水道浄水タンクを中心とした一帯で、山と山の間にある狭い斜面である。今度の調査で発見された遺跡で、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器片が採集されている。

(22) かぶき塚遺跡

所在地 下伊那郡阿智村駒場160~68(4500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年2月27日

調査者 木下平八郎、石川正臣

調査状況

会地小学校裏側の丘のふもとににある傾斜地で、以前から石器が採集されていた。縄文土器、土師器、須恵器、中世陶器片を今回の調査で採集している。

(23) 五反田遺跡

所在地 下伊那郡阿智村駒場562~570(500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年6月13日

調査者 大沢和夫、塩沢仁治

調査状況

駒場部落の東南につづく所謂関田たんばの東北端に大六川が流れているが、この遺跡はその川にのぞんだ台地の端にある。古くより知られている遺跡で鳥居竪藏はこの地出土の子持勾玉を紹介しているし、下伊那史3巻には古墳のあつたことが記されている。今日では大部分水田となつている

が開田の時に完全な須恵器灰釉陶器が出土し、土地の人々が保存している。今回の調査でも須恵器片土師器片を発見しているので、この地が古墳時代より平安時代まで居住地として利用されていることが確証された。古く東山道の阿智駅と関係をもつものではなかろうか。

#### (24) 京田原遺跡

所 在 下伊那野阿智村春日京田原3292-3341 (200000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10日

調査者 遠那真周、大沢和夫

#### 調査状況

国道153号線の東に沿い、東西400米、南北500米、に位置する。概ね桑園地帯でやや東にくびれ部を持つ小規模な台地。台地の周辺は水田で、南側は水田を距て、阿知川に接し、東部は中間に水田地帯をはさんで前原、中原、下原の台地と相対立する。現状は台地や中央部西寄りにて丸駒産業株式会社の寮が建てられ、特に遺跡の多い部分が、破壊され、寮の西側敷地の一部に住居址が露出し緊急に調査の必要がある。尚京田原と東に対する台地上には阿智高等学校、その隣接地には最近誘致された明和産業株式会社の工場が建設され、その公告が地元農民に影響し現在保償問題が起きている。工場拡張による遺跡破壊も憂慮される。

#### (27) 石子原遺跡

所 在 地 飯田市山本南平3063、4092 (3500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月5日

調査者 大沢和夫、木下平八郎

#### 調査状況

山本小学校南方の小高い平坦面にある。古くから石器が採集されている。

#### (29) 大塚古墳

所 在 地 飯田市竹佐70 (496m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月11日

調査者 大沢和夫、遠那真周

#### 調査状況

飯田市山本竹佐の觀音寺と小さく低地をへだてた南にある。両側に低地を控えた小台地上にある。東西8m南北12mの小円墳であり、東方は久保田氏の墓地となつてゐる。今は高さ2.5mであるが、もとは全部雜木林であり50年前に開墾した時に直刀が出たというから或は既に発掘されたものかも知れない。ただこの塚を横切つて國鉄中津川線が通過するとか聞くから、その以前に発掘調査をしておきたいものである。

#### (30) 白山遺跡

所 在 地 飯田市山本竹佐字白山819-6, 819-131 (2000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10日

調査者 遠那真周、大沢和夫、木下平八郎

#### 調査状況

国道153号線より東方約250~300米の地に展開する台地、標高約600米に位置する。台地は緩傾斜で東方に延び、北側はボーズ沢を経て山本中学校のある台地に続き、西脇は伊奈神社、観音寺の境内に接する。全域桑園に覆われる。遺物は伊奈神社東脇から北側斜面にかけて濃く、東部傾斜地にうすい。高齢で展望よく、古代住居地としては最適地、中津川線はこの遺跡より北西約50~80米の地点を通過し、この線上には大塚古墳があつて、墳丘の近くを破壊する。

(31) 桜 塙 外 遺 跡

所 在 地 飯田市山本東平2238—2239 (4,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10日

調 査 者 遠那真周、大沢和夫、木下平八郎

調査状況

国道153号線の東方凡そ50m、標高約610m、南側は宮沢に沿い、東側は米川に傾斜を示し、東端は旧三州街道によつて切断された狭い地域に位置し、やや北東部に磨滅の著しい土器片を若干採取し得る程度。現状は水田が大部分を占め、墓地、桑園が僅かに存在する。宮沢、米川の中間の小平地だが、水利その他の点から居住好地と考えられる。中央道、中津川線はこの遺跡を南北にはさんで通過する。

(32) 狐 塙 古 墓

所 在 地 飯田市山本東平488—1—22→ (88m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月11日

調 査 者 遠那真周、大沢和夫

調査状況

大明神原扇状地の略南端部、桧沢の右岸で、国道153号線と旧県道の分岐点に沿つて位置する。標高凡そ630m。かつて発掘破壊され、現状は高さ約1~2mの南側壁の一部が残され、他の部は墳地となつて附近に石室の石が散乱し、周辺は墓中に利用されている。東京美術学校を卒業してそのまま手腕を握りその前途を飛躍された市瀬文夫の墓はこの塚の南脇にその墓碑をとどめる。

中央道は墓中の略中央を通過するので、残余の封土の調査が必要と思われる。

二つ山、麦種城跡もこの塚の東方200m以内にある。古墳破壊の際出土したものに直刀、須恵器などあつたというが、所在箇所不明である。

(33) ようじ原A遺跡

所 在 地 飯田市伊賀良中村375~390 (2,100m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月2日

調 査 者 大沢和夫、遠那真周、木下平八郎

調査状況

伊賀良区の南境近く、北側にもつけ川、南側に二ツ山と茶臼山の間を流れる小さい川に狭まれた台地である。古くから遺物の採集が知られており、縄文時代、弥生時代、古墳時代の遺物がある。

(34) ようじ原B遺跡

所 在 地 飯田市中村390 (22,500m<sup>2</sup>)

調査年月日 8月5日6日

調査者 大沢昭夫、伴信夫

#### 調査状況

担当者及び小池和彦・宮下勝美・鼎中郷土班員5名は5日遺跡地の表探を行い広範囲に散布するのを確認、後2班に分れ1班は住居址があつたという部分の試掘を行い、表上下54cmに床面の一部が残存するのを確認し加曾利式の住居址のあつたことを推定した。耕作時に出土した遺物は地主の好意により、下伊那教育委員会考古委員会へ寄贈して頂き一部復元した。国道周辺及びもつけ川より段丘崖上が一番の良い遺跡となるようである。6日地番・地形確認のため伴出動。

当分住宅地にはならないであろうが耕作により破壊される前に発掘調査しておくことが良いと思われる。

#### (35) 桶明遺跡

所在地 飯田市伊賀良中村175～284 (700m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月2日

調査者 今村善興、木下平八郎、宮下勝美

#### 調査状況

中村部落南東方の台地にある。現在は野菜畑となつていて、縄文時代中・後期の遺物を探集している。

#### (36) 桶明古墳

所在地 飯田市伊賀良中村208 (120m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月2日

調査者 大沢和夫、遮那真周

#### 調査状況

久保田修氏宅裏にある円墳で、明治30年墳石室をこわした所、発掘者の妻が発狂したので作業を中止して、石室の石材で石垣を作り、塚の神をまつり、そこえ出土物をうめたといふ。

#### (37) 上の平東部遺跡

所在地 飯田市伊賀良中村287 (450m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月2日

調査者 遮那真周、今村善興

#### 調査状況

中村部落の南東、もつけ川の左岸にある。今回の調査で縄文時代の遺跡として発見された。

#### (38) 寺山遺跡

所在地 飯田市伊賀良中村92—94 (1,250m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月2日

調査者 今村善興、遮那真周

#### 調査状況

長清寺のある台地南端に位置し、今回の調査で発見した遺跡である。打石斧と円形の石製模造品

を採集した。古道に関係のある祭祀遺跡か？

(39) はりつけ原遺跡

所 在 地 飯田市伊賀良三日市場上殿岡大瀬木286付近 ( $30,000m^2$ )

調査年月日 昭和42年8月6日

調査者 大沢和夫、宮下勝美

調査状況

飯田市伊賀中学校より東方1,000m位の地は一面の桑畠、果樹園で、三日市場・大瀬木・上殿岡の区の境にあたる。南と北はやや低く水田となつており、この台地上より縄文前期・中期土器、打石斧、後期弥生式土器、土師器が発見されている。この原の西を中央道が通過し、中津川線もこの原を横断する予定であると聞くので敷地にあたる所は発掘調査したい。

(40) 源氏垣外遺跡

所 在 地 飯田市伊賀良大瀬木4,226～4,303 ( $2,750m^2$ )

調査年月日 昭和42年3月2日

調査者 大沢和夫、松沢成海

調査状況

伊賀良郵便局東方500mの一帯に位置する。古くより縄文時代・弥生時代の遺跡としてしられて いる。

(41) 血原遺跡（知原遺跡）

所 在 地 飯田市大瀬木血原4139 ( $4400m^2$ )

調査年月日 昭和42年8月5日

調査者 大沢和夫、伴信夫

調査状況

8月5日、担当者及び宮下勝美、小池和彦、堀中学校郷土班員5名は本遺跡の表採により遺物の散布範囲を確認するとともに農家の聞き取り調査により、平田陸一氏宅に遺物が保存されているのを知り、遺物を交渉して下伊那教育会考古委員会へ寄贈して頂いた。また4152番地及び4139番地をピット掘り前者では表土が浅く15cmで住居址床面に達し後者はやや深く60cmほどあることを確認した。出土遺物は加曾利E式である。本遺跡の住居址は耕作により急速に荒廃すると思われる所以早急に発掘調査する必要を感じる。宅地に接してはいるがしばらくは農地でいると思われる。

(42) 六反田遺跡

所 在 地 飯田市伊賀良大瀬木4319～43303 ( $900m^2$ )

調査年月日 昭和42年3月2日

調査者 大沢和夫、遠那真周

調査状況

源氏垣外遺跡の東方にあつて、中村部落と大瀬木部落の境界にある。以前から遺物が多く採集されている。縄文土器、石器、土師器がある。

(43) 常垣外遺跡

所 在 地 飯田市伊賀良大瀬木304～310 (1200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月2日

調 査 者 今村善興、遮伊真周

#### 調査状況

佐竹屋敷址東方200mの一帯で、今回の調査によつて発見された遺跡である。縄文土器、石器、須恵器片を採集した。

#### (44) 滝沢井戸遺跡

所 在 地 飯田市伊賀良大瀬木23 (1200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月2日

調 査 者 今村善興、宮下勝美、木下平八郎

#### 調査状況

北方部落と大瀬木部落の間に滝沢井が流れている。その右岸にある。古くより石器が採集されており、近年も土器が出土したという。縄文中期土器、灰釉陶器が採集された。

#### (45) 小堀外遺跡

所 在 地 飯田市伊賀良地方839～865 (9000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月2日

調 査 者 大沢和夫、木下平八郎、今村善興、遮那真周

#### 調査状況

滝沢井と南沢との間にある小高い土地で、桑畠になつてゐるが、最近道路が開かれ、その両側に住宅が建設されつつある。その住宅の周囲に多くの遺物が散布している。今度の調査で発見された遺跡である。遺跡の中央を中央道が通過する予定となつてゐるので、発掘調査がのぞまれる。

#### (46) 三壺窯(みこぶち)遺跡

所 在 地 飯田市伊賀良北方1009 (1050m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月2日

調 査 者 大沢和夫、宮下勝美

#### 調査状況

扇状地が段丘地帯に接するあたりにある。水田地帯の中に残つてゐる桑畠が遺跡である。黒縞石土師器片、須恵器片が出土している。

#### (47) 砂垣外遺跡

所 在 地 飯田市伊賀良北方804, 963,

調査年月日 昭和42年8月5日

調 査 者 大沢和夫、宮下勝美

#### 調査状況

飯田市伊賀良北方の東南端で上殿岡と接する地である。新川の上流である南沢川の北にある桑畠で、斎藤芳市、新井静穂両氏の宅の中間にあたる。地表採集によつて十数片の縄文土器を採集してその時代の遺物包蔵地あることを明らかにしたが、近くを国鉄中津川線が通る予定であると聞く

ので或は破壊される恐れがないとも言えない。

(48) 上金谷遺跡

所在地 飯田市伊賀良地方1274～12822 (100m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月2日

調査者 今村善興、遮那真周

調査状況

国道南側、矢沢喜義宅附近の桑跡で、今度の調査で発見した。遺跡である多數の土師器片を採集した。

(49) 下金谷遺跡

所在地 飯田市伊賀良北方1298—13393 (300m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月2日

調査者 今村善興、遮那真周

調査状況

上金谷遺跡と接する地域で、細田直彦氏宅附近がその中心である。縄文土器、土師器、須恵器片を採集している。

(50) 西ノ原遺跡

所在地 飯田市伊賀良北方377 (500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月5日

調査者 大沢和夫、伴信夫

調査状況

8月5日担当者及び小池和彦、鼎中郷土班員5名は遺跡地の表採を行ない範囲の確認に努め伊藤源一氏畠の未調査の一部を試掘し、表土下40～30cmに遺物包含層のあるが耕作により搅乱されているのを確認した。本遺跡は一部調査を終えたがまだ調査部分の広範囲に残され、当方では貴重な勝板式土器及び平出第三類Aを伴出する遺跡であるところから早急に全面発掘を行い、記録保存する必要があると思われる。

(52)、(53) 天白遺跡(A地点、B地点)

所在地 A：下伊那郡鼎町大字鼎4883

B：“ 4900 (12400m<sup>2</sup>)

調査年月日 8月4日 5日 19日

調査者 大沢和夫、伴信夫

調査状況

8月4日、伴はA地点を表採し加曾利E出土地点を確認した。5日担当者及び鼎中郷土班員はA地点周辺の遺物の採集を行い、B地点で多量の土師・須恵片を得た。8月19日B地点を伴及び鼎中郷土班員20名により表採及び試掘し表土(黒土)が40cmでその下部に遺物包含層のあるのを確認した。B地点は中央道センターラインにそつて広がりており完全に破壊されるため工前に全面発掘を行う必要を感じる。散布範囲、採集量からみて数軒の住居址が発見されるものと思われる。A地

点は水田及び畠でまだ住宅地にはならないと思われる。

(54) 桜瀬古墳、大塚古墳

所在 地 下伊那郡那町大字484 (540m<sup>2</sup>)

調査 者 大沢和夫、伴信夫

調査年月日 昭和42年8月24日25日

調査状況

24日、担当者は遺跡地を実地踏査し古墳の現状及び聞き取りにより出土遺物を調査し、罪小に保管されている直刀等をみた。25日、伴及び那中郷土班員20名は遺跡地周辺の表採を行なつたが、須恵器小片を僅かに得たのみであつた。遺構の遺存状況は極めてわるく桜瀬古墳が僅かにその形骸をとどめるのみであるが石室の半分はまだ未発掘であるとの地主の説明であつた。この地点は材木置場になるなど住宅適地でもあるため、できれば早急に調査する必要がある。B地点大塚古墳は殆んど破壊されているが石室の石の一部が残存するとのことで周囲も宅地で囲まれているため残存する遺物を確認するため至急調査する必要を感じる。

(55) 森上原遺跡

所在 地 飯田市上飯田1155—1190 (60000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月2日

調査 者 木下平八郎、伴信夫

調査状況

表面採集により調査し、縄文土器片。打石斧。石鎌。弥生土器片を採集した。台地上で南は段丘崖下に松川が流れている。東は標高崖20mひくいところに椎現堂遺跡がある。遺物は縄文早期の押型文(横円)土器片。波線文薄手土器片。黒耀石石鎌を4箇。加曾利E式土器片。打石斧。黒耀石破片を多く採集した。又太い条痕文の土器片1箇がある。

弥生期では座光寺原式土器片が採集されている天白山社の裏に住宅が出来ているので、今后団地として開発されそうである。土地の人に石鎌の出土するところを聞くと必ず森上原と答へる。団地造りの時は工事前に調査が必要である。

(56) 権現堂A遺跡

所在 地 飯田市上飯田709—1 より 1055 (30000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月2日

調査 者 木下平八郎、佐藤更生信

調査状況

表面採集より調査し、遺跡は広範囲であり、遺物を縄文から灰釉にいたる大遺跡であることを発見した。台地上で南は段丘崖下に松川が流れている。遺物は縄文期の加曾利E式が多く。弥生期は後期中島式を採集している。古墳期では土師器片。須恵器片。灰釉片を発見した。表土は深く50cm以上あり、多くの住居址の存在が予想される。遺跡の東側は中央道の路線となつておらず、工事前に充分なる調査が必要である。

(60) 古家塙外遺跡

所 在 地 飯田市上飯田丸上6585 (2000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年2月28日

調査者 大沢和夫、木下平八郎

#### 調査状況

風越山麓に発達した扇状地上にある。現在は果樹園となつていて。今度の調査で発見した遺跡で土師器片を採集している。

#### (61) 堤 遺 跡

所 在 地 飯田市上飯田6756～6750 (20000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月2日

調査者 佐藤甦信、木下平八郎

#### 調査状況

表面採集によつて弥生後期土器片、土師、須恵器片を採集した。新発見遺跡のため土地所有者に話をきき、こどもの採集した遺物を調査し、弥生後期中島式の遺跡であることを確認し、ピット1個を掘り調査したが住居址の確認にいたらなかつた。舌状台地にあり、南側は果樹園で表採物は少なく北側の野菜畑に多くみられた。遺物には弥生後期中島式の鉢の口縁部をもつものと胴部の大きな破片があり、小破片が多い。土師、須恵器の小破片も数個採集したが時期は不明、地形的みて数個の住居址の存在が予想される。現在のところ開発計画はない。

#### (63) 高田 古 墳

所 在 地 飯田市上飯田518(通称高田)(180m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月2日

調査者 大沢和夫、木下平八郎

#### 調査状況

10年前の高田古墳は両側に水田があつたが、その中に長さ50m幅20m位の小丘陵があり、その上に竹林が生い茂り、その一端に小さいながら墳丘らしいものがあつた。それが昭和36年6月の大水害ですつきり様子をかえてしまつた。上流から夥しい土砂を運んで来て、その小丘陵がわからぬ位になつてしまつた。その後の改修工事によつて水田が開かれ今日では水田中に15m×12の矩形の地と化してしまつた。檜の小さい森となり小さい祠の外はすべて高田氏一族の墓地となつてゐる。数十年前発掘されて直刀や須恵器の出土したという話だけを残している。

#### (65) 柏原 A 遺 跡

所 在 地 下伊那郡上郷村別府2の15 (600m)

調査年月日 昭和42年8月1日

調査者 大沢和夫、佐藤甦信

#### 調査状況

飯田市街の西北にある柏原は古い時代の扇状地であり、ロームがその上を覆つており、今日畑や果樹園として利用され、大根の特産地として知られている。この扇状地の中央に湧水があそりが蛇が轍の谷を作り、谷底には崖であるが水田が営まれている。本遺跡はその湧水に近い扇状地の

端にあり、眺望の極めて良い所である。この地の調査に上つた時に夕立に襲われ、一番奥の下島三造氏の家で雨やどりしつつ、同家に保管されている弥生式後期の甕や石器類を調査できた。石器や石斧は多く同家の中学生下島千明君の採集になるものであつた。この日西郷独標では深志高校生の遺跡があつたのであつた。

#### (65) 柏原 B 遺跡

所在地 飯田市上飯田4675—164687—2 (32000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月2日

調査者 木下平八郎、佐藤勝信

#### 調査状況

表面採集により調査し、縄文土器の小破片と、黒煙石、チャートを多く発見した。扇状地の突端部に遺跡があり、遺物は縄文期であるが小破片のため時期の決定はしかねる。石器3箇を採集している。チャート片も多く採集されており、石器の器型から縄文前期のものとみられる。

現在のところ開発計画はないが、今后注意すべき遺跡である。

#### (66) 八幡原 遺跡

所在地 下伊那郡上郷村上黒田3425~3460 (4200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月1日

調査者 大沢和夫、遮那真周

#### 調査状況

上黒田の八幡社は上黒田区の西の小高い崖錐の上にあるが、その西につづく台地が本遺跡である。これは古くより知られた縄文時代の遺跡であるが、その後灰釉陶器の完全なものが出土している。灰釉陶器の出土した地点は或はその頃の墓地であつたかも知れない。桃畠や野菜畑の中を地表採集して縄文土器片や打石斧、石錘等を得た。この地のことは近くの玉本虎男氏がよく知っている。

#### (67) 赤坂 遺跡

所在地 下伊那郡上郷村上黒田3046のイ (3000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月1日

調査者 大沢和夫、佐藤勝信、木下平八郎

#### 調査状況

10数年前開田作業中に発見されたものが本調査によつて明らかになつたものである。開田時の話によると堅い赤土の面があり、その部分に炭や灰があり土器が出土したという。扇状地で現在水田であり、遺跡は破壊されているが、一段高い畑地には住居址をもつものとみられる。遺物は弥生後期（中島式）変形の頸部片、カメ形頸部片と小破片多数があり、弥生後期の住居址であつたことは確かである。この他、開田時縄文（加曾利E式）土器の小破片が出土している。

#### (68) 上黒田畠中遺跡

所在地 下伊那郡上郷村上黒田2914 (890m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月1日

調査者 大沢和夫、佐藤勝信、木下平八郎

### 調査状況

表面採集によつてはじめて発見された遺跡で、ボーリング調査によると表土は20cmで下は堅いが、住居址の確認はできなかつた。扇状地の水田地帯にある畑で、かつては水田であつたところを野菜畑にし、リンゴを植えた所である。地主の話によるとリンゴを植える時、表土のすぐ下は石が多いといつており、開田の際、荒らされた遺跡といえる。遺物は少なく縄文中期の土器片3個を採集したのみである。開田時地形的にみて住居址があつたものと予想される。

### (69) かじ 墓外 遺跡

所在地 下伊那郡上郷村上黒田3232~3235 (3500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月1日

調査者 大沢和夫、木下平八郎

### 調査状況

米の原の陣がつるねの間より流れ出す桶ヶ洞川は新らしい扇状地を形成した。この扇状地は傾斜は4°位であるやかに東方へ下つていて、大部分は桑畠と果樹園となつておるが、そこが本遺跡である。今回も暑い日にこの桑園の中を歩いて多くの土器片と石器を採集できたから、本遺跡は相当に大きいと推定されている。ただ鳥居竈藏氏の下伊那の先史及び原史時代図版の地図にはこの地点に社宮司原と名がつけてあるがこれは誤りで、社宮司原は県道飯田飯島線の東にある。

### (70) 五本木 遺跡

所在地 下伊那郡上郷村上黒田2742~2746—4 (9000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月1日

調査者 大沢和夫、佐藤魅信

### 調査状況

表面採集を主とし、ボーリング調査を行う。扇状地の水田地帯の中にある畑地で水田であつたとはみられない。遺物は縄文の無文の底部、胴部片を発見したが時期は判別しかねるが中期後半以後のものである。遺物の数は少ないが表土50cmあり、住居址があるものと考えられる。現在のところ開発計画はない。

### (71) 梶 畑 遺跡

所在地 下伊那郡上郷村上黒田3137—4 3165—1 (10800m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月1日

調査者 大沢和夫、佐藤魅信

### 調査状況

表面採集を主とし、ボーリング調査を行い、表土50cm以上あり、住居址の存在も予想されたがその確認にいたらなかつた。扇状地上の果樹園帯で、表面採集によつて縄文中期土器片と、弥生中期とみられる土器片を各一個片に無文土器片、打石斧1個（縄文期）を採集したのみであるが、新発見の遺跡であり、表土が深く、未だ荒らされていない遺跡であり、住居址の存在も考えられる。現在のところ開発計画はないが、開発が行われる場合は調査が必要である。

### (72) 上黒田社宮司遺跡

所 在 地 下伊那郡上郷村上黒田2700～2706一戸 (90000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月1日

調査者 大沢和夫、佐藤麿信、木下平八郎

#### 調査状況

表面採集を主として行う。今まで社宮司遺跡とされたのは、カジ垣外地域で本調査によつて明らかにされたものである。広い扇状地上にあつて、果樹園、野菜畠と桑畠であるが、雑草が多く遺物の採集に困難だつた。遺物は縄文前期とみられる小破片2個であるが、磨滅して判明しがたいが、僅かに縄文を残し、薄いものである。遺跡は広範な範囲にわたるものとみられる。地形的に住居址の存在も予想される、現在、開発計画はないが今後、住宅団地、または工場地になる可能性も強く工事の際は調査が必要。

#### (73) 米の原頂上(人焼場) 遺跡

所 在 地 下伊那郡上郷村上黒田米の原飯田市座光寺812 (380m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月1日

調査者 大沢和夫、佐藤麿信

#### 調査状況

8月の暑い日、この扇状地を調査した。大部分は果樹園でしかもその樹の下には草を茂らせており、麦わらを敷いたりしてあるので、調査しにくかつた。漸く扇状地の扇頂に達した。海拔670mここに住む中島正治氏の言によれば農道を作る時に多くの土器が出たとのことであつた。その言われた地点付近を調査したところ黒曜石の破片を多く採集できた。この近くに一本杉の大木があり、遠くより目印になるが、神村透氏は高校生時代にここより早期縄文土器片を探集している。長野県の遺跡台帳に人焼場付近とあるのは此地点と同じである。今は火葬場はない。

#### (74) 宮崎 A 遺跡

所 在 地 飯田市座光寺6の42～6の77 (36000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月3日

調査者 塩沢仁治、今村善興、佐藤麿信、小池和彦

#### 調査状況

飯田市座光寺字宮崎の共同選果場に午前9時集合、調査員の外に中学生(豊丘中学校)4名各高等学校生徒2名の応援を得、片端より押して行くことにし、最初に土曾川以南、飯島飯田線以西の地帯を調査す。中央道中心線附近を塩沢、高校生1名、学生1名、中心線以東を佐藤、高校生1名、中学生2名、中心線以西を今村、小池、中学生2名にて調査す。同地帯は、桃、20世紀梨の畑にて収穫栽培の畑もあり、かかる畑は調査困難、桃の収穫期にて熟した桃果頭上に実つていた。住民に聞き尋ねながら調査「この地帯には遺物は出ない」と言うが、中心線附近、北端部、等にて遺物を発見土曾川宮崎橋附近に集合討合させて遺跡を確認す。10時終了

#### (75) 宮崎 B 遺跡

所 在 地 飯田市座光寺18の3、30の1、31の1、562の3～570の8 (13500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月3日

調査者 今村善興、佐藤麿信、塙沢仁治

調査状況

C地区を終わり土曾川宮崎橋を渡り、橋のたもとより、左側の坂道を登ぼり、愈々問題の大門原遺跡と地続きの地帯へ入る。木蔭にて一休みしてから、A地区のように中心線附近を塙沢組、中心線以東を佐藤組、以西を今村組が担当す、中心線を抗打ちがしてあり図上の見当をつけるに大変わかり易く有がたい、佐藤組担当の地区は、荒地あり雜木林あり、住宅も多く、しかも一段低いため連絡に困難す。1時間後、大門原遺跡B地区的南端附近に落ち合い、採集遺物を出し合い、地図上に地点を記入し、遺跡を確認す、結局、最初の頃に採集したのみにて、途中には無し。昼食になつたので、秋葉様上の雜木林で昼食をとることにし、道々中心線より東の地帯を調査しながら移動す。

(76) 宮崎C遺跡

所在地 飯田市座光寺592~613 (6000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月3日

調査者 今村善興、佐藤麿信、塙沢仁治

調査状況

A地区を終つた同勢全員にて、当地区を調査す、佐藤組・今村組は南方より、塙沢組は北方より始む、日も高くなり暑さも増して来る。水田地帯もあり、叢生栽培地もあつたが比較的狭い地帯であるので30分程にて終了。遺跡を確認し地図に記入する。

(77) 大門原A遺跡

所在地 飯田市座光寺40~45、85~101、60~76、111~146 (72000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月3日

調査者 今村善興、佐藤麿信、塙沢仁治、小池和彦

調査状況

る大久保遺跡より、山の神を通り南に向いA地区西端の道路より、南東に向い調査を始む。途中道路上にて打製石斧片を三片採集す、例の如く、中央を塙沢組、それより北側林道までを佐藤組、南側を今村組にて、扇状地の上より下に向つて調査す、統々石斧、土器を採集、A、B地区的境の道路上にて、一旦遺物の採集地を地図上に記入整理し、更に下り、中央道通過地点まで至る。そこで又遺物を整理・話し合いの結果、先に大久保遺跡調査の時、林道北側の遺物散乱地をも含めて、大門原遺跡と言つた方がよくはないか、その中を分割して、A・B・C地区と呼称するように話し合う更に最後に我された地点中心線より下、県道ぞいまで調査す。

(78) 大門原B遺跡

所在地 飯田市座光寺81~84183~250 (64000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月3日

調査者 今村善興、佐藤麿信、塙沢仁治、小池和彦

調査状況

記述A遺跡に含む。

### (79) 大門原C遺跡

所在地 飯田市座光寺955～973 (80000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月3日

調査者 今村善興、佐藤麿信、塩沢仁治、小池和彦

#### 調査状況

中央道中心線より、県道まで調査す、県道ぞいは民家多くその裏は竹林、果樹園等が樹の中に入り、調査不能、僅かに公民館横道路上にて盤型打製石斧を発見す。しかし中心線より東南下の斜面より多数の遺物を各所にて発見す。公民館庭に集合、大門原遺跡について協議した結果、4地区に分割することにし、山の神より、A・B・Cと当地点まで下がり、林道をはさんでその両側南北の地帯をDと決定す。

### (80) 大門原D遺跡

所在地 飯田市座光寺151～160、1235～1237、1308の3～1308の40 (66000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月3日

調査者 今村善興、佐藤麿信、塩沢仁治、小池和彦

#### 調査状況

C地区まで調査した結果当地区を大門原D地区と決定する。

### (81) 井下横古墳

所在地 飯田市座光寺1279のn (230m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月3日

調査者 今村善興、佐藤麿信、塩沢仁治、小池和彦

#### 調査状況

昼食後少休止、元気恢復して、全員で古墳調査に向く、県道飯島飯田線へ出て行く、畦道を10m西にはいつた所、桃樹中に小墳丘あり。前面に小さきはこらが祭つてある。附近にて、土師器片、須恵器片を採集、遺物の大部分は、土地所有者代田弘司所蔵すると聞くが見学していると残された地籍の調査が出来ないということで、それは後にゆずり墳丘の実測を行つたのみで次の行動に移る佐藤氏により古墳の現状を写真撮映す。

### (82) 北並木遺跡

所在地 飯田市座光寺1238～1284、1243～1245の2 (21600m<sup>2</sup>)

調査日 昭和42年8月3日

調査者 今村善興、佐藤麿信、塩沢仁治、小池和彦

#### 調査状況

昼食後一休みしてから、井下横古墳に全員向う、古墳調査を終つてから、全員にて西に向い調査す、本沢井まで行つたら、集合することにし、中央を主に塩沢組、北を佐藤組、南を今村組が担当梨畑桑園普通畠あり、日が照りつけ暑さをきわむ、以外に遺物多く張合いがあつた、道路上に集合採集地を地図上に記入し、遺跡の印を記入確認す

### (83) 大久保遺跡

所在地 飯田市座光寺1308の47～1308の64 (48000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月3日

調査者 今村善興、佐藤勉信、塩沢仁治、小池和彦

#### 調査状況

北並木遺跡を終り、大久保地帯へ向う、中心の道路附近を塩沢組、それより南林道迄を今村組北を佐藤組が担当、西の山の神方面に向つて調査を始める。日光は照りつけ愈々暑く、途中の家にて水筒に補給しながら進む。途中にて、ちょいちょい遺物を拾う、桃取護中の人々に、断わりながら行くも嫌な顔をされることあり。終点、山の神の南東東の荒地の赤土採取したあとより土器片を発見。携帶用スコップにて、附近の採取跡を掘り崩したところ、加曾利E式土器11点を採集す、大島川への断崖端なり、採集した遺物を整理し、採集地を地図に記入、遺跡の範囲について話し合い確認する。

#### (84) 弓矢遺跡

所在地 下伊那郡高森町牛牧725から742 (11200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月4日

調査者 今村善興、佐藤勉信他9名

#### 調査状況

この扇状台地において表面調査の結果、土師器片4片、打石器3点を採集した。この遺跡は今回の調査によって発見されたものである。遺物の分布量は少ないが、水田も多く不詳の所も多い。中央道予定路線内に半分入つているので注目したい遺跡である。

#### (85) 牛牧新原遺跡

所在地 下伊那郡高森町牛牧810～18701 (9500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月4日

調査者 今村善興、佐藤勉信他9名

#### 調査状況

段丘上台地を中心に表面採集調査を行なつたが全体的に遺物の散列は少なく、繩文式中期土器片打石斧、黒曜石を採集した。從来打石斧出土の遺跡として紹介されている所であるが、今回の調査の結果、繩文中期を主体とした遺物包含地であることがわかつた。

#### (86) イナバ遺跡

所在地 下伊那郡高森町牛牧1302～1320 (18700m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月4日

調査者 今村善興、佐藤勉信他9名

#### 調査状況

段丘上台地の表面採集調査を中心1320番地内でピットを掘り、繩文加曾利E式土器片、打石斧石錐、石鏃、黒曜石片、弥生式土器片を採集した。台地上全面に遺物の分布は多く、特に繩文中期を主体とした遺跡である。耕土40cm、遺物包含層は30cm～50cmくらいの所に多い。

#### (87) 牛牧上平遺跡(赤板)

所 在 地 下伊那郡高森町牛牧51472101～2104 (8000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月4日

調査者 今村善興、佐藤麿信他9名

#### 調査状況

段丘上突端部を表面採集調査をした。果樹園が多く、ロームの露出も多く遺物の出土は少なかつたが、縄文中期土器片打石器、石鏃、黒耀石片を採集した。從来から包含地として知られていたが土質、地形から包含は少ないと思う。

#### (88) 無縁堂遺跡

所 在 地 下伊那郡高森町牛牧2524～2535上市田31～46 (92000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月4日8月6日

調査者 今村善興、佐藤麿信他9名

#### 調査状況

この扇状地全体を表面採集を中心とした調査を実施した。弥生式後期の土器片、打石斧、古墳期の土器片多数採集した。特に33番地内において、深さ60cmの所で瓶片(大型)を採集した。この一帯は1Km四方以上にわたった遺物散列地で、集落址の公算大であり、路線予定線が遺跡の中心であるので、工事着工前に調査を必要とする所である。

#### (89) 鐘ヶ原A遺跡

所 在 地 下伊那郡高森町牛牧2559～2632 (57500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月4日

調査者 今村善興、佐藤麿信他9名

#### 調査状況

扇状地下段の広い地域と表面採集を中心とした調査の結果、縄文中期加曾利E式土器片、後期掘之内式土器片、打石斧、石鏃黒耀石、弥生式の打石斧、土師器片、須恵器多数採集した。上段に鐘ヶ原B遺跡、北東部に天伯堂遺跡、西南部に神堂垣外、無縁堂遺跡と連なる遺跡地帯であり、詳細調査を必要とする所と思う。

#### (90) 鐘ヶ原B遺跡

所 在 地 下伊那郡高森町牛牧2543～2558、2634～2639

調査年月日 昭和42年8月4日

調査者 今村善興、佐藤麿信他9名

#### 調査状況

広い台地上一帯遺物の分布が多いので、表面採集調査の他 2633番地内でピットを掘った。その結果織維を含む土器片、縄文前期、中期後期土器片多数の他、打石斧、石鏃、弥生式土器片、土師器片多数を採集した。上段には縄文早前中期、中段には縄文早前中後期と弥生中後期、下段は縄文中期から土師器にいたるまで極めて土器の分布が多く、一大集落址である。特に北東の天伯堂、東南の鐘ヶ原B遺跡と共に詳細調査を最も必要とする遺跡である。

#### (91) 神堂垣外遺跡

所 在 地 下伊那郡高森町上市田1～16 (52900m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月4日

調 査 者 今村善興、佐藤魁信他9名

#### 調査状況

この地域一帯を表面採集を中心とした調査を実施し、縄文中期土器片、石皿、打石斧、土師器、須恵器片を採集した。上部は桑園だが下部は水田の多い低地であるがその割に遺物の分布は多かつた。東側に鐘鉢原の台地、西南側の無縫堂遺跡にはさまれた所で3遺跡とも予定路線があるので、詳細調査を是非必要とする所と思う。

#### (92) 大 墳 古 墳

所 在 地 下伊那郡高森町上市田612 (160m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年3月2日

調 査 者 今村善興、塩沢仁治他10名

#### 調査状況

墳丘計測と周囲の調査をした結果、須恵器片4片を採集した。墳丘上に伊勢神社社殿が立てられ現状変更の心配はない。

#### (93) 伊勢神社付近遺跡

所 在 地 下伊那郡高森町牛牧2785～2791 (22400m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月1日

調 査 者 今村善興、塩沢仁治他10名

#### 調査状況

この一帯は果樹園、住宅地で調査困難な所が多かつたが表面採集調査の結果、縄文中期土器片、打石斧、黒耀石片、土師器、須恵器片を採集した。全体的に遺物の分布は少ないが、上段鐘鉢原、天伯堂遺跡との関係から注意する必要のある遺跡である。

#### (94) 高 見 古 墳

所 在 地 下伊那郡高森町上市田603 (250m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月2日

調 査 者 今村善興、塩沢仁治他10名

#### 調査状況

墳丘周囲の計測他 遺物採集を試みたが発見されなかつた。墳丘上が社地となつており、現状変更の心配はない。

#### (95) 讓 摩 堂 遺 跡

所 在 地 下伊那郡高森町上市田440～440、602～603 (22900m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和24年8月2日

調 査 者 今村善興、塩沢仁治他10名

#### 調査状況

古墳の位置を確認した一方周辺地区の表面採集調査をした結果、縄文中期加骨利E式土器片、石錐打石斧、石錘、弥生式、石庖丁、土師器片、須恵器片多数を採集した。この遺跡内には3基の古墳

を持ち、上部の鉢鉄原に続く重要な遺跡と思う。

(96) 天伯堂遺跡

所在地 下伊那郡高森町牛牧2664-1~711 (52500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月4日

調査者 今村善興、佐藤勝信他9名

調査状況

大島山林道派いのやや低い部分は、土砂のかぶりが多いが、表面採集の結果、縄文後期土器片、弥生後期土器片、土師器片多数が採集された。上部(予定路線から300mほど上)の天伯堂、付近の荒地一帯には押型文土器、中期初頭型式、勝坂式、加曾利E式、堀之内式土器片の出土が多く、西南の遺跡と深い関連を持つ所と思う。路線予定地にかかわり、大島山林道も改修されることになると思われる所以精査を必要とする所である。

(97) 瑞鏡寺前遺跡

所在地 下伊那郡高森町大島山462~855 (103600m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月2日

調査者 今村善興、塩沢仁治他10名

調査状況

この一帯は水田地帯が多く調査不能の所が多かつたが、田の間に残る畠に縄文中期土器片、打石斧、石鎌、土師器片、須恵器片多数採集した。從前から遺跡として注目されていたが、現地は水田地帯でその間に散在する畠には土師器を中心にして遺跡の分布が多く広域にわたって、集落の密集が予想される所である。

(98) 大島山東部遺跡

所在地 下伊那郡高森町大島山889~1047 (78000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月2日

調査者 今村善興、塩沢仁治他10名

調査状況

この地帯は東西に長い扇状地下段台地で水田が多い所で詳細調査はできなかつた。水田の間に散在する野菜畠、果樹園には縄文中期土器片、打石斧、弥生北原式、中島式土器片、土師器片、須恵器片が多數散在していたことがわかつた。この地域も水田開発が早く、畠は少ないので遺跡の全貌を知ることはできなかつたが、残つてゐる畠の中には遺物分布の多い所も各所にあり、集落の存在の可能性の強い所である。

(99) 赤羽根遺跡

所在地 下伊那郡高森町吉田1~7出原505~509 (47600m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月2日

調査者 今村善興、塩沢仁治他10名

調査状況

傾斜地を利用した果樹園が主で、表面採集が困難であつた。国道上では弥生式北原式土器片と土

師、須恵器片、園道下には縄文中期土器片、打石斧、黒耀石の出土が多かつた。従来までは打石斧出土だけの遺跡であつたが、縄文中期から弥生、土師にいたるまでの複合遺跡である。特に弥生、土師器片の出土の多い所は、予定路線の中央にかかる。

#### (100) 出原南原遺跡

所在地 下伊那郡高森町出原29~67

調査年月日 昭和42年8月2日

調査者 今村善興、塩沢仁治他10名

##### 調査状況

表面採集調査を中心にして調査をした結果、加曾利E式土器片、打石斧多数、石鐵、石皿のはか、弥生式の有肩打石斧を探集した。全域に分布しているが特に67番地内には非常に多く出土しており、下段、古城本城に連なる遺跡と思う。

#### (101) 出原東部遺跡

所在地 下伊那郡高森町出原174~194、218~234 (60000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月2日

調査者 今村善興、塩沢仁治他10名

##### 調査状況

表面採集調査を中心にして調査を実施した。全域に分布をしているが、特に東地区へ行く程多く、弥生中期北原式、後期座光寺原式、土器片、打石器が多く、土師器片、須恵器片が多数採集された。全域にわたって弥生、古墳期の遺物が多く、上段出早神社付近、東の追分辻墓遺跡と深い関連を持つ重要な遺跡と思う。

#### (102) 出原西部遺跡

所在地 下伊那郡高森町出原78~85、443~4823 (3000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月2日

調査者 今村善興、塩沢仁治他10名

##### 調査状況

段丘崖に近い傾斜地で、果樹園の多い地帯であるため、表面採集調査が困難であつたが3箇所に、縄文式打石斧、黒耀石、土師器片の出土の多い所があつた。上記のような地形で、分布の状態が不詳の所が多いが、東側の出早神社は付近遺跡の関係の深い遺跡と思う。

#### (103) 出早神社付近遺跡

所在地 下伊那郡高森町出原212~215, 436~442

調査年月日 昭和42年8月2日

調査者 今村善興、佐藤聰信他10名

##### 調査状況

出早神社を中心にして段丘崖下扇状地には果樹園が多く表面採集が困難な所が多かつたが、神社上と神社東に特に分布が多い所があつた。採集置物は早期押型文土器片、繊維を含む土器をはじめ、縄文中期の土器片、打石斧、黒耀石、弥生後期土器片、土師器片、須恵器片多数が採集された。従来か

ら縄文早期土器片の出土遺跡として注目されていたが、その他に弥生後期古墳期の土器片も多く、特に弥生土器片の多い所は予定路線下にあり、上段の正木原、東下段の追分辻裏遺跡と特に関係の深い遺跡で重要遺跡である。

#### (104) 正木原 I 遺跡

所在 地 下伊那郡高森町大字山吹2130～2197 (9000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8日

調査者 佐藤麿信、宮沢恒之

#### 調査状況

表面採集を主とし、ピット1個をほり調査したが住居址の確認はできなかつた。今まで正木原遺跡として広範囲にわたつており地形的にみてI、II遺跡とわけることにした。扇状地の尖端部にあり、北側は田沢川によつて切られてい。遺物は縄文中期後半のものが多く、打石器、石鐵が発見されている。弥生では中島式の土器片が発見されており土師器片の出土もみている。遺跡の中央部を中央道の路線となつてゐる。いままでの出土品からみて重要な遺跡で工事前の調査が必要である。

#### (105) 正木原 II 遺跡

所在 地 下伊那郡高森町大字山吹2160～2173 (225000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8日

調査者 佐藤麿信、宮沢恒之

#### 調査状況

表面採集を主とし、ピット1個を掘り調査した。扇状地で広範な遺跡で、時代を先縄文とみられる細刃器が発見されており、本調査によつては押型文土器片3個を採集しており、中期後期の土器片は非常に多く、打石器、石鐵も多く、重要な遺跡である。現在、開発計画はないが、中央道は遺跡の下をとおり、附帯工事も考えられ、その時には調査が必要である。

#### (106) 追分 遺跡

所在 地 下伊那郡高森町大字山吹744～749 (辻裏) (30000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8日

調査者 佐藤麿信、今村善興

#### 調査状況

表面採集を主とし、ピット1個を掘り調査したが住居址は確認できなかつた。土地所有者が以前果樹園を作つた時、住居址があつたといわれ多くの出土品を持つてゐる。扇状地で、北は田沢川によつて切れ、東に北林、中島、丸山の遺跡が続いてゐる。遺物は縄文中期の各期にわたる土器片、石器類を出土しており、土偶頭部2個も発見されている。後期(加曾利B)の往口土器1個体は下伊那郡唯一のものである。弥生では中期、後期の土器片が発見されており、磨石鐵、磨石斧、石包丁も出土している。土師、須恵器片も表面採集されており、開発の予定はないが遺物の豊富さと、後期の遺跡としては下伊那では重要なものである。

#### (107) 畠久保 遺跡

所 在 地 下伊那郡大字山吹2921, 3~2931, 2 (3200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8日

調査者 佐藤赳信、今村善興

#### 調査状況

本学神社の北東の谷のゆるやかな斜面にある小地域にある跡で、本調査によつて始めて発見された遺跡である。遺物は土師の小破片のみであり、表面採集を主として採集したものである。地形的にみて住居址の存在は予想されがたいが、本格的調査によらねば確定されない。

現在、遺跡の開発計画はない。

#### (108) 神田裏遺跡

所 在 地 下伊那郡高森町大字山吹3101~3105 (22100m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8日

調査者 佐藤赳信、宮沢恒之

#### 調査状況

本調査によつてはじめて発見された遺跡であり、表面採集によつて黒耀石片多数発見し、ビット1個を掘り調査したが、住居址は認められなかつた。扇状地で新田部落と越田部落の境の地域で、南東に傾く傾斜をもつてゐる遺物は黒耀石片のみ多く採集しているが、他のものは無く時代は縄文期とみられるがその時期はわからない。中央道路線に遺跡の大部分があたつており黒耀石片が多いところよりみて、時代的に興味ある住居址の発見が予想される。

#### (109) 新田南遺跡

所 在 地 下伊那郡高森町大字山吹3119~8464 (50000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8日

調査者 佐藤赳信、今村善興

#### 調査状況

表面採集を主にし、かつて石鎚の採集地にビット1個を掘り調査したが住居址は確認されなかつた。山吹新田部落の南にある南面の台地である。遺物は台地一帯にあるが北側に多く分布している。縄文中期の土器片が多く、打石斧も多い。打石ヒ1個、石鎚1個を本調査で採集したおり、弥生後期土器片、打石器1個を採集した。地形的にみて住居址の存在も予想される。現在、開発の予定にないが注意すべき遺跡である。

#### (110) 新田西遺跡

所 在 地 下伊那郡高森町大字山吹7692~8337 (49500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8日

調査者 佐藤赳信、宮沢恒之

#### 調査状況

表面採集によつて縄文土器片、石器、土師器片を採集し、ビット1個を掘り調査する。表土は裏山よりの山崩れによるかぶさりが多く、遺物の量も比較的少なかつた扇状地と一部は山麓にあつて、山崩れのためのかぶさりが多く表土は深い。遺物は遺跡の北側に多く分布しており、山麓の諏訪神

社横より土師器片を発見した。出土品は縄文中期破片と打石斧2個、黒曜石片数個で量的には少ないが、表土の深さからまだ荒らされていない遺跡とも見られ、中央道は遺跡の中央部を通るようになつており、工事の際に注意が必要と思われる。

#### (111) 新田東裏遺跡

所 在 地 下伊那郡高森町大字山吹8644~8459 (120000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8日

調査者 佐藤魅信、今村善興

#### 調査状況

今まで果樹園を作る際に縄文中期土器、石皿、石棒、石器類を多く出土している。本調査では、表面採集を主にして行い、多くの遺物を採集した。傾斜のゆるい扇状地で、遺物は全域にわたつて多い。果樹園をつくる際の話のようすでは住居址があつたことが確認され、遺物も多い。遺物は縄文（加曾利E）土器片多数、石皿3個、石棒1個、磨石斧、打石斧、石鎌、石ヒ、石錘など多く出土をみている。弥生（中島式）土器片、打石器、磨石鎌、石包丁等の弥生期の石器の出土をみている。現在、開発予定はないが重要な遺跡である。

#### (112) 新切I遺跡

所 在 地 下伊那郡高森町大字山吹7709~8838 (90000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8日

調査者 佐藤魅信、宮沢恒之

#### 調査状況

昭和38年5月に開田作業中に住居址が発見され発掘調査の結果12個を発見している。本調査は未調査部分を調査し、ビット1個を掘り住居址を1個発見している。扇状地で遺跡は北側に密度が大きい。住居址は現在13個が確認されているが、山林中にも数個の住居址の存在が予想される。遺物は縄文中期後半の加曾利Eの土偶のはば完形のもの1個体と6個の土偶片が出土しており、完形に近い深鉢2個と多くの土器片と多数の打石斧と石鎌等多数の遺物をもつている。中央道は遺跡の中心部とおり、工事前の十分なる調査を必至とする。

#### (113) 新切II遺跡

所 在 地 下伊那郡高森町大字山吹8319~8334 (5,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8

調査者 佐藤魅信、今村善興

#### 調査状況

表面採集を主とし調査し、遺物の採集は多く、今まで新田原遺跡に一括されていたが、地形的にみて切りはなし、地域も新切であるため本遺跡名を決定した扇状地で遺物も多く、遺跡全域に分布している。遺物は縄文加曾利Eで多数の土器片が採集された。その他打石斧、石鎌、黒曜石片が多く発見されている。現在のところ開発計画はないが、注目すべき遺跡である。

#### (114) 二軒屋遺跡

所 在 地 下伊那郡高森町大字山吹8261~8293 (3,6000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8日

調査者 佐藤赳信、今村善興

#### 調査状況

表面採集によつて多くの土器片、石器を採集したが、果樹園が大部分で、草もあり採集には困難した。扇状地で、遺物は遺跡の全域に分布している。縄文後期の土器片（壺之内式とみられる）が多く発見された。打石斧多数、石鎧1個、黒耀石片多数を採集するが、表土が深く、まだ住居址の発見はないが、地形的にみてその存在は予想される。現在のところ開発計画はないが、注目すべき遺跡である。

#### (115) 川子石遺跡

所在地 下伊那郡高森町大字山吹7745～7752 (18200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8日

調査者 佐藤赳信、宮沢恒之

#### 調査状況

表面採集を主とし調査し、遺物の比較的少ないため、ボーリング調査をした。扇状地で寺沢川にそつた北側にあり、遺跡の西には渡瀬遺跡がある。表土は60cmあり、いままで荒らされていないとみられる。遺物は、縄文中期土器片と打石斧2個、黒耀石片多数を採集している。地形的にみて住居址の存在を予想される。中央道が遺跡を横切るため、工事の際は十分なる調査が必要と思われる。

#### (116) 渡瀬遺跡

所在地 下伊那郡高森町大字山吹7720～7400,85 (51,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月8日

調査者 佐藤赳信、宮沢恒之

#### 調査状況

終戦時開拓の行なわれたところで、開拓當時山吹公氏館、飯田中学郷土班によつて発掘されており、2個の壁穴住居址が発見され、その他住居址とみられるものは數か所があり、縄文期後半を中心とするが、土師器のつぼ1個も発掘されている。本調査では表面採集を主とし調査し、多くの縄文土器片と石器類を採集した。

扇状地で寺沢川の北側にそつて遺跡はある。住居址についてのプランは調査が十分に行われなかつたため不明である。遺物は縄文土器（加曾利E）深鉢2個、橢形土器1個、つり手土器1個、石器類多くが発掘され、重要遺跡であるが、造田作業、果樹の植え替え等で住居址の破壊が予想される。

#### (117) 里見I遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字島里見1797他 (8100m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤赳信

#### 調査状況

里見遺跡群の西端、上部（傾斜地のため）に位置し遺跡全体が南に緩傾斜していて立地条件には恵まれた遺跡の一つと言える。大正末年来の開拓により、現在は果樹園及び宅地の造成が進んでおり、特に果樹特有の深耕による施肥などにより、かなり遺跡の破壊が進められている。遺物包含はかなり濃密で、過去耕作中に発見された遺物に、縄文中期加曾利E式土器片多数、それに伴出したものと考えられる石棒、石鎌、打製石斧など各種石器が発見されている。そのうち石鎌が多数土地所有者清水良美氏により保管されているが、他は多く散逸している。

#### (118) 里見 II 遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島8132他 ( $7200m^2$ )

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤魁信

#### 調査状況

里見 I 遺跡の東方に位置し、果樹園、宅地、道路にまたがつており、また中央自動車高速道路の予定線が遺跡の東端を通過していて建設が始まれば、遺跡はほとんど消滅してしまうものと思われる。過去農耕中、または土地所有者などによる採集遺物に、縄文中期加曾利E式土器片多数、打製石斧、石鎌などがある。付近を含めて観察すれば、大島地区、庚申原、中原遺跡群が北方に、また南方に高森町渡瀬、新切等当地方に於ける代表的な縄文中期遺跡群に挟まれたところに位置し、東方に天竜川を遠く臨む景勝の地でもある。中央道開発の計画もあり、適切な対策を望む。

#### (119) 里見 III 遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島里見8210他 ( $5100m^2$ )

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤魁信

#### 調査状況

里見台地の一一番東方、低地で、南側は水田地帯となり、遺跡全体が里見 I、II 遺跡の位置する里見台地の南方へ緩傾斜する面に存在する。遺跡は南側の水田地帯へも広がっているように思われるが、水田のために確認はできていない。現在は果樹園になつておらず、他の里見遺跡群同様果樹園特有の施肥のための深耕が毎年繰りかえされ、破壊がかなり進んでいる。主な出土遺物に、縄文中期加曾利E式土器片及び石鎌があるが、遺物の埋蔵量はすくなく他の里見遺跡群に比較して早急特別な保存対策の要を認めない。

#### (120) 里見 IV 遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島里見7909—2他 ( $3150m^2$ )

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤魁信

#### 調査状況

里見台地の背稜部ほぼ中央に位置し、遺物の包含層は最もうすく、耕作による搅乱が著しい。遺構は未発見であるが、中学生などによる採集遺物を中心としその総量はかなりある。主なものに先縄文時代の小形両面加工のポイント、縄文中期加曾利E式土器片、打製石斧がある。特筆すべきに、

飯田地方に於ける先繩文時代の數くない遺跡の一つであることが上げられる。また遺跡の保存状態が、前述の如く台地の背稜部のためと耕作のためにきわめて悪い状態に置かれていること、中央自動車高速道路の予定線がすぐ東を通過しており建設が始まればおそらくは消滅するだらうことを憂う。適切な保存対策を切に望む。

#### (121) 里見 V 遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島里見7895—3他 ( $4620\text{cm}^2$ )

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤勝信

#### 調査状況

里見IV遺跡の東側に位置し、南北に比較的広範囲に延びて、北側に川を境に中原I遺跡と対している。里見台地の中央であり、里見遺跡群のほぼ中心になる。ほとんどが果樹園となつておらず、果樹園特有の施肥のための深耕により、遺跡はかなり破壊されつつある。遺構発見はまだないが、遺物の包含状況からみて、かなりの数の住居址などの埋蔵が予測される。発見遺物の主なものに、先繩文時代の小形両面加工のポイント、繩文中期加曾利E式土器片、それに伴出する各種石器、弥生式後期中島式土器片などがある。また中央自動車高速道路の予定線が遺跡のほぼ中央を通過しており、建設が始まれば遺跡の破壊は必至、適切な保存対策を切に望む。

#### (122) 里見 VI 遺跡

所在地 長野県下伊那郡那川町大字大島8000—27他 ( $850\text{cm}^2$ )

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤勝信

#### 調査状況

里見遺跡群中の最北端に位置し、北側に境の沢川をのぞみ、東に緩傾斜して中原II遺跡に対している。標高69cm前後である。遺跡は果樹園と一部宅地にかかり、東西85m南北10cmの広がりを持つている果樹園が大部分を占めており、毎年の果樹園特有の深耕による施肥のためかなり搅乱が進みつつあるのが現状。遺構の発見はまだないが、かなりの量の遺物が発見されており、付近の小学生らにより分散、紛失が著しい。主なものに加曾利E式土器片、打製石斧がある。早急開発の計画もなく、特別な対策の要は認めない。

#### (123) 境の沢 遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島里見6461—2他 ( $750\text{cm}^2$ )

調査年月日 昭和42年8月7日

調査者 宮沢恒之、佐藤勝信

#### 調査状況

現状は原野が大部分を占め、中原遺跡群と里見遺跡群の境を流れる境の川に面した小遺跡である。過去の調査により、この地帯では数くない弥生式の遺物が発見されており、その意味からは貴重な遺跡の一つと考える。原野の続きが一部三州街道となつておらず、その道路敷のあたりまで遺物が散布しているが、現状変更は当分計画されておらず、特別の対策の要は認められない。

#### (124) 中原 I 遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島中原2620他 (600m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤魁信

##### 調査状況

当方纏文中期の代表的遺跡中原遺跡群の最東端に位置し、大正末期以来の開拓によりかなりの量の遺物が発見されている。出土遺物の主なものには、縄文中期勝坂式、加曾利E式土器片多数と、それらに伴う打製の石器類である。開拓以来果樹園、宅地化がかなり進み、耕作による遺跡の破壊がかなり進行している。また中央自動車高速道路建設の予定路線が、遺跡の東端を通過する計画が進められており中原遺跡群全体の所見などから考え、当遺跡の価値はかなり高いものを持つている。完全な保護乃至は完全な記録保存対策が望まれる。

#### (125) 中原 II 遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島2666他 (19000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日

調査者 宮沢恒之、佐藤魁信

##### 調査状況

当方纏文中期の代表的遺跡群、中原遺跡群の中心部に当たる重要な遺跡である。大正末年来の開拓により、果樹園、宅地化がすすみ、過去円形プランの縄文中期加曾利E式期の竪穴住居址一基を発見、調査が行なわれている。遺跡全体の様子からの所見として、その立地、遺物の出土状況などからまだかなりの住居址が埋蔵されているものと思われる。

出土遺物の主なものに、勝坂式、加曾利E式土器片多数、それに伴出する各種の石器類が発見されている。中央自動車高速道路計画に伴い、その予定線が近くを通つており、適切な保護対策が望まれる。

#### (126) 中原 III 遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島中原2,692—2他 (6,750m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤魁信

##### 調査状況

当方纏文中期の代表的な遺跡の一つで、中原遺跡群の両端に位置する。大正末年来の開拓により、遺跡の中心は果樹園、宅地の造成がかなり進み、その度に縄文中期勝坂式、加曾利E式土器片及びそれに伴う石器類が発見されている。遺構等は検出されていないが、隣接する中原II遺跡発見の住居址などに関連する遺構の埋蔵の可能性はきわめて高く、当方の縄文中期文化解明の手がかりり秘めた遺跡であることにはまちがいない。尚当分の間地目変更、開発の計画もなく、早急特別な対策の要は認めない。

#### (127) 庚申原 I 遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島庚申原2,559—1他 (19,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤麿信

#### 調査状況

当方縄文中期の代表的な遺跡、庚申原遺跡群の東端に位置し、沢一つで中原遺跡群と対している。過去耕作中に縄文中期竪穴住居址二基を発見し、調査が行なわれた。出土遺物の主なものは縄文中期勝坂式、加曾利E式土器片多数、伴出した各種石器類も多量であった。畑、宅地、道路の造成が進行中であり、また中央自動車高速道路の予定線が西方50mの地点を通過しており、破壊される可能性を含めて大である。遺跡の価値から是非とも適切な保存対策が望まれる。

尚出土遺物は大部分土地所有者、水野義昭氏により保管されている。

#### (128) 庚申原Ⅱ遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川字大字大島2,591—1他 (39,100m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤麿信

#### 調査状況

当方縄文中期の代表的な遺跡、庚申原遺跡群のはば中央に位置し、過去耕作中に二基の住居址と思われる遺構を検出したが、調査はされないままになつてある。出土遺物の量かなり多く、また質的にもかなり貴重なものと考えられる。主なものは勝坂式、加曾利E式土器及び土器片多数、各種石器類がある。果樹園、菜園になつており、耕作による遺跡の破壊が進みつつあり、また中央自動車高速道路の計画予定線が遺跡のはば中央を通過する予定であり、是非適切な保存対策が望まれる。出土遺物は土地所有者、水野義昭氏により保管されている。

#### (129) 庚申原Ⅲ遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島庚申原2,600他 (2,800m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤麿信

#### 調査状況

庚申原遺跡群の最高部、庚申原台地の西端に位置し西側は境ノ沢川にせまり標高は約680mである。台地の背後部が果樹園になり、東側は開田されたため、果樹と土地所有者の宅地の部分が遺跡として残された。庚申原遺跡群中にあつては、最も遺物包含のすくない地点ではあるが、他の庚申原Ⅰ、Ⅱ遺跡との関連もあり、貴重な遺跡であると思われる。主な発見遺物は、縄文中期加曾利E式土器片及び打製石斧、黒曜石片で、遺物の大部分は水野義昭氏が所有保管している。

#### (130) 南桑遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島南桑1332他 (14400m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤麿信

#### 調査状況

庚申原台地が西上方の池の平段丘崖に接する所が当遺跡である。遺跡全体は東に緩傾斜し標高

700m前後で比較的高い。遺物包含量はさして多くはないが、広範囲にわたって散布している。遺構は未発見。遺物の主なものに、縄文中期勝板式、加曾利E式土器片、石鏸、打製石斧、磨製石斧がある。遺跡は果樹園、宅地にかかり、特に果樹園にあたる所は施肥のための深耕により、かなり搅乱されつつある。早急特別な対策の要は認めないが、西方の池ノ平の観光地化が進められており、道路の改修などの計画が立ち次第適切な保存対策が必要となろう。

#### (131) 平林遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島平林985—989他 (42900m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤魁信

#### 調査状況

松川町大島地区北部の大島遺跡の一大遺物包含地であり、またそのうち神社領となつてゐる地帯は過去一度も開拓されたこともなく、ほぼ完全な状態で遺跡が残されている。広範にわたり、従つて本来ならば二つに遺跡を分割、区別した方が適切かも知れないが、前述の如く神社領域がほぼ中央に位置し、西方に縄文前期、中期の遺物を、また東方に古墳、平安時代の遺物を多く出土させるものであり、神社領域が深い針葉樹林帶で、石器を発見して居り、区分し難く従前の呼称範囲に従つた。中央自動車高速道路予定線が神社領のほぼ中央を通過する計画であり、適切な保存対策が望まれる。

#### (132) やし原遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字大島717—イ721—3他 (32000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤魁信

#### 調査状況

平林遺跡に北隣し、大島地区の最北端に位し、上片桐地区を別ける片桐松川の氾濫による土砂をかなりかぶつており、比較的良好な状態で保存されている。過去農耕中に良好な縄文式土器一個体分を採集した記録があり、今回の採集では縄文後期土器片、剣片石器、打製石斧、土師器片などを検出することができた。現在は果樹園が主で耕作による破壊が進み、また中央自動車高速道路の予定線が、遺跡の西方を通過しており、過去の出土遺物などからして、住居址等の遺構の埋蔵されている可能性は大であり、中央道の建設が始まれば遺跡の一部消滅は必至である。適切な対策を望む。

#### (133) 有平遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字上片桐1597—8他 (6830m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤魁信

#### 調査状況

上片桐地区の西端、片桐松川を見下ろす台地上に位置して、標高700m前後を示す。現在は果樹園、水田、宅地になつておらず、果樹園の部分は施肥のための深耕によりかなり遺跡の部分は施肥の

ための深耕によりかなり遺跡が破壊されつつある。包含遺物の種類は比較的多くなるらしく、過去の採集遺物中むなものに繩文中期勝坂式、加曾利E式土器片同じく中期土偶、石鎌、加曾利E式土器片、同じく中期土偶、石鎌、打製石斧、磨製石斧、敲石、石匙、石鍤などがある。現在松川北小学校郷土室に保管されている。

#### (134) 称子山遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字上片桐1597他 (16800m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤麿信

#### 調査状況

有平遺跡に北隣し、一段と高く台地の背稜部に位置する。遺跡の西方はすぐ木曾山麓に続き、東方はるか彼方に天竜川を臨む景勝の地である。大正末年来の開拓により、果樹園、宅地などになつているが、特記すべきに、宅地造成時に地主牛久保棟一により住居地らしきものが二基発見されている。一つは繩文中期加曾利E式土器片多数と、石棒、凹石、磨製石斧、石鎌等を出し、一つは平安灰釉陶器の完全な杯一を含む多數の破片を出したとのことである。現在では灰釉陶器杯1、磨製石斧1、石棒1、凹石1が地主のもとに保管されている。当地方唯一の灰釉杯であろう。

#### (135) 片桐神社東遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字上片桐1563他 (1,2000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤麿信

#### 調査状況

雨ヶ沢川の形成した中荒町扇状地の最上端に位置し、東へ緩傾斜しながら広がる扇の要に当たり、標高720m、東西150m、南北50mに遺跡が広がりを持つ。多少の土砂をかぶり、菜園の部分はかなり搅乱が著しい。遺構の発見はまだないが、雨ヶ沢川を越えた称子山遺跡の遺構などと関連して、住居址など遺構の埋蔵の可能性は大である。主な出土遺物に、繩文中期勝坂式土器片、弥生後期の中島式土器片、古墳以降の土師器片などがある。特に繩文期勝坂式土器片は小量ではあるが、当上片桐地区では貴重なものである。従つて、特に勝坂式土器層を出す遺跡上端部は、適切な保存対策が必要であろう。

#### (136) 西原遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字上片桐438他 (750m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤麿信

#### 調査状況

かつてはかなり広範囲に遺物の散布を見たというが、開田化、宅地造成などが進み、東西35m、南北20mの小範囲にしか遺物の散布が認められない。野菜畑が中心で耕作により搅乱され、ほとんど消滅した感じがする。遺構は未発見で主な遺物に繩文中期加曾利E式土器片がある。過去にはかなりの遺物を発見した様子であるが、(地主の話)現在ではほとんど残されていない。小遺跡であ

り、遺物の包含量もすくなく早急特別な対策の要は認めない。

(137) 水上遺跡

所在地 下伊那郡松川町上片桐1192 (8000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10日

調査者 大沢和夫、宮下勝美

調査状況

松川町上片桐地区の西方にある847mの高畠山の北より流れ出す小川の作った扇状地に立地している。この扇状地は傾斜10°位で東南に傾いている。高燥の地で今日大部分は梨畑となつていて、開拓の時にかなり多くの石器が出土したと言われるが今日その所在は明かでない。今回の調査で縄文土器や黒煙石片を採集したがあまり大きい遺跡ではなさそうである。しかし中央道の工事によつて掘り下げた場合は或は豊富な遺物に出会うかも知れない。

(138) 丈源田I遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字上片桐1,106他 (20000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤馳信

調査状況

丈源田扇状地の西南端に位置し、東西20m、南北80mをかぞえる比較的小規模な遺跡である。扇状地形のため、かなりの土砂をかぶつているらしく、遺物の散布状態を見るに、遺跡はあまり擾乱し破壊が進行していないものと思われる。縄文中期加曾利E式土器層、打製石斧を発見したのみであり、他の遺跡、遺構の埋蔵状況は不明である。果樹園、菜園、宅地になつていて、前述の如く、かなりの土砂が覆つてあり、保存状態良好と認めるもので、早急特別な対策の要は認めない。

(139) 丈源田II遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字上片桐477他 (10,000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤馳信

調査状況

丈源田扇状地の頂点、最高部に位置し、標高740mをかぞえる。西方はすぐ木曾山麓に接し、東方にはるか天竜川を望む景勝の地である。過去地主北原忠次により宅地造成の際に居址と思われる遺構を発見したというが、確認はされていない。宅地以外の地点からの遺物の発見量はすくないことなどからして、中心は宅地付近と思われ、中心部は宅地造成時にすでに破壊されてしまつたのはないかと思われる。発見遺物の主なものに、縄文中期加曾利E式土器片多枚、各種石器類が多量に発見されたというがほとんど現存しない。

(140) 丈源田III遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字上片桐1098—2他 (1,9000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤馳信

### 調査状況

丈源田扇状地のほぼ中央で、標高720mをかぞえる。大正末年來の開拓後、ほとんどが果樹園、宅地になつており、また東方へ緩傾斜する。扇状地のため宅地造成時にはかない切りくずしがされ、果樹園の部分は施肥のため深耕により、かなり攪乱し、破壊がすでになされているものと考えられる。しかしそれ以外の菜園の部分などはかなりの土砂が覆つており、遺物が遺構等の保存状態は比較的良好であろうと思われたる。主な発見遺物に縄文中期土器片、打製石斧がある。

#### (141) 丈源田IV跡遺

所在地 長野県下伊那郡松川町大字上片桐541—1他 (5600m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月7日 9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤勝信

### 調査状況

丈源田扇状地の一番東方・標高700mで丈源田遺跡群中最も低い。東西80m、南北70mの範囲に遺物が散布しているが、菜園・果樹園の開発が古く、ほとんど消滅されたものと考えられる。遺構も未発見。遺物の量もすくないが、主なるものに縄文中期加曾利E式土器片、それに伴うものと考えられる打製石斧がある。前述の如く、開発のためにすでに破壊されたものと思われる所以、早急特別な対策の要は認められない。

#### (142) 吉原I跡遺

所在地 長野県下伊那郡松川町大字上片桐385—4他 (2700m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤勝信

### 調査状況

吉原台地東方に位置し、標高740m、東西60m、南北40mの比較的こじんまりとした遺物の散布状態を示す。多くが菜園となつており、深耕などによる遺物包含層の攪乱が著しい。遺物包含層はうすいが、発見されたものの量は小破片であるが、かなりの量にのぼる。また遺物散布状態からみて散布量の濃淡がはつきりしており、住居址など遺構の埋蔵の可能性大である。遺構の確認はなされていないが、古墳時代以降のものがほとんどで、土師器片、須恵器片は小破片ながら多量に発見されている。

#### (143) 吉原II跡遺

所在地 長野県下伊那郡松川町大字上片桐301他 (4400m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤勝信

### 調査状況

吉原台地の一番高所で、標高725mをかぞえる。台地の南斜面が遺跡で東西80m、南北55mの範囲に遺物が散布する。現在はほとんどが果樹園となつており、果樹園特有の深耕による施肥などかなり荒れている。また包含層比較的うすく、発見された遺物も少量である。主なるものに縄文時代の石塚、打製石斧、古墳時代の土師器片、須恵器片がある。包含層のうすいことかなり荒れてい

ること遺物の量のすくないことなどから、早急特別な対策の要は認められない。

(144) 並木遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字上片桐112—1他 (1500m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10日、9月3日

調査者 宮沢恒之、佐藤勉信

調査状況

閑原台地の南縁に当たり、多くを昭和10年前後に行われた開田工事のために消滅させたが、宅地、畠地として残された所が、本遺跡である。標高700mで、東西35m、南北50mと比較的のせまい範囲にかぎられている。開田の際にからりの量の遺物が発見されたとのことであるが、現在はほとんど現存されない。現存する遺物は大部分松川北小学校に保管されているが、縄文中期が加曾利E式土器片及びそれに伴出する思われる打製石斧がある。前述のように、開田の際ほとんどが消滅し、また現存する遺跡の内容から見て、早急特別な対策の要は認められない。

(145) 閑原Ⅰ遺跡

所在地 下伊那郡松川町上片桐3の6～8 (18000m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年2月8日

調査者 佐藤勉信、宮沢恒之

調査状況

表面採集を主とし、草のない畠のみの採集であったが、遺跡全域にわたって分布するものとみられた。扇状地で北は前沢川に面しており、遺物が多い。縄文中期後半の土器片、打石斧3個を採集し、土師器片数片と、灰釉陶器の底部と胴部の1片を発見している。地形的にみて住居址の存在も予想される。遺跡は比較的保存はよいとみられる。中央道路線の近くであり、調査が必要とみられる。

(146) 閑原Ⅱ遺跡

所在地 下伊那郡松川町上片桐47 (1200m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10日

調査者 佐藤勉信、宮沢恒之

調査状況

表面採集による調査であったが、遺物は小範囲にかたまつてあり、住居址があつたものとみた。扇状地の果樹園地帯の中に新しい果樹園で独立した地形にある。遺物は縄文（加曾利E）土器片多数と石鏃1個、打石斧1個、黒煙石片数個が採集されている。果樹園を作る際に遺跡がある程度くずされたものとみられる。

(147) 閑原Ⅲ遺跡

所在地 長野県下伊那郡松川町大字上片桐21他 (5259m<sup>2</sup>)

調査年月日 昭和42年8月10、9月2日

調査者 宮沢恒之、佐藤勉信

調査状況

関屋原台地の最高位に存在し、標高740m前沢川南岸で、当上片桐地区の北端に当たり東西75m、南北70mの広がりを持つ。過去宅地、水田の造成の際かなりの量の遺物を検出したが、現在ではほとんど採集できない。遺跡の約半分が宅地、水田でのこりがたばこ烟であり、このたばこ烟はあまり荒れていないように観察した。造構は確認されていないが、出土遺物の主なものに、縄文中期加曾利E式土器片多数、それに伴うと思われる打製石斧、黒耀石片多数がある。地主などによる現状変更等の計画はなく、早急特別な対策の要は認められない。

